国際交流事例集

令和３年
３月発行

東京都教育委員会
Tokyo Metropolitan Board of Education

はじめに

多様な国や地域の人々と共に未来を切り拓いていこうとする態度・能力を育成するためには、児童・生徒が、同年代の生徒間交流による異文化理解を促進しながら、豊かな国際感覚を醸成していくことが重要です。

一方で、国際交流の推進にあたっては、多くの学校が交流の意義を認めつつも、国際交流先になり得る海外の学校等の情報がない、学校の教員だけでは交流先を探す余裕がない、英語等で相手校と交渉することが難しいなど、様々な課題がありました。

こうした課題を克服し、全ての学校で自校に合った多様な国際交流を実現できることを目指し、東京都教育委員会ではこれまで、カナダのブリティッシュ・コロンビア州、オーストラリアのクイーンズランド州及びニュー・サウス・ウェールズ州、ニュージーランド、台湾の台北及び高雄、タイ、北京、パリの各教育行政機関と教育に関する覚書を締結し、連携して交流相手先を紹介し合ったり、交流機会を設けてきました。加えて平成３０（2018）年１０月には、国際交流に関する学校向けのワンストップサービスとして、「国際交流コンシェルジュ」を創設しました。

「国際交流コンシェルジュ」は、都内公立学校と海外の学校との国際交流の窓口となり、交流可能な海外の学校情報を一元化し、閲覧できるデータベースの開発・運用や、国際交流に係る相談対応、学校に代わって、希望する交流先との連絡や交渉等を行っています。

こうした取組を通じて、これまで、メッセージカードの交換、オンラインを活用した対話、在京大使館との交流、学校訪問等、多様な交流活動が実現しています。特に、新型コロナウイルス感染症の影響により、海外渡航や教育活動が抑制される中においても、いくつもの学校で、オンラインも活用しながら、学びを止めない、交流を止めない取組が行われています。

今後、更に多くの学校に、充実した交流活動を広めていくためには、様々な交流事例を情報提供することが重要と認識し、このたび、主に「国際交流コンシェルジュ」を活用して交流を実践された学校に御協力頂き、本事例集を作成しました。

東京都教育委員会では、引き続き、変化に迅速に対応しながら、学校の国際交流活動を支援してまいります。新型コロナウイルス感染症の影響により、海外渡航等が抑制されていますが、オンラインの活用等、様々な工夫による交流が考えられます。本事例集も参考にしていただき、「国際交流コンシェルジュ」も御活用いただきながら、多くの学校で、多様な交流が実現されることを期待します。

令和３(2021)年 3月

東京都教育委員会

目次

手紙・カードやメールの交換

1 利島村立利島小学校
台湾の小学校とのグリーティングカード交換 …… 8
2 葛飾区立東金町中学校
台湾の中学校とのグリーティングカード交換 …… 10
3 足立区立青井中学校
アメリカの中学校とのオンラインでのグリーティングカード交換 …… 12
4 都立第四商業高等学校
①アメリカ、フランス、タンザニアの中・高生との文通
②文通校の国の大使館による講演会 …… 14
5 都立足立特別支援学校（知的障害）
アメリカの特別支援施設とのグリーティングカード交換 …… 16
6 武蔵村山市立雷塚小学校
アメリカの学校とのグリーティングカード交換 …… 18
7 都立田柄高等学校
オーストラリアの学校とのグリーティングカード交換 …… 18

オンライン交流

1 新宿区立四谷第六小学校
オーストラリアの小学校とのビデオチャット交流 …… 20
2 大田区立小池小学校
アメリカの小学校とのオンライン「フリップグリッド」を使った交流 …… 22
3 あきる野市立増戸小学校
台湾の小学校とのビデオチャット交流 …… 23
4 文京区立林町小学校（特別支援学級）
アメリカの小学校との「フリップグリッド」を使った交流とカード交換 …… 24
5 国分寺市立第一中学校
ポーランドの学校とのビデオチャット交流 …… 26
6 都立本所高等学校
ポーランドの学校との 2 回のビデオチャット交流 …… 27
7 都立日比谷高等学校
グローバルリーダー育成研修のためのオンライン交流 …… 28
8 都立立川ろう学校（聴覚障害）
台湾のろう学校とのビデオチャット交流とカード交換 …… 30
9 八王子市立由木東小学校
オーストラリアの小学校とのビデオチャット交流 …… 32
10 八王子市立打越中学校
ポーランドの学校とのビデオチャット交流 …… 32

在京大使館等との交流

1 板橋区立高島第六小学校
欧州連合（EU）代表部職員による学校訪問 …… 34
2 豊島区立池袋第三小学校
トルコ共和国大使館大使による学校訪問 …… 36
3 世田谷区立塚戸小学校
各国大使館等への折り紙送付プロジェクト …… 37
4 目黒区立不動小学校
モルドバ共和国大使館大使・大使夫人・外交官による学校訪問 …… 38
5 文京区立文林中学校
アルバニア共和国大使館への訪問 …… 39
6 渋谷区立鉢山中学校
①チェコ共和国大使館外交官による学校訪問
②日本チェコ協会による学校訪問、ダンス交流 …… 40
7 都立成瀬高等学校
マレーシア大使館外交官による学校訪問 …… 42
8 都立葛飾商業高等学校
パレスチナ常駐総代表部による学校訪問（食文化交流） …… 44
9 都立江東特別支援学校（知的障害）
中華人民共和国大使館外交官による学校訪問 …… 46

海外の学校等の訪問受入

1 杉並区立杉並和泉学園
中国の小学校からの訪問受入 …… 50
2 豊島区立西池袋中学校
香港教育局からの訪問受入 …… 52
3 都立桜修館中等教育学校
インドネシアの中学校からの訪問受入（2 日間） …… 54
4 都立農業高等学校
フランスの職業訓練校からの訪問受入（3 日間） …… 56
5 都立大田桜台高等学校
アメリカの高校からの訪問受入 …… 58
6 都立青山特別支援学校（知的障害）
台湾の特別支援学校（高等学校）の訪問・交流 …… 60

海外派遣（学校訪問等）

1 都立三鷹中等教育学校
台湾での「日台高校生サミット」への派遣 …… 62
2 都立町田工業高等学校
ベトナムへの海外派遣（スタディツアー） …… 64

姉妹校提携

1 都立大泉高等学校附属中学校
ニュージーランドの中学校との姉妹校締結 …… 68
2 都立大泉高等学校附属中学校
ニュージーランドの中学校との手紙交換 …… 69
3 都立飛鳥高等学校
姉妹校交流（パートナーシップ協定締結及びその後の交流） …… 70

姉妹校提携締結の際の協定書例【英語】 …… 72
姉妹校提携締結の際の協定書例【日本語】 …… 73
姉妹校提携締結の際の協定書例【中国語】 …… 74
姉妹校提携締結の際の協定書例【韓国語】 …… 75
姉妹校提携締結の際の協定書例【フランス語】 …… 76

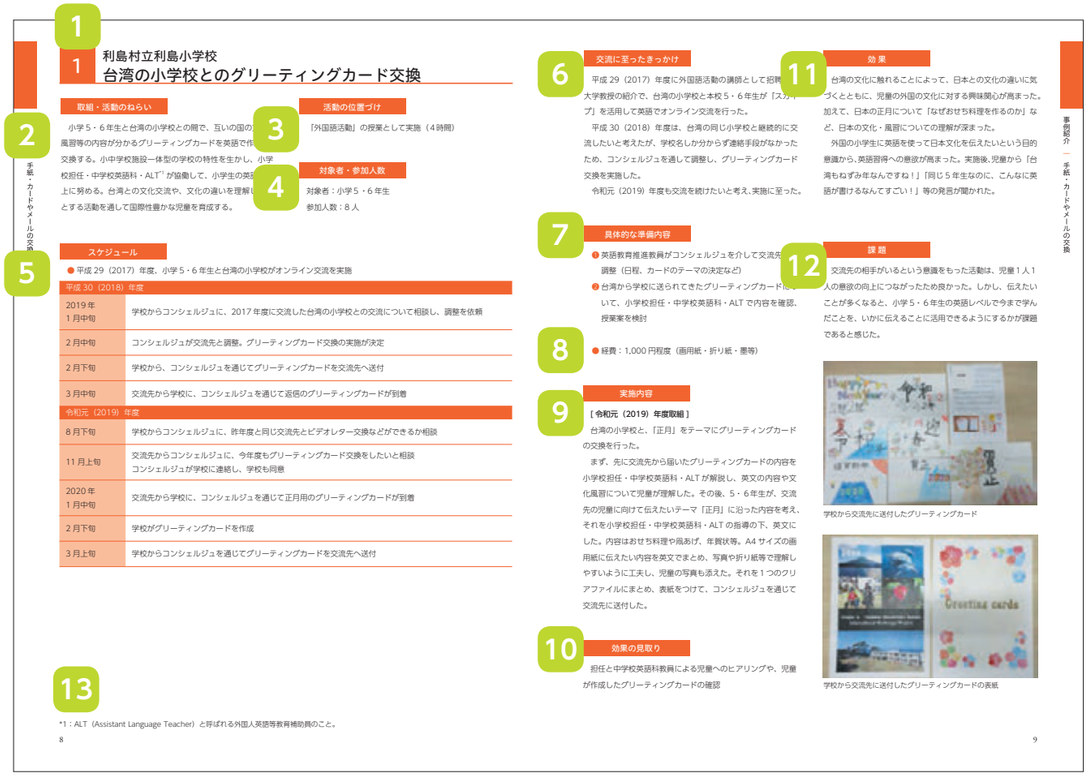
国際交流の一般的なルール

配　席 …… 78
旗 …… 78
通　訳 …… 79
服　装 …… 80
敬称・呼称 …… 80
贈り物・記念品 …… 82
給食・会食 …… 83
英文レターの作成 …… 84
英文メールでの連絡調整 …… 86
季節の挨拶 …… 88
イスラム圏の方々への対応 …… 89
大使とは …… 91
交流先を自校にお迎えする時のモデル例 …… 92
交流先とオンラインミーティング等をする場合の留意点 …… 93

国際交流コンシェルジュ

国際交流コンシェルジュについて …… 94
国際交流コンシェルジュの役割 …… 95
東京都国際交流支援システム …… 97

事例集の見方



1 利島村立利島小学校
台湾の小学校とのグリーティングカード交換

取組・活動のねらい
小学５・６年生と台湾の小学校との間で、互いの国の風習等の内容が分かるグリーティングカードを英語で作成し交換する。小中学校施設一体型の学校の特性を生かし、小学校担任・中学校英語科・ALT[1] が協働して、小学生の英語力の向上に努める。台湾との文化交流や、文化の違いを理解しようとする活動を通して国際性豊かな児童を育成する。

活動の位置づけ
「外国語活動」の授業として実施（4 時間）

対象者・参加人数
対象者：小学５・６年生
参加人数：8 人

スケジュール
● 平成 29（2017）年度、小学５・６年生と台湾の小学校がオンライン交流を実施

平成 30（2018）年度	
2019 年 1 月中旬	学校からコンシェルジュに、2017 年度に交流した台湾の小学校との交流について相談し、調整を依頼
2 月中旬	コンシェルジュが交流先と調整。グリーティングカード交換の実施が決定
2 月下旬	学校から、コンシェルジュを通じてグリーティングカードを交流先へ送付
3 月中旬	交流先から学校に、コンシェルジュを通じて返信のグリーティングカードが到着
令和元（2019）年度	
8 月下旬	学校からコンシェルジュに、昨年度と同じ交流先とビデオレター交換などができるか相談
11 月上旬	交流先からコンシェルジュに、今年度もグリーティングカード交換をしたいと相談 コンシェルジュが学校に連絡し、学校も同意
2020 年 1 月中旬	交流先から学校に、コンシェルジュを通じて正月用のグリーティングカードが到着
2 月下旬	学校がグリーティングカードを作成
3 月上旬	学校からコンシェルジュを通じてグリーティングカードを交流先へ送付

*1：ALT（Assistant Language Teacher）と呼ばれる外国人英語等教育補助員のこと。

交流に至ったきっかけ
平成 29（2017）年度に外国語活動の講師として招聘した大学教授の紹介で、台湾の小学校と本校５・６年生が「スカイプ」を活用して英語でオンライン交流を行った。
平成 30（2018）年度は、台湾の同じ小学校と継続的に交流したいと考えただ、学校名しか分からず連絡手段がなかったため、コンシェルジュを通して調整し、グリーティングカード交換を実施した。
令和元（2019）年度も交流を続けたいと考え、実施に至った。

具体的な準備内容
● 英語教育推進教員がコンシェルジュを介して交流先と調整（日程、カードのテーマの決定など）
● 台湾から学校に送られてきたグリーティングカードについて、小学校担任・中学校英語科・ALT で内容を確認、授業案を検討

● 経費：1,000 円程度（画用紙・折り紙・墨等）

実施内容
［令和元（2019）年度取組］
台湾の小学校と、「正月」をテーマにグリーティングカードの交換を行った。
まず、先に交流先から届いたグリーティングカードの内容を小学校担任・中学校英語科・ALT が解説し、英文の内容や文化風習について児童が理解した。その後、５・６年生が、交流先の児童に向けて伝えたいテーマ「正月」に沿った内容を考え、それを小学校担任・中学校英語科・ALT の指導の下、英文にした。内容はおせち料理や高あげ、年賀状等。A4 サイズの画用紙に伝えたい内容を英文でまとめ、写真や折り紙等で理解しやすいように工夫し、児童の写真も添えた。それを 1 つのクリアファイルにまとめ、表紙をつけて、コンシェルジュを通じて交流先に送付した。

効果の見取り
担任と中学校英語科教員による児童へのヒアリングや、児童が作成したグリーティングカードの確認

効果
台湾の文化に触れることによって、日本との文化の違いに気づくとともに、児童の外国の文化に対する興味関心が高まった。加えて、日本の正月について「なぜおせち料理を作るのか」など、日本の文化・風習についての理解が深まった。
外国の小学生に英語を使って日本文化を伝えたいという目的意識から、英語習得への意欲が高まった。実施後、児童から「台湾もねずみ年なんですね！」「同じ５年生なのに、こんなに英語が書けるなんてすごい！」等の発言が聞かれた。

課題
交流先の相手がいるという意識をもった活動は、児童 1 人 1 人の意欲の向上につながったため良かった。しかし、伝えたいことが多くなると、小学５・６年生の英語レベルで今まで学んだことを、いかに伝えることに活用できるようにするかが課題であると感じた。

学校から交流先に送付したグリーティングカード

学校から交流先に送付したグリーティングカードの表紙

1 学校名 / 交流内容の見出し
2 取組・活動のねらい
3 活動の位置づけ
4 対象者・参加人数
5 全体スケジュール
6 交流に至ったきっかけ
7 具体的な準備内容
8 概算経費
9 実施内容
10 効果の見取り
11 効果
12 課題
13 注釈

国際交流の種類

本事例集では、以下のように分類して御紹介します。

	特徴	事例紹介ページ			
		小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
手紙・カードやメールの交換	大人数でも実施が可能です。初めての国際交流にもおすすめです。	P.8 P.18	P.10 P.12	P.14 P.18	P.16
オンライン交流	低コストで生徒同士が海外の生徒と直接コミュニケーションを図ることができます。	P.20 P.22 P.23 P.24 P.32	P.26 P.32	P.27 P.28	P.30
在京大使館等との交流	当該国等の文化や歴史を学び、多様性や文化の違いを理解することができます。	P.34 P.36 P.37 P.38	P.39 P.40	P.42 P.44	P.46
海外の学校等の訪問受入	自校内の多くの児童・生徒が直接海外の生徒と様々な活動を共にすることができます。	P.50	P.52 P.54	P.56 P.58	P.60
海外派遣（学校訪問等）	現地でしか体験できないことに取り組むことは、かけがえのない貴重な経験になります。	-	-	P.62 P.64	-
姉妹校提携	海外の特定の学校と継続的な交流を行うために、姉妹校（Sister School）や友好校（Friendship School）などの提携を目指してみましょう。	-	P.68 P.69	P.70	-

※中等教育学校については、対象が１～３年生の場合は中学校、４～６年生の場合は高等学校に分類しています。

事例紹介

手紙・カードやメールの交換

日本にいながら気軽に児童・生徒が海外の児童・生徒と交流を行うことができる活動として、手紙・カード・メール等の交換があります。手紙やカードを作成することで、児童・生徒が海外にいる受け取る相手のことを意識するだけでなく、自分や家族・学校のこと、自国の文化や習慣など多岐にわたる内容を考える機会になります。また、英語での表現力やコミュニケーションの力を高めることにつながります。大人数で一斉に作成できるので、学年や学校全体で取り組みたい場合や、継続的な国際交流の第一歩におすすめです。一人ずつオリジナリティを出した手紙・カードのほか、グループ単位でのメッセージボードなどの作成・送付も可能です。

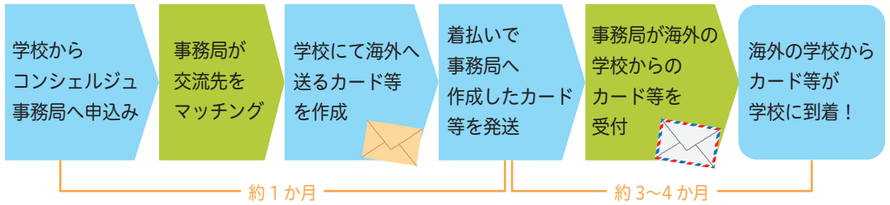
なお、コンシェルジュを通じて手紙・カード・メール等の交換を行う場合、交流先とのマッチング、具体的な作成手順に関するサポート、海外の交流先への発送、交流先からの受取などの各種サポートを受けることができます。紙の手紙だけでなくメールやパソコンで作成したカード（PDF データ）、動画なども対応可能です。

カードのサンプル

注意事項

- 交流先から送られてくるカード等の数、種類、媒体等は、日本の学校から送付したものと異なる場合があります。児童・生徒が一人一人カードを作成しても、クラス単位に返事が送られてくる場合もあります。希望する方法がある場合は、事前に調整を十分に行いましょう。
- 学校同士の交流を目的として行うのか、児童・生徒個人同士の文通等を目的とするのか、目的を明確にした上で調整を行いましょう。

【参考】コンシェルジュを活用した際の交流の流れ



1 利島村立利島小学校
台湾の小学校とのグリーティングカード交換

取組・活動のねらい

小学５・６年生と台湾の小学校との間で、互いの国の文化・風習等の内容が分かるグリーティングカードを英語で作成し、交換する。小・中学校施設一体型の学校の特性を生かし、小学校担任・中学校英語科・ALT*1 が協働して、小学生の英語力向上に努める。台湾との文化交流や、文化の違いを理解しようとする活動を通して国際性豊かな児童を育成する。

活動の位置づけ

「外国語活動」の授業として実施（４時間）

対象者・参加人数

対象者：小学５・６年生

参加人数：８人

スケジュール

● 平成 29（2017）年度、小学５・６年生と台湾の小学校がオンライン交流を実施

平成 30（2018）年度	
2019 年 1 月中旬	学校からコンシェルジュに、2017 年度に交流した台湾の小学校との交流について相談し、調整を依頼
2 月中旬	コンシェルジュが交流先と調整。グリーティングカード交換の実施が決定
2 月下旬	学校から、コンシェルジュを通じてグリーティングカードを交流先へ送付
3 月中旬	交流先から学校に、コンシェルジュを通じて返信のグリーティングカードが到着
令和元（2019）年度	
8 月下旬	学校からコンシェルジュに、昨年度と同じ交流先とビデオレター交換などができるか相談
11 月上旬	交流先からコンシェルジュに、今年度もグリーティングカード交換をしたいと相談 コンシェルジュが学校に連絡し、学校も同意
2020 年 1 月中旬	交流先から学校に、コンシェルジュを通じて正月用のグリーティングカードが到着
2 月下旬	学校がグリーティングカードを作成
3 月上旬	学校からコンシェルジュを通じてグリーティングカードを交流先へ送付

*1：ALT（Assistant Language Teacher）と呼ばれる外国人英語等教育補助員のこと

交流に至ったきっかけ

平成 29（2017）年度に外国語活動の講師として招聘（しょうへい）した大学教授の紹介で、台湾の小学校と当校５・６年生が「スカイプ」を活用して英語でオンライン交流を行った。

平成 30（2018）年度は、台湾の同じ小学校と継続的に交流したいと考えたが、学校名しか分からず連絡手段がなかったため、コンシェルジュを通して調整し、グリーティングカード交換を実施した。

令和元（2019）年度も交流を続けたいと考え、実施に至った。

具体的な準備内容

❶ 英語教育推進教員がコンシェルジュを介して交流先との調整（日程、カードのテーマの決定など）

❷ 台湾から学校に送られてきたグリーティングカードについて、小学校担任・中学校英語科・ALT で内容を確認、授業案を検討

● 経費：1,000 円程度（画用紙・折り紙・墨等）

実施内容

令和元（2019）年度取組

台湾の小学校と、「正月」をテーマにグリーティングカードの交換を行った。

まず、先に交流先から届いたグリーティングカードの内容を小学校担任・中学校英語科・ALT が解説し、英文の内容や文化風習について児童が理解した。その後、５・６年生が、交流先の児童に向けて伝えたいテーマ「正月」に沿った内容を考え、それを小学校担任・中学校英語科・ALT の指導の下、英文にした。内容はおせち料理や凧あげ、年賀状等。A4 サイズの画用紙に伝えたい内容を英文でまとめ、写真や折り紙等で理解しやすいように工夫し、児童の写真も添えた。それを１つのクリアファイルにまとめ、表紙をつけて、コンシェルジュを通じて交流先に送付した。

効果の見取り

担任と中学校英語科教員による児童へのヒアリングや、児童が作成したグリーティングカードの確認

効 果

台湾の文化に触れることによって、日本との文化の違いに気づくとともに、児童の外国の文化に対する興味関心が高まった。加えて、日本の正月について「なぜおせち料理を作るのか」など、日本の文化・風習についての理解が深まった。

外国の小学生に英語を使って日本文化を伝えたいという目的意識から、英語習得への意欲が高まった。実施後、児童から「台湾もねずみ年なんですね！」「同じ５年生なのに、こんなに英語が書けるなんてすごい！」等の発言が聞かれた。

課 題

交流先の相手がいるという意識をもった活動は、児童１人１人の意欲の向上につながったため良かった。しかし、伝えたいことが多くなると、小学５・６年生の英語レベルで今まで学んだことを、いかに伝えることに活用できるようにするかが課題であると感じた。

学校から交流先に送付したグリーティングカード

学校から交流先に送付したグリーティングカードの表紙

2 葛飾区立東金町中学校 台湾の中学校とのグリーティングカード交換

取組・活動のねらい

海外の同世代に自分のことを伝え、相手について質問をすることで、これまでに学んだ英語を実際に使う機会と、英語で自己表現できるという自信を持たせる。

英語で実際にコミュニケーションする楽しさを体験させる。今後の英語学習において、常に実際に使う場面を意識して取り組めるようにする。

さらに、新学習指導要領への橋渡しとする。①「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う」活動、②学習した語彙・表現などを目的に応じて自分のものとして活用する（「再構築」）、③「コミュニケーションの目的・場面・状況（相手は誰なのか）」を設定した活動とする。

活動の位置づけ

英語授業内の「自己表現」の活動として実施

対象者・参加人数

対象者：中学１年生

参加人数：114 人（4 クラス）

スケジュール

2020 年 5 月 26 日	5 月 26 日学校からコンシェルジュに、グリーティングカード交換、ビデオチャットについて相談 学校にとって初めての試みのため、交流の方法や時期などをコンシェルジュが説明
5 月 27 日	学校から要望があり、コンシェルジュがカードの見本を送付
7 月下旬	コンシェルジュが交流先と調整し、交流先の学校が決定 交流先がビデオチャットでの交流も希望したため、コンシェルジュが学校と調整
7 月下旬	学校がグリーティングカードを作成開始。生徒が About Myself のスピーチ作成
8 月下旬	生徒が自己紹介のスピーチ作成
9 月上旬	生徒が Our Club のスピーチ作成。生徒が書いた英作文のサンプルを校内に展示
10 月上旬	生徒がレイアウト、イラスト等の下書きをする。技術の時間にそれをパソコンに入力、印刷、保存 ※欠席者、ハンドライティング、手描きイラスト希望者などのための予備期間を設定
10 月中旬	学校が各手紙のデータを記録のため PDF に保存した上で、データを紙にプリントし、メール便でコンシェルジュに送付。コンシェルジュを通じて、グリーティングカードを交流先へ送付
10 月中旬	学校と同時期に交流先もグリーティングカードを作成、コンシェルジュを通じて学校に送付
12 月上旬	同じ交流先とビデオチャットを実施

交流先から学校に送付された
グリーティングカード

*1：ALT（Assistant Language Teacher）と呼ばれる外国人英語等教育補助員のこと

交流に至ったきっかけ

学校内の国際理解・国際交流の取り組みにおいて、現実に英語が使える国際交流としてグリーティングカード交換、ビデオチャットを選択した。英語学習３ヶ月という中学１年生の生徒の英語技術に最適であり、また、年間シラバスに含まれた活動をそのまま生かせ、無理なく実施できる内容であると判断した。

具体的な準備内容

1. コンシェルジュにグリーティングカード交換、ビデオチャットの詳細、注意点、過去の事例の確認
2. コンシェルジュを介して交流先と調整
3. 授業担当教員４名で、交流内容を確認。授業で共通のプレゼンテーションのスライドを使って交流内容を確認
4. 校内に「国際交流グリーティングカード」のコーナーを設け、交流概要を全校に周知

● 経費：520 円（コンシェルジュへの郵送料）

実施内容

台湾の中学校の生徒と英語で作成した手紙の交換を実施。生徒が自己紹介や部活動を紹介する英文を作成し、途中で「友達から学ぼう」と題して、生徒の作品をサンプルとして校内に展示し、共有する機会も設けた。英文はパソコンに入力し、イラストや写真も入れてレイアウトした。完成した各生徒のグリーティングカードを紙にプリントし、メール便でコンシェルジュに送付。それをコンシェルジュが交流先に送付した。

各テーマごとの指導

1. 教材のサンプルの一部を入れ替えて自作の英文を書く。
2. 応用文を追加（各生徒の意欲・能力による）
3. 下書きを日本人の教員と ALT*1 が添削
4. 上級者や興味関心の高い生徒には、実力を発揮できるよう個別に課題を与える。
5. 生徒が個人的に書きためたものを含め、自己表現の作品の中から自分で１つを選択させる。

学校から交流先
に送付した
グリーティングカード

効果の見取り

- 言いたいことを表現しようとする姿勢、より良いグリーティングカードを作ろうとしているか、サンプル文を活用し、自己表現をしようとしているか、イラストや写真、タイピングで読み手がわかりやすいように表現しようとしているか、期限を守り時間内に仕上げる努力をしているかを、実際の活動の過程で測定
- 英語の規則に従って、正しく相手に伝わるように表現できているか、以降の授業内の活動、自宅学習、ライティングやスピーキングテストで測定
- 交流後も教科横断の活動として取り入れて測定

効 果

自分のことについて英語で表現しようとする過程で、必要な表現・単語を「知りたい」「どう言えばいいか」を主体的に思考し、自己表現で使った英語は「自分の表現」として蓄積させることができた。また、実際に読み手を意識して「書く」ために、大文字、小文字、句読点、綴り、文法、スペースなどのルールが必要だということを実感させることができた。

今後に向けて

英語を学ぶ海外の非英語母語話者の同世代と交流することで、世界を身近に感じ、英語学習に対するモチベーションを上げてもらいたい。英語力に関しては、中学卒業時に即興的に書いたり、話したりできる力をつけることを目指す。そのために、本活動を動機付けに、実際に使うことを想定した自己表現の活動を継続して行う。

- 英語学習に関心を持ち、英語力が高い生徒には思う存分力を伸ばせる機会を与える。
- 英語に自信がない生徒も「できるはずがない」と思っていたことをできるようにさせ、英語学習が「楽しい」と思うように指導していくこと。
- 生徒の個性、能力、必要度に応じて、個別のゴールを選択させ急がずに成長させること。
- 自己表現の活動は、興味関心の低い生徒に過度な負担にならないよう、誰でも授業内に完結できるものを用意すること。

3 足立区立青井中学校 アメリカの中学校とのオンラインでのグリーティングカード交換

取組・活動のねらい

英語を用いて自分が伝えたいことを発信する等、生徒のコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育てる。異文化に触れるとともに、自国の伝統・文化にも目を向ける国際理解の観念を養う。また、英語の有用性を意識する機会を提供する。

活動の位置づけ

英語学習及び総合学習（国際理解）の一環として実施

対象者・参加人数

対象者：中学２・３年生

参加人数：２年生 49 人、３年生 39 人

スケジュール

2020 年 ４月上旬	学校からコンシェルジュに、グリーティングカード交換について相談、参加申込み
８月下旬	コンシェルジュがアメリカの中学校との交流を調整 グリーティングカード交換並びに「フリップグリッド」[*1] 等を用いた交流を計画
９月下旬～ 10 月上旬	２・３年生がグリーティングカードを作成
10 月９日	コンシェルジュを通じてグリーティングカードのデータを交流先へ送付
11 月中旬	２年生は日本の見どころを紹介する「旅のしおり」、３年生は日本に関する情報発信を目的として「日本の〇〇紹介」を作成
12 月上旬	学校が、交流先のグリーティングカードの返信を受信

グリーティングカード作成の様子

*1：「フリップグリッド（Flipgrid）」は児童・生徒が教員の指示で動画を投稿し、双方が閲覧・コメントできる学習ツール
*2：ALT（Assistant Language Teacher）と呼ばれる外国人英語等教育補助員のこと
*3：「パドレット（Padlet）」はオンラインでメッセージや写真を共有できる掲示板のようなツール

交流に至ったきっかけ

例年、海外の交流先とビデオチャットを行ってきたが、ビデオチャット当日に話せる生徒の数は限られてしまうことが課題であった。グリーティングカード交流であれば、生徒全員が実際に英語を用いて自分の考えを発信する機会を提供できると考え、取り組むこととした。

具体的な準備内容

1. コンシェルジュを介して交流先との調整
2. ALT[*2] によるグリーティングカードの見本を提示

● 経費：０円

実施内容

アメリカの中学校と、グリーティングカードをオンラインで交換する交流を行った。当初は実際の手紙を交換する予定であったが、コロナ禍でアメリカに郵便物を送れなくなったため、今回はパワーポイントでグリーティングカードを作成し、データを交換することとした。

①教科書に掲載されているグリーティングカードの書き方や、ALT のカード見本を参考に、自己紹介を兼ねたグリーティングカードの内容、構成・デザインを生徒が考え、作成した。カードのデータはコンシェルジュを通じて交流先に送信した。

②２年生は、日本の名所や観光地を紹介する、教科書の「旅のしおり」を参考に、具体的な旅程を盛り込んだ「旅のしおり」を作成。３年生は“Introduce Something about Japan”と題して、食べ物、風物、文化等、テーマを決めて日本について紹介した。

③今後も、文書のデータ交換や、動画ツール「フリップグリッド」を利用し、相互に学校や自国の文化紹介を継続していく。さらに、情報共有ツール「パドレット」[*3] も活用する予定

効果の見取り

生徒の取り組みの姿勢や、生徒が作成したグリーティングカードの内容を評価

効 果

交流相手のことを想像しながら、題材選びから、英文スタイルのカードのレイアウトまで生徒が工夫するようになった。自ら必要な英語表現を調べるなど、生徒が自ら英語に積極的に取り組む姿勢を見せるようになった。

交流を継続するため生徒は常に次回の交流場面で伝えることについて考えている。

課 題

校内の機器のシステム上のトラブルにより、作成した多くのデータが失われる事態が生じた。今後はバックアップ作成手段やタイミングに留意し、トラブル・事故防止に努めたい。

パワーポイントを用いたグリーティングカード作成の様子

都立第四商業高等学校

4 ①アメリカ、フランス、タンザニアの中・高生との文通 ②文通校の国の大使館による講演会

取組・活動のねらい

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会参加予定国に対する理解を深めることを目的とする。外国の歴史・文化・生活習慣等の諸事情を知り、異文化理解を深め、豊かな国際感覚を醸成する。外国の同年代の生徒との 1 対 1 の直接交流（英語での文通）を通して他国への興味関心や友好的な感情を育む。

文通校の国への理解をさらに深めるため、大使館による講演会も実施

活動の位置づけ

オリンピック・パラリンピック教育「世界ともだちプロジェクト」*1 の一環として実施

対象者・参加人数

①文通
対象者：高校 2 年生～3 年生
参加人数：400 人

②大使館講演会
対象者：全校生徒
参加人数：600 人

スケジュール

①文通

2018 年 9 月	学校と交流先で調整して生徒の文通ペアを決め、英語の授業で自己紹介と日本紹介の手紙を作成。学校紹介の動画と一緒に交流先に送信
2019 年 1 月	交流先から学校へ、学校紹介動画と手紙の返信が到着
4 月	交流先からの返信に対して生徒が 2 回目の手紙を作成し、交流先に送信
9 月	交流先から学校へ、手紙の返信が到着
2020 年 3 月	コンシェルジュを通して、学校から交流先 3 校に手紙と日本文化紹介＆東京 2020 大会紹介グッズを送付

②文通校の国の大使館による講演会

2018 年 4 月 23 日	学校からコンシェルジュに、タンザニア大使館による学校訪問講演会について申込み
12 月 20 日	タンザニア大使館全権公使による学校訪問講演会の実施
2019 年 7 月中旬	学校からコンシェルジュに、フランス大使館による学校訪問講演会について相談
12 月 12 日	フランス大使館外交官による学校訪問講演会の実施
2020 年 3 月	学校から都教委に、アメリカ合衆国大使館による学校訪問講演会について申込み
2021 年 3 月 16 日	アメリカ合衆国大使館外交官によるオンライン講演会実施

*1：東京 2020 大会参加予定国・地域を幅広く学び、実際の国際交流に発展させる東京都の取組。学校ごとに調べ学習、大使館との交流、手紙・メールの交換、学校間交流などを通じて当該国・地域についての理解を深める。
*2：JET プログラム (The Japan Exchange and Teaching Programme) は主に海外の青年を招致し、自治体や全国の小・中・高校での国際交流の業務と外国語教育を推進することを目的とした事業。本プログラム参加者を JET と呼ぶ。
*3：ALT（Assistant Language Teacher）と呼ばれる外国人英語等教育補助員のこと

②タンザニア大使館講演会での民族布の実演

交流に至ったきっかけ

「世界ともだちプロジェクト」対象国のタンザニアとは、大使館講演会実施後、タンザニアの高校と英語による文通を開始した。アメリカ、フランスの中・高生とは以前から文通していたが、同国は交流先に入っていなかったため、追加交流先として申請し、大使館講演会を実施した。

具体的な準備内容

①文通

1. 企画、校内分担調整、大使館やコンシェルジュとの連絡窓口は、オリンピック・パラリンピック教育担当教諭が実施
2. 文通校の決定（学校で国際交流先を検討し、アメリカ、フランスの文通校は学校の JET*2 からの紹介、タンザニアの文通校はタンザニア大使館からの紹介）
3. 英語での手紙の書き方指導や、文通校との連絡調整を英語科教諭が実施

②文通校の国の大使館による講演会（12 月実施の場合）

1. コンシェルジュを通して希望国の大使館に講演会を依頼
2. 講演会の事前学習として、夏休みに地歴科・公民科の宿題を提示（交流先の調べ学習）
3. 2 学期、交流先に関する事前指導を実施。地歴科・公民科の授業（交流先の歴史・文化・生活習慣について）を実施し、生徒の興味関心を喚起
4. 1 ヶ月前までに、講演会の時程、講演内容、学校側の準備などを大使館担当者と直接打合せを実施
5. 講演中に生徒が書き込むワークシートの準備のため、講演 1 週間前までに当日使用する資料（スライド）を送ってもらうよう大使館に依頼
6. 事前準備や当日の運営は生徒が自主的に参加する場面をできるだけ多く設定。会場指導・録画（生徒指導部）、感謝状作成・贈呈（生徒会）、会場音響（放送部）、季節の花々で会場装飾（園芸部）、講演後の英語による質問（英語部）、講演後のおもてなし（茶道部）など

● 経費：**①文通** 用紙やインクに係る費用
②大使館講演会 講演会講師の交通費（謝礼は不要）

実施内容

①文通

アメリカ、フランス、タンザニアの中・高生と学校の 2～3 年生が 1 対 1 で英語の文通 （概ね 1 学期に 1 回）を行った。インターネットを通じて送受信するかたちで行い、自己紹介や母国紹介から始めて、個人的な話題へと進んでいった。

手紙は Word で作成。内容に関する写真や絵をつけて、外国人にもわかりやすく、見て楽しい手紙になるよう工夫した。交流当初には、学校紹介動画も交換した。

②文通校の国の大使館による講演会

対象は全校生徒、会場は体育館。大使館だけでなく、JET（アメリカ人）と ALT*3（イギリス人）も、母国を紹介する講演会を実施した。講演会の内容は実施後に学校ホームページに掲載した。

講演会後は概ね 1 ヶ月以内に生徒の感想をまとめて、大使館へお礼と報告を行った。タンザニアの場合は、講演会後の交流として 3 年生が大使館を訪問し、全権公使からタンザニアの食文化についての話を聞き、文化祭でタンザニア産のコーヒー・紅茶を販売することにつなげた。

日本文化や東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の紹介

効果の見取り

生徒の観察、感想分析（記述内容の質的な変化を見る）

効 果

②大使館講演会では「その国についてもっと知りたい」「自分で行ってみたい」「オリンピック・パラリンピックではその国を応援したい」など、交流先の国を身近に感じるようになったという生徒の感想が多数あった。②講演会によって交流先の諸事情を知り、①文通でさらに親近感が増すという相乗効果があった。

課 題

コロナ禍でも諸外国と交流しようという機運を維持し、異文化理解を深める上で、このような交流を継続していくことは有益と考えている。

5 都立足立特別支援学校（知的障害）
アメリカの特別支援施設とのグリーティングカード交換

取組・活動のねらい

クリスマスを題材として、グリーティングカードを送り合う文化があることを経験できるよう活動を設定した。

活動を通して、英語で手紙を書くことができるという自信を身につけることや、交流先の文化に触れることにより、日本以外の国に対する興味を深めることなどをねらいとした。

活動の位置づけ

職能開発科における「教科：英語」の授業として実施

対象者・参加人数

対象者：職能開発科高等部２年生

参加人数：19 人

スケジュール

2019 年 9 月 26 日	学校からコンシェルジュに、グリーティングカード交換の申込み 12 月上旬の実施を希望。交流先は特別支援学校が可能であれば希望するが、こだわらないという方向で調整
11 月 27 日	学校がグリーティングカードを作成開始。定型文を提示して、各生徒が英語で文面を検討
12 月 4 日	生徒が内容を決定して清書、装飾や色塗り。記録のため、完成後に全ての生徒のカードを撮影
12 月 6 日	グリーティングカードをコンシェルジュに送付
2020 年 1 月下旬	コンシェルジュが交流先を調整し、アメリカ・ミシガン州の特別支援施設に決定
1 月下旬	コンシェルジュがグリーティングカードを交流先へ送付
3 月上旬	学校に、コンシェルジュを通じて交流先からグリーティングカードが到着
6 月中旬	学校で生徒に交流先からのグリーティングードを披露

学校から交流先に送付したグリーティングカード（表面）

学校から交流先に送付したグリーティングカードの表紙

交流に至ったきっかけ

生徒が何らかのかたちで国際交流できる機会がないかと考え、コンシェルジュに相談した。コンシェルジュの担当者に実現が可能な内容などについて相談し、今回の交流に至った。

具体的な準備内容

1. コンシェルジュを介して交流先と調整
2. 生徒が簡単に手紙を送ることができるよう、教員が事前に定型文を用意
3. 生徒が絵を描くのは授業時間の都合上難しいため、用紙にあらかじめ塗り絵のようなイラストを印刷
4. 完成した手紙を授業で活用できるよう、完成後に全て写真を撮って記録

● 経費：色画用紙や筆記用具に係る費用

実施内容

アメリカの特別支援施設とのグリーティングカード交換を実施

教員が作成した定型文を元に生徒が英語で文面を考え、カードに清書した上で装飾や色塗りを行い、完成したものをコンシェルジュ宛に送付した。完成した生徒のカードは写真撮影しておき、後日、グリーティングカードを大型モニターに映し出し、生徒が１人ずつ自分の書いた内容についてプレゼンテーションを行った。

交流先から 2020 年３月上旬に返信のグリーティングカードが到着したが、当時コロナ禍による一斉休校中だったため、学校にて保管した。休校措置解除後の６月中旬、交流先からのカードを PDF データにして大型モニターに映し、生徒に紹介した。あわせて、交流先の場所やどのような施設であるかを調べてモニターに提示した。さらに、Google ストリートビューの機能で現地の画像を映し「ここから君たちの元まで手紙が届いたんだよ。」と説明すると、非常に興味深く見入っていた。

効果の見取り

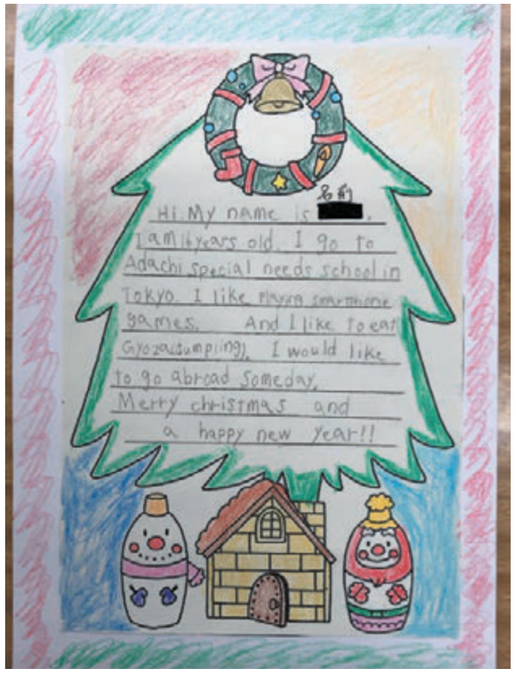
生徒へのヒアリングや、生徒が作成したグリーティングカードの確認

効 果

海外の施設に自分の手紙が届けられることは生徒の興味を強くひき、目を輝かせて取り組んでいた。2019 年 11 月～ 12 月の作成時点では、まだ実感が湧かないような雰囲気で取り組んでいるように感じたが、交流先から返事がもらえたことを伝え、その手紙の内容を授業内で見せた際は「お～！」「すごい！」などと歓声が上がり、自分たちの手紙が届き、双方向のやりとりとなったことを実感したようだった。

課 題

グリーティングカード作成は２時間の授業の中で準備を進めたが、時間が足りずに放課後などにも取り組んで完成させる必要があった。そのため、今後取り組む機会があれば、生徒の実態に合わせ、授業時間の確保や、カードの装飾や色塗りなどは長期休暇中の課題として取り組むよう準備するなどの手立てを行っていきたい。



学校から交流先に送付した
グリーティングカード（裏面）

6 武蔵村山市立雷塚小学校 アメリカの学校とのグリーティングカード交換

対象者・参加人数

対象者：小学５年生　参加人数：67 人（2 クラス）

実施日：2019 年 10 月～ 12 月

具体的な準備内容

1. 児童がこれまでに学習した単語やフレーズの一覧表作成
2. グリーティングカードの見本を作成
3. カードに使用する画用紙や写真の用意
4. カードと共に送るマッチングリストの作成
5. カードと共に送る御礼状を英語で作成

● 経費：色画用紙や筆記用具に係る費用

効 果

カード作成時、児童のカードを書く文字が普段より格別に丁寧であったことから、相手に対する配慮や気持ちが文字に表現されていた。交流先から自分の名前が入った手紙をもらったとき、児童がとても嬉しそうだった。特に、自分が先に送ったカードの内容についての返信が書かれていたことは、意思疎通が実感でき、喜びが大きかったようで、今でも大切にとっている児童もいる。

実施内容

授業（1 時間）とモジュール（15 分）を使ってグリーティングカードを作成した。作成したグリーティングカードを学校からコンシェルジュを介して交流先のアメリカの学校へ送付した。交流先からはオンラインツール「Google スライド」で返信があり、それを印刷したものがコンシェルジュを通じて学校に到着、児童の手に渡った。

交流先から学校に送付されたグリーティングカードを受け取る児童

7 都立田柄高等学校 オーストラリアの学校とのグリーティングカード交換

対象者・参加人数

対象者：高校１～３年生　参加人数：６人（英語部）

実施日：2020 年 11 月６日

具体的な準備内容

1. 生徒が英文レターの形式を調べ、テンプレートを活用して書く内容を決定
2. 教員がグリーティングカードを準備
3. 下書きを練習した後、清書

● 経費：2,000 円程度 (グリーティングカード購入費)

効 果

初めて英語での手紙に取り組み、形式を学び実際に書いてみるいい機会になった。練習ではなく、実際に相手がいることで、生徒がより真剣に取り組み、英語の力が身についた。

実施内容

交流先の高校生に宛てたグリーティングカードを作成し、学校からコンシェルジュを通じて送付した。内容は、日本のおすすめの場所や、生徒のお気に入りの場所の紹介をテーマにし、カードも日本らしい柄やイラストが入ったものを選んだ。

学校から交流先に送付したグリーティングカード

事例紹介

オンライン交流

ビデオチャットのサービス等を活用し、モニターを通じて、児童・生徒が海外の児童・生徒と交流を行うことにより、オンライン交流ができます。交流を行うことで、児童・生徒が互いに文化や習慣、考え方の違いなどについて理解を深め、英語によるコミュニケーション能力を高めることにつながります。

インターネット環境があれば校内で気軽に実施することができるので、初めて国際交流を実施する際や、頻繁に交流を実施したい場合におすすめです。

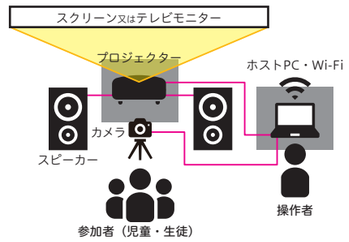
なお、コンシェルジュを通じてオンライン交流をする際には、交流先との日程調整、機器の貸出しとセッティング[*1]（Wi-Fi 環境の提供を含む）、当日の司会進行・通訳などの各種サポートを受けることができます。

注意事項

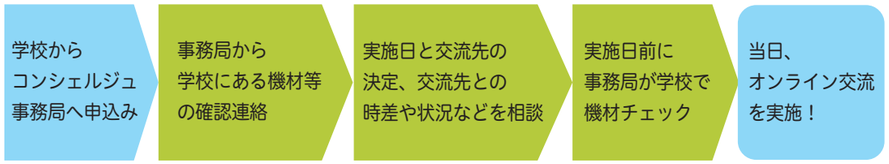
交流先を選定する際には、時差を考慮する必要があります。時差が大きい国と交流を行う際には、交流を実施する時間に配慮したうえで、日時を調整しましょう。

必要な準備

- インターネットに接続できる環境（有線 LAN や Wi-Fi 等）
- パソコン（一人一台あればタブレットやスマートフォンも可）
- モニター（大型 TV やプロジェクター等）
- スピーカー（学校行事で使用するポータブルタイプ等）
- マイク　● ケーブル各種



【参考】コンシェルジュを活用した際の交流の流れ



*1：学校ではモニター（大型 TV やプロジェクター）と外部スピーカーだけ用意すれば、その他の機材はコンシェルジュが用意します。

1 新宿区立四谷第六小学校
オーストラリアの小学校とのビデオチャット交流

取組・活動のねらい

相手に配慮しながら英語でコミュニケーションする力を身につけさせる。

対象者・参加人数

対象者：小学６年生

参加人数：44 人（２クラス）

活動の位置づけ

外国語 Unit １「This is ME!」最終活動として実施

スケジュール

2020 年 ５月中旬	学校からコンシェルジュにビデオチャットについて相談
５月下旬	コンシェルジュから学校にビデオチャットの準備等について説明。学校は７月下旬～８月上旬の実施を希望
６月下旬	コンシェルジュから学校に希望内容の再確認。学校は感染症対策のためビデオチャットを実施する場所を検討し、２クラス合同ではなく各教室で日時を分けて実施することに決定
８月上旬	コンシェルジュが交流先と調整し、オーストラリアの小学校との実施が決定。実施日を９月８日と 17 日で調整
８月 28 日	コンシェルジュが学校を訪問し、学校と事前打合せ、オンラインの接続環境をチェック
９月１日	学校が各クラスの当日の会話のトピックスを決定し、コンシェルジュを通じて交流先に連絡
９月８日	交流を実施（1 組）
９月 17 日	交流を実施（2 組）

ビデオチャットで交流する児童

交流に至ったきっかけ

相手に伝わるように工夫しながらコミュニケーションすることを大切にし、外国語の授業を進めてきた。過去のオーストラリアの小学生の訪問受入でも、児童は慣れない英語に苦戦しながらも、身振り手振りを加えながら一生懸命楽しんで伝えている様子であった。令和２（2020）年度はコロナ禍でもできる国際交流を考え、ビデオチャットを活用してオーストラリアの小学生との交流を実施することにし、コンシェルジュに依頼するに至った。

具体的な準備内容

❶ コンシェルジュを通じて交流先との調整（どのような交流をしたいかのヒアリングや通信環境の確認など）

❷ 校内での日程調整

❸ ビデオチャットで使用するイラストカードの作成

● 経費：イラストカード印刷に係る費用

実施内容

オーストラリアの小学校とビデオチャットを行った。１クラスを５グループ程度に分け、１グループずつテーマを決め英語で自己紹介を行うことにした。グループごとのテーマは「食べ物」「スポーツ」「動物」「アニメ・マンガ」「お菓子」など。イラストカードも使用して、イラストをビデオに映しながら「Hello, My Name is ○○. I like sushi. Sushi is delicious. Do you like sushi?」などの会話をした。

一方、交流先のオーストラリアの児童は日本語による交流を図り、「好きな食べ物は何ですか？」当校児童「お寿司です。」といった会話のキャッチボールがなされた。

■ 当日のスケジュール

9:00	コンシェルジュが来校し、機材の準備 教室準備、児童に事前指導
9:30 ～ 9:50	ビデオチャット ・日本の児童による英語で発表・質問
9:50 ～ 10:00	ビデオチャット ・オーストラリアの児童から日本語で発表・質問
10:00	ビデオチャット終了

効果の見取り

授業後に児童に対して振り返りシート（A4 用紙１枚程度）を書かせ、その内容から確認

効 果

オーストラリアの児童と少しでも多くのコミュニケーションをとりたいと考え、休み時間を使って練習をしたり、辞書を使って言いたいことを調べたりしてくる児童が多くいるなど、事前準備の段階から意欲が見られた。

今回の交流を通して外国の文化に興味を持つとともに、自分の国の文化を紹介したいという気持ちを育むことができた。

活動後の振り返りカードの記述を見ると、自分の英語が伝わり、相手から反応が返ってくることに嬉しさを感じていた。さらに「もっと自分の気持ちを率直に伝えられるようになりたい」と英語学習に対して前向きな姿勢が見られた。

課 題

今回の交流では、「その場でのやりとりを大切にして交流する」ことを目的に児童にも指導してきた。しかし「自分の英語が伝わるだろうか？」という不安もあり、話すことを暗記して正確に伝えようという気持ちが強くなり、スピーチのようになってしまう児童がいた。今後は「どうすれば相手にわかりやすく伝わるか？」という他者への配慮をより意識して、学習に取り組ませていきたい。

ビデオチャットで使用したイラストカード

2 大田区立小池小学校
アメリカの小学校とのオンライン「フリップグリッド」を使った交流

取組・活動のねらい

児童に海外の小学生と実際に交流する経験をさせる。

活動の位置づけ

６年生の１学期の学習内容のまとめとして実施

対象者・参加人数

対象者：小学６年生　参加人数：150 人

具体的な準備内容

❶ コンシェルジュに連絡
❷ 管理職及び学級担任への相談
❸ 保護者への個人情報についての承諾確認
❹ 「フリップグリッド」の使い方の研修、アカウント開設
❺ 動画で見せる絵や写真の準備、英語の発表内容の準備、練習など児童への指導
● 経費：０円

スケジュール

2020 年 ６月 22 日	学校からコンシェルジュにビデオチャットの実施について相談 コンシェルジュから学校に「フリップグリッド」*1 を案内し、参考資料などをメールで送付
７月下旬	学校からコンシェルジュに「フリップグリッド」の動画投稿内容や本数について相談 グリーティングカード交換と「フリップグリッド」が出来る交流先についても相談 →コンシェルジュが確認し、アメリカ・ミシガン州に候補校があり、マッチング
７月上旬～下旬	学校で児童が発表の準備（写真・絵・文章の用意とチェック） 児童に、夏休みの宿題として英語のコメントを覚えるよう指導
８月上旬	コンシェルジュがアメリカ・ミシガン州の小学校と調整でき、交流先が決定 コンシェルジュが「フリップグリッド」の使い方、アカウント開設のレクチャーをする日時と方法を調整
９月上旬	学校で動画撮影
９月 15 日	撮影した動画を「フリップグリッド」で交流先に共有→以降 10 月中旬まで２～３回に分けて動画を共有
12 月３日	交流先から学校に返信の動画が「フリップグリッド」で共有

交流に至ったきっかけ

１学年約 160 名の規模ではビデオチャットは難しいため、ビデオを投稿して返信がもらえるようなプログラムを探していたところ、コンシェルジュに相談した際に「フリップグリッド」というツールを紹介された。

実施内容

児童が英語で学校や日本について紹介し、教員が動画を撮影をした。日本文化・和食・伝統工芸等を紹介する 10 分間のビデオを、１クラスあたり８グループ、４クラス分、計 35 本を作成。動画投稿による学習プラットフォーム「フリップグリッド」を使ってアメリカの小学生に送付した。その後、12 月に交流先から「フリップグリッド」で 20 通の返信の動画が送られた。

効果の見取り

授業後に児童に対してアンケートを実施

効 果

児童が、英語を使ってネイティブの人とコミュニケーションが取れたという自信を持つことができた。

課 題

リアルタイムでのコミュニケーションではなかったため、相手の反応がわからないことが課題と感じた。

*1：「フリップグリッド（Flipgrid）」は児童・生徒が教員の指示で動画を投稿し、双方が閲覧・コメントできる学習ツール

3 あきる野市立増戸小学校
台湾の小学校とのビデオチャット交流

取組・活動のねらい

児童が異なる文化を持つ人々との交流を体験し、文化等に対する理解を深める。外国語への学びの意欲につなげる。

活動の位置づけ

相手に伝えたい内容を考えて書き、話すことや、相手のスピーチを聞き取る力の学習として実施

ビデオチャットでスピーチする児童

対象者・参加人数

対象者：小学４～６年生
参加人数：13 人（英語クラブ）

具体的な準備内容

❶ 交流先と人数や発表テーマの調整
❷ スピーチ内容を児童が日本語で考え、英文を作成（文例は教員が指定）
❸ 絵や写真の用意（児童が描いたり、パソコン室で印刷）
❹ ビデオチャット環境（プロジェクターとスクリーンを学校が用意、その他 ipad、マイク等、通信環境をコンシェルジュが用意）の事前準備、チェック
● 経費：印刷に使用した紙、筆記用具に係る費用

スケジュール

2020 年 ６月 15 日	学校からコンシェルジュに国際交流について相談
７月１日	学校からコンシェルジュにビデオチャットの申込み
７月下旬	コンシェルジュが調整し、台湾の小学校と９月 18 日にビデオチャット実施が決定
８月下旬	コンシェルジュが学校を訪問し、学校と事前打合せ、オンラインの接続環境をチェック
９月上旬	コンシェルジュを通して、学校と交流先でテーマとプログラムの時間配分を決定
９月 18 日	交流を実施

交流に至ったきっかけ

英語クラブが新設されるに伴い、活動内容をコロナ禍に合わせて考える必要があった。オンラインで海外の小学生と交流することが、現時点で最良の活動になると考え実施した。

実施内容

クラブ活動の時間（60 分間）を活用して台湾の小学生とビデオチャットを行った。「好きな夕食のおかず」をテーマに小グループずつ、カメラの前で発表し合う。

■ 当日のスケジュール

14:55 ～ 15:00	校長同士の挨拶
15:00 ～ 15:45	発表を双方行う（司会はコンシェルジュ）
15:45	挨拶をして終了

効果の見取り

アンケート、振り返りシート、その後の活動の様子の観察等

効 果

児童からは「次は一緒に歌を歌いたい」「得意なことを話したい」「実際に会って話したい」「その他のテーマでも話したい」等の声が挙がった。「また交流したい」と感じた児童が多く、活動や日々の意欲、外国語への関心の高まりが見られた。

課 題

児童同士のより実践的な会話につなげるため、回数を重ねていきたい。

4 文京区立林町小学校（特別支援学級）
アメリカの小学校との「フリップグリッド」を使った交流とカード交換

取組・活動のねらい

児童が英語を中心とした外国語の音声や基本的な表現に親しみ、国際交流活動を進めながら、活動することの楽しさとともに、異文化理解、コミュニケーション能力の素地を養う。

対象者・参加人数

対象者：ひまわり学級（特別支援学級）
小学１～４・６年生
参加人数：計 23 人

活動の位置づけ

特別支援学級の外国語活動として実施

スケジュール

2019 年 9 月下旬～ 10 月上旬	学校からコンシェルジュに国際交流の相談。グリーティングカード交換やビデオチャットによる国際交流について説明を聞き、交流を申込む。
10 月下旬	コンシェルジュが調整し、交流先がアメリカ・ミシガン州の小学校（特別支援学級）に決定
11 月上旬	交流先が、教員・児童による学級紹介のビデオを「フリップグリッド」*1 に投稿
11 月中～下旬	ひまわり学級の担任教員が「フリップグリッド」の操作に慣れるため、学校や学級の様子を撮影、投稿
11 月 25・26 日	ひまわり学級の６年生・４年生の児童が「フリップグリッド」に自己紹介ビデオを投稿
12 月 3 日	ひまわり学級の１年生の児童が「フリップグリッド」に自己紹介ビデオを投稿
12 月 4 日	交流先の学級担任が、休校の学校や校庭に雪が降っている様子を「フリップグリッド」に投稿 同日、学級で飼っている動物のことなど詳しい学級の様子を撮影したビデオも投稿
12 月 5・6 日	ひまわり学級の３年生・２年生の児童が「フリップグリッド」に自己紹介ビデオを送付
12 月 13 日	学校から交流先へ、クリスマスカードと年賀状の意味合いを込めて、グリーティングカードを送付 （コンシェルジュを通じて交流先へ送付）
2020 年 2 月上旬	交流先から御礼のグリーティングカードが到着
2 月 12 日	ひまわり学級担任が交流先へ、グリーティングカード到着の報告とお礼を「フリップグリッド」に投稿
2 月 15 日	ひまわり学級６年生・４年生が代表して、手紙の中の質問に対しての返事を「フリップグリッド」に投稿 土曜授業参観の時間を使ってビデオを作成。これまでの取り組みを保護者にも紹介

*1：「フリップグリッド（Flipgrid）」は児童・生徒が教員の指示で動画を投稿し、双方が閲覧・コメントできる学習ツール

交流に至ったきっかけ

学校で国際交流の実施を検討し、コンシェルジュに相談したところ、グリーティングカードの交換をするなら、事前に交流する学校の教員や児童と「フリップグリッド」を使って互いの顔を確認したり、言葉を伝え合ったりしたほうが良いと勧められたため、「フリップグリッド」での動画の交換とグリーティングカードの交換を実施するに至った。

具体的な準備内容

自校

1. ひまわり学級の iPad に「Google 翻訳」をインストール
2. 「フリップグリッド」のアカウントを取得し、iPad にインストール（全て教育委員会の許可を得て実施）
3. 英語の時間だけでは足りず、学級活動の時間や総合の時間を活用して「フリップグリッド」の動画を作成
4. 図工の時間を活用してグリーティングカードも作成

交流先から問合せ対応

1. 担任の教員同士で、メールや「フリップグリッド」に画像やメッセージを入れてやりとりを実施

● 経費：色画用紙や筆記用具に係る費用

実施内容

動画投稿による学習プラットフォーム「フリップグリッド」を使って、アメリカ・ミシガン州の小学校と動画での交流を実施。動画は、児童が英語で自己紹介や学校や学級の紹介をする様子を撮影し、「フリップグリッド」に投稿。交流先からも同様に投稿され、それを教室のスクリーンに映して鑑賞した。

さらに、12 月中旬にクリスマスカードと年賀状を兼ねたグリーティングカードも作成し、コンシェルジュを通して交流先に送付した。交流先から返信のグリーティングカードが届き、そこに記載されていた質問に答える動画も「フリップグリッド」に投稿した。

効果の見取り

生徒へのヒアリングを行った。

効 果

ひまわり学級の児童は、最初は緊張気味で相手校のビデオを見ていたが、その後の教員の返信ビデオを見て安心したようで、自分たちもやってみようかなと意欲を持つようになった。

普段の学習でも人前でスピーチすることが苦手な児童が多い中、英語で話すということで練習をしたが、短い言葉をつなげて、楽しく活動に取り組んでいた。自分達のビデオを送った後、ビデオで返信が来たり、グリーティングカードが届いて、交流先の学級や地域の様子を知ることができた。

「ミシガン州はどこにあるの？」と調べたり、アメリカの食べ物や文化にも興味をもって質問してくるようになった。その後の英語の授業も意欲をもって学習に取り組んだり、英語の単語や会話の学習でも声が大きくなったり、自信をもてた児童が増えた気がする。

今回の交流を通して、ひまわり学級の児童の視野が広がり、自分の夢や希望が膨らむことを期待している。

課 題

交流先と定期的に連絡をとることや、学習活動を外国語活動の年間計画に位置づけていかないと、継続して交流していくことは難しいと感じた。

5 国分寺市立第一中学校
ポーランドの学校とのビデオチャット交流

取組・活動のねらい

国際交流部（部活動）として、主体的に異文化理解を行う。

活動の位置づけ

国際交流部の今年度における活動の中心として実施

対象者・参加人数

対象者：中学１・２年生　参加人数：約 30 人（国際交流部）

具体的な準備内容

❶ 交流先と人数や発表テーマの調整
❷ 生徒たちによるスピーチ内容の準備
❸ ビデオチャット環境（プロジェクターとスクリーンを学校が用意、その他はコンシェルジュが用意）の事前準備、チェック
❹ 生徒たちのリハーサル（練習と配置決め）
● 経費：０円

スケジュール

2020 年 5 月 11 日	学校からコンシェルジュにビデオチャットについて相談
6 月下旬	コンシェルジュから学校に希望の日程や内容の再確認。早ければ 7 月中旬に実施希望だが、遅くとも 3 年生が引退する 10 月中の実施を希望
9 月中旬	コンシェルジュが交流先と調整し、ポーランドの学校との実施が決定。実施日を 10 月 27 日で調整
9 月 30 日	コンシェルジュが学校を訪問し、学校と事前打合せ、オンラインの接続環境をチェック
10 月 27 日	交流を実施

交流に至ったきっかけ

コロナ禍の影響で外国人旅行者がいないため、国際交流をする機会がなくなってしまい、オンラインでの交流ができないかと検討したため。

実施内容

ポーランドの学生と英語でビデオチャットを行った。主な内容は①互いの国の文化や学校の紹介、②コロナ事情や学校での感染予防対策について。学校→交流先→学校→交流先の順で、交互に①・②のテーマで、生徒を５つのグループに分け、それぞれ発表をした。

■ 当日のスケジュール

15:15 ～ 16:00	教室の準備
16:00 ～ 17:00	ビデオチャット開始
17:00	ビデオチャット終了

効果の見取り

今回の交流を通して学んだポーランドについての展示物を作成し、その内容から効果を確認

効 果

生徒の異文化理解につながった。

課 題

事前準備にもう少し時間をかけて生徒主体で進行していけるように試みたい。また、他国や他の交流手段も含め、継続した交流をしていきたい。

ビデオチャットでスピーチする生徒

6 都立本所高等学校
ポーランドの学校との２回のビデオチャット交流

取組・活動のねらい

生徒の国際交流と異文化理解を深める。

活動の位置づけ

英語部（部活動）の一環として実施

対象者・参加人数

対象者：高校１～３年生　参加人数：10 人

具体的な準備内容

❶ コンシェルジュを通じて交流先との調整
❷ 生徒がテーマを決めてスピーチ原稿と画像を準備、スピーチの練習
❸ ビデオチャット環境（パソコン・インターネット環境・プロジェクター・スピーカー・WEB カメラ等）の準備（事前のセッティングはコンシェルジュが実施）
● 経費：０円

スケジュール

2018 年 11 月下旬	学校からコンシェルジュにビデオチャットについて相談
12 月上旬	学校からコンシェルジュに、オセアニア地域の学校との交流を希望
2019 年 1 月上旬	コンシェルジュが交流先を探すが、学校が希望する 1 月下旬はオセアニア地域では夏休みと新学期の時期にあたるため調整がつかず、ポーランドの学校との実施が決定
1 月上旬	コンシェルジュが交流先と調整し、実施日が決定
1 月 22 日	交流を実施（1 回目）
1 月 29 日	交流を実施（2 回目）

交流に至ったきっかけ

生徒の国際交流と異文化理解を深めるため、コンシェルジュに相談し、交流に至った。

実施内容

ポーランドの学生と２回にわたりビデオチャットを行った。１回目は英語で全員が自己紹介を行い、互いの好きなものについてスピーチした。また、ポーランドのクリスマスの過ごし方や食べ物の話を聞き、最後に互いに質疑応答を行った。

２回目は、１回目の交流でポーランドではクリスマスが非常に重要な行事であることを知ったため、同様に日本の重要な行事である正月の風習を英語で紹介した。

■ 当日のスケジュール （1 回目、2 回目とも同じ時間で実施）

16:00 ～ 17:00	ビデオチャット 全体挨拶・自己紹介・トピックの紹介 質疑応答

効果の見取り

部員の活動に対する意欲を観察

効 果

生徒にあまり馴染みのない国（ポーランド）とのビデオチャットだったため、最初は緊張した様子だったが、少しずつ英語を話すことにも慣れ、聞きたいことを聞けるようになった。ビデオチャット実施後は、部員の英語に対するモチベーションがアップした。

課 題

定期的にビデオチャットができるとより効果があると考える。

ビデオチャットで交流する生徒

7 都立日比谷高等学校 グローバルリーダー育成研修のためのオンライン交流

取組・活動のねらい

将来、「人類の平和や社会の発展に貢献できるグローバルリーダーの育成」を目指す。国際的な課題に関する研修等を行う等、国際理解教育を推進し、広い視野をもった生徒の育成を図る。また、英語をツールとして使いこなすことのできる高い語学力の養成を図る。

「食糧問題解決に関する提言をまとめること」を研究課題とする。アスペン研究所にて専門家を前に提言をプレゼンテーションする等の一連の活動を通して、将来グローバルリーダーとして活躍するための資質向上を目指す。

例年は、ボストン・ニューヨークに実際に渡航して研修を行っているが、令和２（2020）年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により海外派遣は中止し、オンラインを活用しながら国内で積極的に活動した。

活動の位置づけ

東京グローバル１０

対象者・参加人数

①マサチューセッツ工科大学（MIT）のオンライン講義

対象者：全学年希望者　参加人数：約 70 名

②アスペン研究所へのオンラインプレゼンテーション

対象者：高校２年生　参加人数：16 名

マサチューセッツ工科大学（MIT）のオンライン講義

スケジュール

2020 年 5 月 14 日	第１回ミーティング開催（Zoom）：メンバー選考等
5 月 20 日	第２回ミーティング開催（Zoom）：３年生や OGOB から昨年の研修紹介
6 月 1 日	第３回ミーティング開催：役割分担確認
6 月 14 日	第１回 OGOB ワークショップ（Zoom）：東京大学で食糧問題解決に取り組む OG の講演等
7 月 14 日	グローバル委員会開催：109 名の１年生が参加
7 月 27 日	第１回プレゼン検討会：JET*1 による指導
8 月 11 日	第２回 OGOB ワークショップ（Zoom）
9 月 11 日	株式会社大丸松坂屋百貨店　大丸東京店訪問
9 月 12 日	①マサチューセッツ工科大学（MIT）Moser 教授のオンライン講義（Zoom） 例年海外渡航して実施している部分をオンラインで代替
9 月 23 日	外務省「高校講座」
9 月 24 日	第３回 OGOB ワークショップ：「統計学等について」の講演
9 月 28 ～ 30 日	第２回プレゼン検討会
10 月 20 日	プレゼン発表リハーサル
10 月 22 日	②米国アスペン研究所に向けてプレゼンテーション（Zoom） 例年海外渡航して実施している部分をオンラインで代替
10 月 30 日	第１回農林水産省「高校講座」（グローバル委員会が開催する生徒主体の事業）
11 月 5 日	第２回農林水産省「高校講座」（グローバル委員会が開催する生徒主体の事業）
11 月 13 日	京都大学「ポスタープレゼンの極意」
12 月 20 日	高校生フォーラムへの参加
12 月 22 日	校内でグローバルリーダー育成研修報告会

*1：JET プログラム (The Japan Exchange and Teaching Programme) は主に海外の青年を招致し、自治体や全国の小・中・高校での国際交流の業務と外国語教育を推進することを目的とした事業。本プログラム参加者を JET と呼ぶ。

交流に至ったきっかけ

卒業生（元東大副学長）が MIT の教授と知り合いであったため、交流を始めることとなった。また、アスペン研究所は現地で直接交渉をしたことがきっかけである。

令和２（2020）年度はコロナ禍のため海外派遣が中止となり、国内で実施可能な研修内容を再構築するなかで、オンラインで交流を継続することを検討し、今回の交流に至った。

具体的な準備内容

①マサチューセッツ工科大学（MIT）のオンライン講義

❶ MIT の教授と調整し、現地で実施している講義をオンラインで実施することについて承諾を得る。
❷ Zoom の接続を 1 週間前にテスト
❸ 実施時間の調整。13 時間の時差があるため、講義は土曜日の朝８：00（ボストン時間 19：00）に設定
❹ 国内研修プランを校内の企画調整会議で周知
❺ 生徒への企画の説明、参加人数の把握、実施場所の確保

②アスペン研究所へのオンラインプレゼンテーション

❶ 米国アスペン研究所と調整し、オンラインプレゼンテーションの機会を設定（交渉には日本アスペン研究所の支援も受けた。）
❷ 実施時間の調整。13 時間の時差があるため、木曜日の早朝７：30（ニューヨーク時間 18：30）に設定
❸ 事前に資料をアスペン研究所に送付
❹ 生徒のプレゼン検討会を複数回実施
❺ Zoom を利用したオンラインプレゼンテーションのリハーサルを実施

● 経費：① 27,400 円（MIT 教授への謝礼）

実施内容

①マサチューセッツ工科大学（MIT）のオンライン講義

参加生徒が学校に集まり、Zoom で MIT と繋ぎ、教授によるグローバル社会との向き合い方等に関する英語でのオンライン講義（60 分）を受けた。その後、質疑応答の時間を 30 分設け、生徒も英語で質問をした。

②アスペン研究所へのオンラインプレゼンテーション

参加生徒が学校に集まり、Zoom でアスペン研究所と繋いで実施した。参加生徒 16 名を３つのグループに分け、各自発表を行った（各グループ発表７分、質疑応答・フィードバック 10 分）。

効果の見取り

①②ともに終了後に記録担当生徒が実施報告書を作成、また、全ての研修生徒が研修報告書（「研修を終えて」の感想文など）を作成し、その内容から確認。さらに、全ての研修生徒に対してアンケート調査を実施した。

一般参加生徒も終了後に報告書（企画の内容、感想などを記入）を作成し、その内容から確認

効 果

グローバルリーダー育成研修では官公庁、企業、大学など、多くの外部団体と連携している。各連携先では、グローバルな視点での課題やその課題に対する取組について講義を受ける。各界の取組に触れディスカッションすることで視野が広がり、多角的な視点から論理的に思考を深められるようになる。

今回、① MIT の教授の講義は、グローバルリーダーを多く輩出する MIT の教育理念に触れる機会であり、世界を視野に学びたいと考える生徒達にとって貴重な経験となった。

②アスペン研究所に向けた食料問題解決に関する提言（プレゼンテーション）は、高いハードルを設定することで、解決困難な課題に対しても根気強く取り組む姿勢やタフな精神力、チャレンジ精神を育成することにつながっていた。生徒達は、時にはぶつかり、時には励まし合う過程をとおしてチームワークやリーダーシップについて考え、協働して課題解決できる力を身につけることができた。

①②ともに全て英語で行われており、実践的な英語運用能力を高めることにもつながった。

アスペン研究所へのオンラインプレゼンテーション

8 都立立川ろう学校（聴覚障害）
台湾のろう学校とのビデオチャット交流とカード交換

取組・活動のねらい

海外の学校との交流を通して、生徒が諸外国の文化や伝統について学び、国際的な理解を深める。また、日本の文化や伝統についても調べ、まとめることで自国についての理解をさらに深める。

活動の位置づけ

高等部３年生の「総合的な学習の時間」「コミュニケーション英語Ⅱ」の一環として実施

対象者・参加人数

対象者：高等部３年生

参加人数：18 人

ビデオチャットの準備
（TV モニター・スケジュール・グリーティングカード等）

スケジュール

2020 年 6 月 10 日	学校からコンシェルジュに、カード交換での国際交流の申込み できればニュージーランドのろう学校との交流を希望
7 月中旬	ニュージーランドの学校と調整がつかず、来日予定がある台湾のろう学校と調整し、交流先を決定
7 月下旬	学校からコンシェルジュを通じて交流先へ、作成したグリーティングカードを送付
8 月上旬	交流先に、コンシェルジュを通じてグリーティングカードが到着 この中に台湾の食べ物がメニュー仕立てになっているカードがあり、ビデオチャット時にもこれを使いたいというリクエストを交流先から受付
9 月上旬	コンシェルジュが交流先と調整し、英語の手話をつかったビデオチャット交流が決定
9 月中～下旬	コンシェルジュ、学校、交流先の３者でオンラインで事前打合せ
10 月上旬	交流先から、コンシェルジュを通じてグリーティングカードが学校に到着
10 月 7 日	コンシェルジュが学校を訪問し、オンラインの接続環境をチェック 交流先とビデオチャットを繋ぎ画面映りもチェック
10 月 13 日	学校が事前にプログラムや自己紹介用の資料（PDF）を作成し、コンシェルジュを通じて交流先に送付
10 月 19 日	交流を実施

交流に至ったきっかけ

前年度は JICA 出前講座などを実施しており、今年度も学校で国際交流を検討していた。その時にコンシェルジュの存在を知り、海外の交流先との取り次ぎや調整を行なってもらえると聞き、言語などやりとりに対する不安をカバーしてもらえると考え、コンシェルジュを通じた交流に至った。

具体的な準備内容

自校

1. 総合的な学習の時間担当の教員と英語科の教員が連携して準備
2. グリーティングカードは生徒が日本語の文章を作成し、担当教員が確認をしたのち、生徒が英訳したものを英語科教員が確認して作成
3. ビデオチャットはコンシェルジュのサポートを受けながら、事前の接続確認と、当日の内容確認を実施
4. 生徒が台湾について調べる事前学習を実施（当日発表するスライド資料を作成）

交流先から問合せ対応

1. コンシェルジュを介して、通訳の入れ方やキーボードを使うかどうかなど交流時の表現方法について調整

● 経費：色画用紙や筆記用具に係る費用（グリーティングカード）

実施内容

台湾のろう学校とグリーティングカードの交換及びビデオチャットを行った。ビデオチャットの発表は学校→交流先の順番で進めた。①自己紹介、②手話紹介、③料理紹介を主なテーマに交互に発表を行い、適宜スライド資料も使って分かりやすく紹介した。発表は生徒による自国の手話→通訳→教員による手話、の流れで双方が理解しながら実施した。

■ 当日のスケジュール

13:50 ～ 14:00	機材の準備
14:00 ～ 14:30	生徒集合、座席準備
14:30 ～ 15:08	ビデオチャット ・両校校長の挨拶 ・両校生徒の紹介
15:08 ～ 15:15	休憩
15:15 ～ 16:10	ビデオチャット ・両国の手話の紹介 ・文化や料理の紹介
16:10	ビデオチャット終了

効果の見取り

アンケート、その後の感想のヒアリング

効 果

事後のアンケートや日記、HR などで「もっと交流したい」「直接会ってみたい」「台湾の手話をもっと知りたい」「台湾の生徒はわかりやすく、ゆっくりと手話で話してくれたので、次の機会があれば私たちも気を付けたい」など、教員が想定していた以上に、今後も交流を続けていきたいという感想が生徒から出ていた。

どの生徒も台湾手話（TSL）や食文化について、日本との共通点や異なる点を見出し、興味を持っていた。翌日以降、朝会った際などに早速台湾手話で挨拶する生徒もいた。どんな動きだったかを生徒同士で確認もしていた。

課 題

申込み当初は、交流先が未定だったため、グリーティングカード交流とビデオチャット交流を別の国でと考えていたが、結果として年間を通した交流にすることができた。

台湾との接続確認・打合せが 1 回だけであったが、内容の細かい打合せや、各項目の時間配分など、2 ～ 3 回に分けて行うとよかったと感じた。

発表の内容や時間の打合せを大まかにしかしていなかったので、より細かく設定しておくべきであったと反省している。

交流先についての情報（場所や簡単な歴史、生徒数や学年）について、事前にもう少し情報が分かれば、より事前学習や準備で、相手を意識したものにできたのではないかと思う。

手話表現の紹介は、互いにあらかじめ同じ言葉を選んでおいて、両国の表現の違いなどを確認する方が、より充実するものになっただろうと感じた。

ビデオチャットで台湾手話を習う生徒

9 八王子市立由木東小学校 オーストラリアの小学校とのビデオチャット交流

対象者・参加人数

対象者：小学６年生　参加人数：129 人（4 クラス）
実施日：2020 年 7 月 28 日、29 日、30 日

具体的な準備内容

❶ コンシェルジュを通じて交流先との調整
❷ 児童たちのスピーチ内容の準備、スピーチ練習
❸ 交流先との時差を考慮して実施時間を決めるため、校内で時間割の調整
❹ コンシェルジュが学校を訪問し事前打合せ、オンラインの接続環境をチェック
● 経費：0 円

効 果

多くの児童にとって、初めて外国の同世代の児童と話す機会となった。大きな声ではっきり話すなど、コミュニケーションをとるために大切なことは何かを実感できた。

実施内容

オーストラリアの小学生とビデオチャットを行った。クラス単位で、4 クラスが 1 回ずつ、日時を分けて実施した。グループに分かれ、一人ずつ挨拶をした後、好きな食べ物、好きなおやつ、好きなアニメ、習い事、好きな遊びなどグループごとに決めたテーマで話をした。最後にグループ全員で「What food do you like?」など、交流先の児童に好きなものを聞いて交流を行った。

ビデオチャットでスピーチする児童

10 八王子市立打越中学校 ポーランドの学校とのビデオチャット交流

対象者・参加人数

対象者：中学１・２年生　参加人数：10 人（国際文化部）
実施日：2020 年 10 月 20 日

具体的な準備内容

❶ コンシェルジュを通じて交流先との調整
❷ 生徒たちのスピーチ内容の準備。テーマに合わせて、各自が課題を持って準備をする、質疑応答をシミュレーションして例文を数多く準備するように指導
❸ コンシェルジュが学校を訪問し事前打合せ、オンラインの接続環境をチェック
● 経費：0 円

効 果

準備した内容が相手に通じたことで、生徒が自信をつけることができた。ポーランドにさらに興味関心を持ち、今後の活動に対する意欲が高まった。

実施内容

ポーランドの学生とビデオチャットを行った。自己紹介をした後、両国の新型コロナ感染状況の様子、質疑応答、東京観光おすすめスポットの紹介などを英語で話し、双方でコミュニケーションを図った。

ビデオチャットでスピーチする生徒

事例紹介

在京大使館等との交流

大使館等の関係者を学校へ招き、又は、児童・生徒が大使館等を訪問し、当該国の文化や歴史等を学び、多様性や文化の違いを理解する活動ができます。また、大使館等の果たす役割を学ぶことで、日本と当該国をつなぐ大使館等の重要性を理解し、児童・生徒の豊かな国際感覚を醸成することにもつながります。

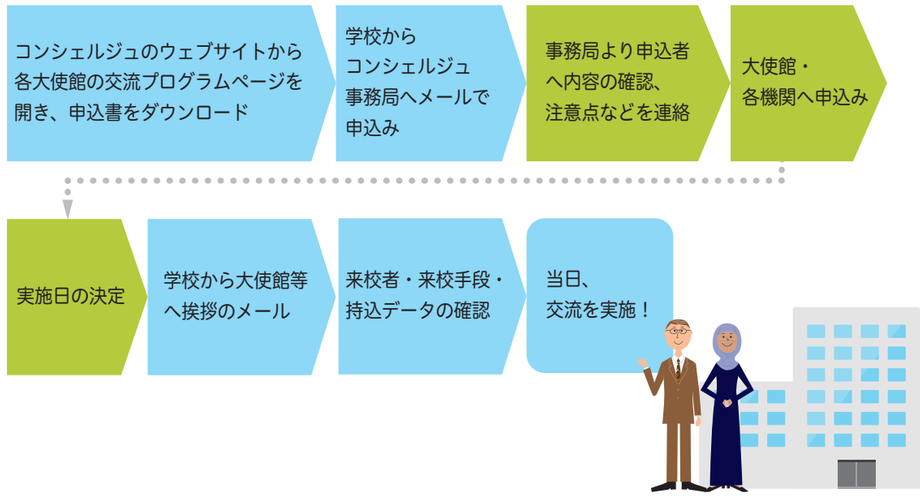
交流は、①学校への講師派遣、②大使館等への訪問、③教材提供の３種類に分けられます。①学校への講師派遣では、講演会の実施以外にも、調理実習や伝統的な歌やダンスのパフォーマンスなど、特殊な交流を体験できる場合があります。②大使館等への訪問では、見学以外にも、当該国の食事や軽食をいただくことができる場合があります。交流先によって交流内容も変わってきます。

なお、コンシェルジュを通じて大使館等との交流を行う場合には、大使館等とのマッチング、日程調整のほか、当日の機器の貸出しやセッティング、司会進行・通訳などの各種サポートを受けることができます。

注意事項

●大使館等は多くの学校の受入れや訪問に御協力いただいています。大使館等へ交流依頼後に学校都合により日程変更や取消を行うと、今後の他の学校の大使館等との交流にも支障をきたすおそれがありますので、校内で十分に調整した上で、依頼を行ってください。
●大使館等の講師を受け入れる際、また、大使館等を訪れる際には服装に御注意ください。詳しくは p.80 を御覧ください。

【参考】コンシェルジュを活用した際の交流の流れ



1 板橋区立高島第六小学校
欧州連合（EU）代表部職員による学校訪問

学校への講師派遣

取組・活動のねらい

日本と EU 諸国とのつながりに関心をもち、EU の活動や、EU 諸国の文化や生活などについて図書やインターネット等を活用して調べ、わかったことを発表したり、EU 代表部の方を招き交流したりする活動を通じて、自他の文化について理解を深め、積極的に世界の人々と交流しようとする態度を養う。

活動の位置づけ

総合的な学習の時間「世界の国々について調べよう～ EU と日本～」の単元における「まとめる」段階の一部として実施

対象者・参加人数

対象者：小学 5 年生

参加人数：95 人

EU 代表部職員との交流の様子

スケジュール

2019 年 12 月上旬	学校で指導計画の作成。EU 代表部との交流活動申請手続及び概要の決定 学校からコンシェルジュに大使館等との交流について申込み。以後、コンシェルジュが EU 代表部と調整し、１週間程度で実施日時が決定
12 月中旬	学校と EU 代表部担当者がメールでやりとりを行いながら、交流の詳細を決定
2020 年 1 月上旬	総合的な学習の時間「世界の国々について調べよう～ EU と日本～」の学習を開始
2020 年 1 月下旬	新聞社からコンシェルジュに取材依頼があったため、コンシェルジュが学校に連絡 学校が保護者に取材承諾の依頼通知を作成、配付 学校と EU 代表部担当者が当日のプレゼンデータ等の確認
2 月 3 日	交流を実施
2 月下旬	単元の学習のまとめ

交流に至ったきっかけ

継続して国際理解教育に取り組んできたが、実際に外国の人々と交流するなどの体験的な活動が十分でなかった。そこでコンシェルジュを活用した体験や交流を通して、国際交流の意味や大切さ、楽しさ等について実感的に理解を深められるようにしたいと考え、本取組に至った。

具体的な準備内容

自校

1. 児童の事前学習（これまでの学習や生活経験を振り返り、日本や私たちの生活と世界の国々の結びつきについて考える。国際会議の場面等でよく見られる欧州旗を提示し、どこの旗か調べ、その組織やねらい等について関心を高める。EU の組織やねらい等を調べ、加盟国から調べたい国を選択させる）
2. 発表についての準備等（5 年生担任、５年生児童）
3. プロジェクター、マイク等の準備（5 年生担任）
4. 新聞社の取材が入ることとなり、取材について保護者宛に通知（校長）

交流先から問合せ対応

1. EU 代表部担当者とメールで調整（会場、内容、機器、児童の発表内容・方法、EU 代表部の方のプレゼント及び児童へのプレゼント、来校人数、来校経路等）
2. 交流実施前、EU 代表部担当者とプレゼンデータ等の確認

- 経費：ポスター制作等にかかる紙等

実施内容

EU 代表部の職員を招き交流を行った。まず、児童がグループに分かれて、「EU の国々」「EU の文化」「EU の名所」「日本の伝統文化」など、調べたことをポスター発表形式で発表し合った。EU 代表部職員は児童の案内でそれぞれのブースを見学した。日本の伝統文化を紹介するブースでは琴の演奏があり、さらに EU 代表部職員が書道とけん玉を体験した。その後、EU 代表部職員が EU の目的や国々の様子等について講演を行った。

司会進行を児童が行ったり、EU 代表部職員を案内したり、児童が積極的に関われるように工夫した。

効果の見取り

児童に感想をヒアリングし、教員へも聞き取りを行った。また、ワークシート等の記述を基に、考えの深まりや意欲の高まり等を評価した。

効 果

児童の EU の理念や役割、EU 諸国の人々のくらしや文化等に対する児童の関心が高まり、理解が深まった。児童から「将来、外国に行ったり、外国で働いたりしたい」という声も聞かれた。実際に EU 代表部の方と交流することを通して、外国の人々と交流する楽しさや大切さを感じ、これから外国の人々と交流したり文化を学んだりしようとする意欲が高まった。

自分で課題を決めて追究し、EU 代表部の方や友達に紹介することを通して、主体的・協働的に学ぶ姿勢が多く見られた。また、自国の文化を見つめ直し、その良さを感じることができた。

課 題

継続的な交流活動の実施と充実を図る必要がある。また、外国語活動・外国語科、社会科、国語科、総合的な学習の時間等を有機的に関連づけながら、より主体的・協働的な学びを展開する指導計画の開発が必要である。

当日のスケジュール

10:30 ～ 11:00	EU 代表部より来校、校長と挨拶
11:00 ～ 11:10	交流開始 はじめの会　児童挨拶、校長挨拶 EU 代表部職員の紹介 EU 代表部職員の挨拶
11:10 ～ 11:25	発表交流会（ポスター発表形式）
11:25 ～ 11:40	EU 代表部職員の講演
11:40 ～ 11:45	終わりの会　児童挨拶、校長挨拶 豆まき
11:45	終了、見送り

事例紹介 ― 在京大使館等との交流

2 豊島区立池袋第三小学校
トルコ共和国大使館大使による学校訪問

学校への講師派遣

取組・活動のねらい

トルコ共和国の言語や文化、歴史などを学ぶことを通して、児童が世界の多様性を認め、様々な価値観を尊重することの大切さを理解できるようにする。

活動の位置づけ

総合的な学習の時間として実施

対象者・参加人数

対象者：小学４年生

参加人数：約 65 人

具体的な準備内容

1. 児童による事前の調べ学習
2. 児童の代表者でグループを作り、具体的な当日のプログラムや司会進行の準備
3. 音楽専科教員と連携し、児童が箏や和楽器を練習

● 経費：０円

スケジュール

2019 年 10 月 25 日	学校からコンシェルジュに、トルコ共和国大使館との交流について相談
12 月 11 日	学校からコンシェルジュに正式に申込み
12 月中旬	学校からコンシェルジュに、大使館交流にあたり事前に調べ学習をしたいとの相談があり、 コンシェルジュが学校に参考資料を送付
2020 年 1 月上旬	コンシェルジュからトルコ共和国大使館の担当者連絡先を学校に伝える。以後、学校と大使館が直接調整
2 月上旬	学校からトルコ共和国大使館に、来校人数、時間、来校手段などを確認 コンシェルジュから学校に、アンケート・プログラム完了報告書提出の依頼
2 月 21 日	交流を実施

交流に至ったきっかけ

前年度からコンシェルジュを活用し、トルコ大使館との交流を行っていた。そのためトルコ大使館との連携が取りやすかったので、今年度も継続して大使館と交流を行うことにした。本交流実施前の５・６月に図書館の本とインターネットを活用して、トルコ共和国の食べ物や洋服などの文化、小学校の生活、人口や気候などについて調べたので、実際にトルコ大使館の方との交流を通して、学習を深めていきたいと考え実施に至った。

実施内容

トルコ共和国大使館から大使を招き、講演会を行った。大使からのトルコについての紹介の講演だけでなく、児童から大使への質問、児童による和太鼓・箏・リコーダー演奏、学校紹介、トルコについての事前の調べ学習発表、日本の遊び「けん玉」紹介、トルコと日本のつながりについて紹介など、双方向のコミュニケーションを図った。

効果の見取り

児童の取り組み態度の観察や、児童へのヒアリング

効 果

トルコ共和国と日本について事前の調べ学習を通じて児童の異文化理解が進んだ。トルコ共和国大使はとても気さくな方で、２年続けて当校を訪問し、今回も児童の発表を熱心に聞き、高く評価してくれたことで、児童・教員ともにトルコ共和国に親しみを持った。

課 題

交流のまとめや他学年への報告などに継続して取り組み、児童が学習の振り返りをできるように学習計画を立てていきたい。

本交流の後、トルコ大使館に招かれたり、他の学年に伝えたりしながら、学習を継続し、今後の交流へと繋げる予定だったが、コロナ禍による休校等の措置のため、学習を進めることができなかった。

3 世田谷区立塚戸小学校
各国大使館等への折り紙送付プロジェクト

取組・活動のねらい

オリンピック・パラリンピック教育を通して「ボランティアマインド」の資質を身に付けさせる。大使館来訪者へのプレゼントとして置く目的で、児童が作った折り紙を「世界ともだちプロジェクト」*1 対象国大使館に送る企画。児童が日本の文化に触れたり、「おもてなしの心」や「社会貢献への意欲」を高める。

活動の位置づけ

国際理解・国際親善、親切・思いやりの心を育てる道徳教育の一貫として実施

対象者・参加人数

対象者：小学１～６年生

参加人数：全校児童 1,000 人 ※２学年ずつ（約 300 人）

具体的な準備内容

1. 朝会で担当教員がプロジェクトの内容を全校に周知
2. 日本折紙協会への講師依頼
3. 折り紙と挨拶状（日本語・英語）の用意
4. コンシェルジュを介して折り紙送付先との調整

● 経費：50,000 円（日本折紙協会への謝礼、交通費を含む）

スケジュール

2019 年 1 月上旬	学校からコンシェルジュに、折り紙を大使館等に送るプロジェクトについて相談
1 月上旬～ 2 月下旬	コンシェルジュが各国大使館と調整し、受け入れ可否状況を学校に報告
3 月上旬	学校で日本折紙協会から講師を招き、児童に折り紙の講演会を実施
3 月中旬	児童が和紙の折り紙で作品を作成、コンシェルジュを通じて各国大使館等に送付

交流に至ったきっかけ

オリンピック・パラリンピック教育の一環で、児童にも大会を支える一員である意識が芽生え、自分達ができるおもてなしとして、日本の伝統文化である折り紙で何かできないかと考え、本プロジェクトに至った。

実施内容

全校児童が折り紙を折り、各国大使館等に送るプロジェクトを実施した。日本折紙協会から講師を招き、折り紙の文化や折り紙の魅力を児童に講演し、鶴や鳥などの折り方を教わった。後日、高学年が低学年を教えながら児童が千代紙で作品をつくり、「世界ともだちプロジェクト」対象国の大使館等にコンシェルジュを介して送付した。

送付先のひとつである在ヨルダン日本大使館では、大使館来訪者に配布したほか、職員がヨルダン現地の学校にも作品を送った。返礼として、ヨルダンの学生が折った折り紙作品が当校に送付されるという交流に発展した。

効果の見取り

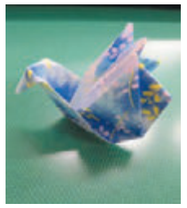
児童の取り組みの様子の観察

効 果

児童が日本の文化を海外に発信する取り組み、実感を持って参加できる機会になった。日本がたくさんの外国人をもてなすという意識づけができた。送付先からの感謝の反応があったことで、児童が外国に愛着をもつようになった。

課 題

ねらいを明確にして児童にしっかりと伝え、目的意識をもって活動に取り組むことで、より効果が高まると期待している。


児童の作品

ヨルダンの学校での折り紙ワークショップ

*1：東京 2020 大会参加予定国・地域を幅広く学び、実際の国際交流に発展させる東京都の取組。学校ごとに調べ学習、大使館との交流、手紙・メールの交換、学校間交流などを通じて当該国・地域についての理解を深める。

4 目黒区立不動小学校 モルドバ共和国大使館大使・大使夫人・外交官による学校訪問

学校への講師派遣

取組・活動のねらい

オリンピック・パラリンピック教育「世界ともだちプロジェクト」*1 対象国の歴史や文化について学ぶ。

活動の位置づけ

行事・総合的な学習の時間（オリンピック・パラリンピック教育）として実施

対象者・参加人数

対象者：小学１～６年生　参加人数：全校児童 567 人

具体的な準備内容

1. 児童への事前指導（低学年：学区内の大使館の国旗等を調べる。中学年：町探検と合わせて区内の大使館を調べる。高学年：英語の「行ってみたい国」社会の「世界の中の日本」の単元に関連し、日本や世界の大使館を調べる。）
2. 交流先との調整（講演内容について要望）

● 経費：０円

スケジュール

2019 年 7 月 29 日	学校からコンシェルジュに、大使館交流について相談
7 月 31 日	学校からコンシェルジュに、モルドバ大使館との交流の申込み
8 月上旬	コンシェルジュがモルドバ大使館と調整し、実施日を 12 月 3 日に決定
9 月上旬	学校からコンシェルジュを通じてモルドバ大使館に、来校人数の問合せ（給食の準備のため 10 月上旬までに確定）、合わせて講演内容についての要望
9 月下旬	コンシェルジュを通じて学校とモルドバ大使館でプログラムの内容を決定
12 月 3 日	交流を実施

交流に至ったきっかけ

「世界ともだちプロジェクト」対象国の中で学校訪問可能な大使館についてコンシェルジュに相談し、児童がこれまで学習したことのない国であるモルドバ共和国大使館との交流を選んだ。

実施内容

モルドバ共和国大使館の大使・大使夫人・外交官による講演を行った。クイズ、手作りメダルのプレゼント、歌、モルドバ料理の給食交流などを実施。クイズは日本からモルドバまでの飛行機移動時間、モルドバで「ありがとう」の言葉、オリンピック選手など多岐にわたり、盛り上がった。

■ 当日のスケジュール

10:30 ～ 11:00	大使館より来校、大使館からの記念品の展示
11:00 ～ 11:05	校長挨拶、大使紹介、児童の歓迎の歌
11:05 ～ 11:30	モルドバ大使の講演
11:30 ～ 11:50	３択クイズ
11:50 ～ 11:55	手作りメダルのプレゼント
11:55 ～ 12:00	校歌斉唱、終わりの挨拶

効果の見取り

児童が書いた感想から確認

効 果

児童の豊かな国際感覚の醸成ができた。

今後に向けて

今回の交流をはじめ、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を通じて、さらに多くの国を知る必要があると考える。

モルドバ大使を見送る児童

*1：東京 2020 大会参加予定国・地域を幅広く学び、実際の国際交流に発展させる東京都の取組。学校ごとに調べ学習、大使館との交流、手紙・メールの交換、学校間交流などを通じて当該国・地域についての理解を深める。

5 文京区立文林中学校 アルバニア共和国大使館への訪問

大使館への訪問

取組・活動のねらい

大使館訪問を通して、当該国の文化や歴史等を学び、国際理解を深め、多様性や文化の違いを理解する。また、大使館の果たす役割を学ぶことで、日本と当該国をつなぐ大使館等の重要性を理解し、豊かな国際性を醸成する。事前事後学習を通じ、物事を調べたり、まとめたりする力を育てる。

活動の位置づけ

総合的な学習の時間、国際理解教育の一環として実施

対象者・参加人数

対象者：中学１年生

参加人数：11 人

具体的な準備内容

1. コンシェルジュを介して交流先と調整
2. 生徒への概要説明・グループ分け（1 時間）
3. アルバニアについての事前学習（2 時間）と発表（1 時間）
4. 生徒の訪問に向けた質問づくり（1 時間）
5. 訪問のまとめと事後学習の発表準備（5 時間）

● 経費：一人当たり 400 ～ 500 円（交通費）

スケジュール

2019 年 7 月 4 日	学校からコンシェルジュに、大使館交流について相談 21 名を 2 グループに分けて 2 箇所の大使館訪問を希望
10 月下旬	学校からコンシェルジュに、コスタリカ大使館とアルバニア大使館との交流の申込み
11 月中旬	コンシェルジュが両国大使館と調整し、アルバニア大使館の訪問受入が決定 コスタリカ大使館は日程調整がつかず訪問受入ができないため、代替案として「東京ジャーミイ」訪問が決定
2020 年 1 月中旬～下旬	生徒に事前の国際理解学習（4 時間）　※『世界がもし 100 人の村だったら』等を教材として活用 学校が文京区立図書館に依頼し、アルバニアに関する本を収集
2 月上旬	学校が、生徒が訪問時にアルバニア大使館に質問したいことを準備するよう指導
2 月 6 日	交流を実施

交流に至ったきっかけ

前年度、１学年でイスラエル大使館訪問を実施したため、引き続き今年度も大使館訪問を実施することに決定した。

実施内容

21 名の生徒を 2 グループに分け、一方のグループがアルバニア共和国大使館を訪問し、大使館のアルバニアの紹介を聞き、質疑応答を行った。また、もう一方のグループは、訪問したことのある教員の勧めでイスラム教寺院「東京ジャーミイ」に訪問し施設を見学した。

■ 当日のスケジュール

12:00 ～ 12:30	準備、学校出発
12:30 ～ 13:30	移動
13:30 ～ 14:40	１グループはアルバニア大使館訪問 もう１グループは東京ジャーミイ見学
14:40 ～ 15:30	移動
15:30	学校到着

効果の見取り

交流後、生徒が学習した内容をまとめたスライドから確認

効 果

大使館へ実際に足を運び、話を聞くことで、生徒がアルバニアについてインターネットや本では調べきれないことを直接学ぶことができた。また、大使館の役割の一端を知ることができた。

実施後、訪問や事前学習で学んだことのまとめと発表をしたことで、理解が深まり、伝え方を学ぶ機会にもなった。

課 題

今回の交流を一過性ではなく継続して複数年、複数回実施できるのが望ましい。

アルバニア大使館で説明を聞く生徒

渋谷区立鉢山中学校

6 ①チェコ共和国大使館外交官による学校訪問 ②日本チェコ協会による学校訪問、ダンス交流

学校への講師派遣

取組・活動のねらい

オリンピック・パラリンピック教育の「豊かな国際交流」という枠組みの中で、「世界ともだちプロジェクト」*1 対象国であるチェコ共和国の大使館との交流を通じて文化の違いや多様性について学び、国際感覚の醸成を図る。

活動の位置づけ

オリンピック・パラリンピック教育の一環として実施

対象者・参加人数

対象者：中学１～３年生

参加人数：106 人

日本チェコ協会関係者による伝統舞踊「ポルカ」

スケジュール

2019 年 ６月上旬	チェコ共和国大使館からコンシェルジュに、学校との交流について提案があり、コンシェルジュが学校に紹介し、実施が決定
６月中旬	コンシェルジュを通じてチェコ共和国大使館と学校が調整し、交流実施の日時を決定
７月上旬	コンシェルジュを通じてチェコ共和国大使館から学校に、交流日の来校時間やプログラム内容について連絡 当日の講演に使うデータの持ち込み方法（USB）の確認
７月 12 日	交流を実施（①チェコ共和国大使館外交官による学校訪問）
2020 年 １月上旬	学校からコンシェルジュに、チェコ共和国関連機関との交流を相談 できればチェコ共和国の伝統舞踊「ポルカ」を一緒に踊ることを希望
１月下旬	コンシェルジュがチェコ共和国大使館に交流内容を相談し、大使館が日本チェコ協会を紹介 日本チェコ協会からコンシェルジュを通じて学校に「東欧の民族舞踊研究会」を紹介、研究会が「ポルカ」の実演とダンス指導を承諾
２月上旬	学校と日本チェコ協会担当者が当日のスケジュール、選曲、準備について打合せ
２月 13 日	交流を実施（②日本チェコ協会関係者の学校訪問・ダンス交流）

*1：東京 2020 大会参加予定国・地域を幅広く学び、実際の国際交流に発展させる東京都の取組。学校ごとに調べ学習、大使館との交流、手紙・メールの交換、学校間交流などを通じて当該国・地域についての理解を深める。

交流に至ったきっかけ

オリンピック・パラリンピック教育「世界ともだちプロジェクト」対象国の一国であるためチェコ共和国との交流を検討していたところ、コンシェルジュを通じて大使館との交流を相談されたため、交流に至った。

具体的な準備内容

1. 校内のスケジュール調整と講師依頼
2. 事前に生徒がチェコについて調べ学習
3. 生徒のチェコのダンスの練習、指導

● 経費：35,000 円（日本チェコ協会１名、東欧の民族舞踊研究会６名への謝礼。交通費を含む。）

実施内容

①大使館外交官の学校訪問

チェコ共和国大使館から外交官１名と職員１名が来校し、生徒に対して講演会を行った。スライドを用いてチェコ共和国の紹介や生徒の質疑応答、チェコ共和国についてのクイズなどを実施。さらにチェコ共和国を紹介する５分ほどのビデオも上映した。最後に全校生徒で御礼の合唱を贈った。

②日本チェコ協会関係者の学校訪問・ダンス交流

チェコ共和国大使館外交官の学校訪問による交流の後も「世界ともだちプロジェクト」の一環としてチェコ共和国についての学習を続け、その集大成として日本チェコ協会関係者とのダンスを主体とした交流に至った。日本チェコ協会関係者１名と東欧の民族舞踊研究会６名が来校して、チェコ共和国の伝統舞踊「ポルカ」を生徒に教えて一緒に体験した。他にも日本とチェコ共和国との関係やチェコ共和国の伝統的な衣装の紹介についての講演も行った。

①当日のスケジュール

13:10	準備開始
14:15	大使館外交官１名と職員１名が来校
14:25 ～ 14:35	生徒が椅子を持って体育館へ移動
14:35 ～ 15:15	講演会
15:15 ～ 15:20	質疑応答
15:20 ～ 15:25	生徒からの御礼挨拶、合唱
15:25	終了

効果の見取り

生徒の「オリンピック・パラリンピックノート」に書いた感想と、全校一斉調べ学習としてチェコ共和国について１人１テーマでスライドにまとめる取組の様子の観察

効 果

「オリンピック・パラリンピックノート」に書かれた生徒の感想では、「チェコのダンスは楽しむことをモットーにしていることがわかった」「チェコはいろいろな国に囲まれ、様々な魅力を持っていて、世界にはたくさんの素晴らしいものがあるんだなと思った」「チェコの伝統の服装は、とてもカラフルで明るい服だということを実際に見ることができた」などの意見があり、チェコ共和国についての理解を深めるとともに、国際社会の多様性を感じる機会となった。

さらに、2019 年 12 月から 2020 年１月にかけて、チェコ共和国について全校一斉調べ学習を行い、生徒にスライドにまとめさせた。国土、歴史、食生活、言語、文学などから１人１テーマを選び、全校生徒が興味・関心を持ち、取り組んでいた。

課 題

大きな問題点は感じなかった。年間を通してチェコ共和国について学ぶことで理解を深めることができた。

「ポルカ」を体験する生徒

②当日のスケジュール

13:10	準備開始
13:30	日本チェコ協会関係者が来校
14:25 ～ 14:40	生徒が椅子を持って体育館へ移動
14:40 ～ 14:55	講師紹介、講演
14:55 ～ 15:20	伝統舞踊「ポルカ」体験
15:20 ～ 15:23	質疑応答
15:23 ～ 15:25	生徒からの御礼挨拶
15:25	終了

7 都立成瀬高等学校
マレーシア大使館外交官による学校訪問

学校への講師派遣

取組・活動のねらい

国際交流理解の一環として、留学先の候補に挙がるアジア圏の国として、マレーシア大使館との交流の機会を作り、マレーシアについて理解を深める。

活動の位置づけ

オリンピック・パラリンピック教育の一環として実施

対象者・参加人数

対象者：高校２年生

参加人数：278 人

マレーシア大使館外交官・秘書と代表生徒の記念撮影
※講演会は新型コロナウイルス感染症対策を十分に取った上で行い、記念撮影時以外はマスク着用を徹底した。

スケジュール

2020 年 ３月中旬	学校からコンシェルジュに大使館交流について相談。しかし、以後７月までコロナ禍のため一時保留
８月中旬	コンシェルジュから学校に再度大使館交流の意向と候補日程の確認 コンシェルジュがマレーシア大使館に申込み
10 月上旬	コンシェルジュがマレーシア大使館と調整し、実施日を 12 月 11 日に決定
11 月中旬	学校がコンシェルジュを通じて、マレーシア大使館と当日の時間等の詳細を連絡 コンシェルジュを通じてマレーシア大使館の担当者連絡先を学校に連絡。以後、学校と大使館が直接調整
11 月下旬	学校が当日の質問事項をまとめて準備 学校がマレーシア大使館に、来校手段や事前に準備するものを確認、スケジュールの詳細を決定
12 月上旬	学校が講演会の実施要項を作成
12 月 11 日	交流を実施
12 月下旬	学校とマレーシア大使館の双方で、ホームページ上に交流についての紹介を公開

交流に至ったきっかけ

交流国を選ぶにあたり、留学などで生徒の候補に挙がりやすい国である、マレーシア大使館との交流を決めた。

具体的な準備内容

1. 英語の授業中に、今回の交流で質問したい生徒を募集し、当日までに質問内容を作成。希望する生徒の中から８人程度の質問者を選出（質問内容は英語科の教員が協力して生徒をサポート）
2. 当日の実施要項の作成
3. 交流先との調整（スケジュール、テーマ選定等）

- 経費：０円

実施内容

マレーシア大使館の外交官を招き、講演会を実施した。通訳は秘書が行った。講演のテーマはマレーシアと日本の関係、大使館の仕事内容についての２本立て。さらに、マレーシアの伝統音楽「ラサ・サヤン」を披露し、外交官がアカペラで歌い、生徒と交流した。最後に質疑応答を行い、各クラス男女１名ずつ、合計８名が質問をした。

当日のスケジュール

10:40 ～ 11:30	会場準備 プロジェクター、スクリーン、演台、階段、マイク、講演者椅子の用意 暖房・換気の徹底
12:50 ～ 13:10	生徒が体育館に集合 マレーシアのプロモーション動画を上映
13:00 ～ 13:15	マレーシア大使館外交官が来校、校長挨拶
13:15 ～ 13:20	マレーシア大使館外交官が体育館に入場
13:20 ～ 13:25	校長からマレーシア大使館外交官の紹介
13:25 ～ 14:05	講演会
14:05 ～ 14:15	マレーシアの伝統音楽を披露
14:15 ～ 14:35	生徒の質疑応答
14:35	終了、生徒による見送り
14:40	生徒退場 マレーシア大使館外交官は玄関を出て代表生徒と写真撮影、見送り

効果の見取り

英語を使った発表に対する生徒の意識の変化を観察

効 果

質疑応答などを通じて、互いに外国語である英語を介して意思疎通することができることを生徒が実感し、実生活に即した「使える英語」を身につける重要性について理解を深めることができた。今回の企画により、英語学習への積極性や動機付けが高まり、発表する機会に恵まれなかった生徒からも次の機会に発表したいという声が複数挙がっている。

課 題

マレーシアと日本との密接な関係を理解し、グローバル社会で生きる自己の将来に結びつける指導を行う。そして、英語プレゼンテーションへの理解をさらに深めるとともに、英語での発話にも慣れ、外国人とのコミュニケーションを積極的に図る指導を推進していく必要がある。

講演会の様子

事例紹介 ― 在京大使館等との交流

8 都立葛飾商業高等学校
パレスチナ常駐総代表部による学校訪問（食文化交流）

学校への講師派遣

取組・活動のねらい

家庭総合「食分野」で、日本と世界の食生活について生徒たちが学んだことを踏まえ、「世界ともだちプロジェクト」*1 対象国であるパレスチナの大使夫人を招き、両国の朝食づくり（調理実習）を体験する。

活動の位置づけ

オリンピック・パラリンピック教育「世界ともだちプロジェクト」の一環として実施

対象者・参加人数

対象者：高校３年生

参加人数：32 人（３年３組）

パレスチナ大使夫人の紹介、挨拶

スケジュール

2019 年 ３月８日	学校の家庭科教諭から、日本の料理とパレスチナ料理の食文化交流はできないかとのコンシェルジュに相談
３月中旬	コンシェルジュからパレスチナ代表部に相談・調整、大使夫人による交流の承諾
４月２日	学校からコンシェルジュに正式に申込み。学校側の希望実施日を複数候補提出
５月	学校とパレスチナ代表部で調理内容テーマの選定と連絡
７月上旬	学校とパレスチナ代表部で直接メールでの連絡を開始、事前に学校訪問の上、詳細を決めることに決定
９月上旬	パレスチナ代表部による学校訪問、メニューや食材の注意事項について確認
10 月	学校で使用する食材・器具の確認、パレスチナ料理のレシピをパレスチナ代表部から受領
11 月初旬～前日	学校の担当教員による食材の調達とミキサーなどの器具の準備
11 月 19 日	交流を実施

*1：東京 2020 大会参加予定国・地域を幅広く学び、実際の国際交流に発展させる東京都の取組。学校ごとに調べ学習、大使館との交流、手紙・メールの交換、学校間交流などを通じて当該国・地域についての理解を深める。

交流に至ったきっかけ

以前より、「世界ともだちプロジェクト」対象国との食文化をテーマにした交流を行いたいと考えていたため。

具体的な準備内容

自校

1. 対象クラスの選定、生徒の食物アレルギーの調査
2. 食材調達
3. 相手国の地理・文化・宗教の事前学習（1 時間）
4. アラビア語の簡単なあいさつ、英語での開始と終了のあいさつ（英語）指導

交流先からの問合せ対応

1. 宗教上の禁止食材の聞き取り、調理メニューの決定
2. 日本では手に入りにくい食材の購入場所の聞き取り
3. 調理実習の工程確認、調理室の確認、作業方法の確認（例：肉の過熱は食中毒防止のため、オーブンにするなど）

● 経費：食材　ひとり 800 円程度

実施内容

日本とパレスチナのそれぞれの国の「定番の朝食」をテーマに調理と試食を行った。

まず日本の定番の朝食として、梅干しとちりめんじゃこのおにぎり、豆腐と油揚げの味噌汁の２種類を紹介し、実際に調理した。パレスチナ大使夫人が生徒に教わりながらおにぎりを握るなど、楽しそうな雰囲気だった。次に、パレスチナ大使夫人から、ホンモス（ひよこ豆のディップ）とシシタウーク（チキンケバブ）を習い、調理した。

当日のスケジュール

9:30 ～ 10:40	パレスチナ代表部より来校 挨拶の後、調理室にて準備
10:40 ～ 10:50	開始　挨拶・実習説明（日本食）
10:50 ～ 11:15	実習（日本食）
11:15 ～ 11:30	実習説明（パレスチナ食）
11:30 ～ 11:55	実習（パレスチナ食）
11:55 ～ 12:15	試食
12:15 ～ 12:25	片付け
12:25 ～ 12:30	まとめ・終了

効果の見取り

事後に参加した生徒に感想を書かせ、体験の充実度やパレスチナへの理解度を測る。

効 果

日本とパレスチナの食文化交流調理実習を通して、ただ「料理がおいしかった」というだけでなく、生徒が海外の国や地域、文化に興味を持つことができた。同時期に他教科でパレスチナの歴史を学んでいたため、より深くパレスチナを理解できたようである。また、外国の方を料理でもてなすために、生徒が普段口にしている日本食の魅力を見直すきっかけにもなった。

今後に向けて

オリンピック・パラリンピックが終了しても、このような国際交流を継続できるようにしていきたい。

完成したパレスチナ食（上：ホンモス、下：シシタウーク）

9 都立江東特別支援学校（知的障害）
中華人民共和国大使館外交官による学校訪問

学校への講師派遣

取組・活動のねらい

オリンピック・パラリンピック教育「世界ともだちプロジェクト」*1 対象国である「中華人民共和国」の文化を知るとともに、大使館の方との交流を通して、生徒の国際感覚を育む機会とする。また、生徒が学習の成果を発表することから得られる自己達成感や、学習意欲の向上など、今回の教育プログラムの教育的効果に期待し、さらなる深い学びにつなげていきたいと考えた。

活動の位置づけ

オリンピック・パラリンピック教育「世界ともだちプロジェクト」の一環として「文化（日本文化･国際理解･交流）」をテーマとし、総合的な学習の時間及び総合的な探究の時間を中心に実施

対象者・参加人数

対象者：高等部１～３年生

参加人数：159 人

講演会の様子

スケジュール

2019 年 4 月下旬	都教委から「世界ともだちプロジェクト」で中華人民共和国が対象国になっている学校に向けて、コンシェルジュを通じた同国大使館との交流を希望する学校を募集する通知を発出
5 月 17 日	学校からコンシェルジュに、中華人民共和国大使館との交流について申込み
8 月上旬	同国大使館外交官が 11 月 22 日に学校訪問を行うことが決定 その旨をコンシェルジュから学校に連絡
8 月上旬	コンシェルジュが中華人民共和国大使館を訪問し担当者に挨拶、実施までのスケジュールを確認
11 月中旬	コンシェルジュを通じて学校が中華人民共和国大使館にプログラム内容の希望を連絡、調整 当日に同国大使館外交官が持ち込むプレゼンテーション用データや、来校手段の確認
11 月 21 日	学校が前日準備、プレゼンテーション（中華人民共和国についての調べ学習）発表者のリハーサルを実施
11 月 22 日	交流を実施

*1：東京 2020 大会参加予定国・地域を幅広く学び、実際の国際交流に発展させる東京都の取組。学校ごとに調べ学習、大使館との交流、手紙・メールの交換、学校間交流などを通じて当該国・地域についての理解を深める。

交流に至ったきっかけ

都教委より、中華人民共和国大使館との交流についての通知があったため、コンシェルジュに申込み・依頼を行った。

具体的な準備内容

1. 「世界ともだちプロジェクト」の概要について、教員がプレゼンテーション資料を作成し、生徒に説明
2. 書籍やインターネットなどで事前の調べ学習や中華人民共和国の料理・菓子の調理実習を実施
3. 発表者の調整及びプレゼンテーション資料作成と発表練習の指導

- 経費：０円

実施内容

中華人民共和国大使館から外交官が来校し、生徒に対して講演会を行った。中華人民共和国の紹介や生徒の質疑応答、中華人民共和国についてのクイズなどを実施。さらに学校からのリクエストで、伝統的な遊び「羽蹴り」の紹介と実演、代表生徒・教員による体験もできた。一方、代表生徒から、中華人民共和国についての調べ学習の発表も行った。

当日のスケジュール

10:00 ～ 10:20	大使館より来校、事前打合せ
10:20 ～ 10:30	「世界ともだちプロジェクトについて」の説明
10:30 ～ 11:05	講演会 スライドを使っての中華人民共和国についての紹介（20 分） 質疑応答・クイズ（15 分）
11:05 ～ 11:15	休憩
11:15 ～ 11:35	羽蹴り
11:35 ～ 11:50	生徒からの発表
11:50 ～ 12:00	写真撮影
12:00	終了

効果の見取り

実施後の学習で作文やワークシートなどを生徒に書かせ、その内容から確認

効 果

生徒が「世界ともだちプロジェクト」の学習に興味をもつことができた。外交官がスライド資料に沿って分かりやすく話をしてくれたため、中華人民共和国の文化や地理などを理解し、身近に感じることができた。羽蹴りは、実際に体験した生徒以外も、周りで応援したことで全員が楽しむことが出来た。

課 題

毎年、生徒が進級していくので、学習内容・テーマを変えながら、継続的・計画的に進めていくことが課題

「羽蹴り」体験

在京大使館等との実施可能プログラム

大使館等・団体名	講師派遣	訪問受入	教材提供	学校交流
アイルランド大使館	●		●	
アフガニスタン・イスラム共和国大使館		●	●	
アラブ首長国連邦大使館	●	●		
アルジェリア民主人民共和国大使館	●			
アルゼンチン共和国大使館	●	●		
アルバニア共和国大使館	●	●	●	
アルメニア共和国大使館	●			
アンゴラ共和国大使館	●	●	●	
イスラエル国大使館	●	●	●	
イラク共和国大使館	●	●		
イラン・イスラム共和国大使館	●	●		
インド大使館	●	●	●	
ウクライナ大使館	●	●	●	
ウルグアイ東方共和国大使館	●	●		
エジプト・アラブ共和国大使館		●		
エリトリア国大使館	●		●	
エルサルバドル共和国大使館	●	●		
欧州連合（EU）代表部	●	●	●	
オーストラリア大使館	●		●	
オマーン国大使館	●	●	●	
オランダ王国大使館			●	
カタール国大使館	●	●		
カナダ大使館	●	●	●	
キューバ共和国大使館		●	●	
ギリシャ大使館	●			
クロアチア共和国大使館	●			
コスタリカ共和国大使館	●	●		
コソボ共和国大使館	●		●	
コロンビア共和国大使館	●	●	●	
サウジアラビア王国大使館	●			
サモア独立国大使館		●	●	
サンマリノ共和国大使館			●	
ジブチ共和国大使館	●			
ジョージア大使館	●	●	●	
シンガポール共和国大使館		●		
スイス大使館	●		●	
スウェーデン王国大使館		●		
スーダン共和国大使館		●	●	
セネガル共和国大使館		●		
セルビア共和国大使館	●	●	●	
タイ王国大使館		●		
台北駐日経済文化代表処大使館	●		●	
タンザニア連合共和国大使館	●	●		
チェコ共和国大使館	●	●	●	
中華人民共和国大使館	●	●		
チュニジア共和国大使館	●	●	●	
チリ共和国大使館	●	●		
デンマーク王国大使館	●	●		
ドイツ連邦共和国大使館	●	●		
トーゴ共和国大使館	●	●		
ドミニカ共和国大使館	●	●		
トルクメニスタン大使館	●	●		

大使館・団体名	講師派遣	訪問受入	教材提供	学校交流
トルコ共和国大使館	●	●	●	
ナイジェリア連邦共和国大使館		●		
ネパール連邦民主共和国大使館		●		
ノルウェー王国大使館	●		●	
バーレーン王国大使館	●	●		
パナマ共和国大使館	●	●		
パラグアイ共和国大使館	●	●	●	
パレスチナ常駐総代表部	●	●	●	
バングラデシュ人民共和国大使館	●	●		
東ティモール民主共和国大使館	●	●		
フィジー共和国大使館	●	●		
フィリピン共和国大使館	●	●		
フィンランド大使館			●	
ブラジル連邦共和国大使館	●			
フランス大使館	●			
ブルキナファソ大使館		●		
ブルネイ・ダルサラーム国大使館		●	●	
ベナン共和国大使館	●	●		
ベネズエラ・ボリバル共和国大使館	●	●	●	
ベルギー王国大使館	●	●		
ポーランド共和国大使館	●	●	●	
ボツワナ共和国大使館	●	●		
ボリビア多民族国大使館	●			
ポルトガル大使館		●		
北マケドニア共和国大使館			●	
マリ共和国大使館			●	
マレーシア大使館	●	●		
ミクロネシア連邦大使館	●	●		
南アフリカ共和国大使館	●	●		
メキシコ合衆国大使館	●	●		
モザンビーク共和国大使館		●		
モルディブ共和国大使館	●	●	●	
モルドバ共和国大使館	●		●	
ルーマニア大使館	●	●	●	
レソト王国大使館		●		
レバノン共和国大使館	●			
在東京サントメ・プリンシペ民主共和国名誉領事館	●	●	●	
在東京ソロモン諸島名誉領事館	●	●	●	
在東京ニジェール共和国名誉領事館	●		●	
在東京マルタ共和国名誉総領事館	●		●	
在東京モンテネグロ名誉領事館	●			
在東京ツバル名誉総領事館	●		●	
一般社団法人　日本アルゼンチン協会	●			
一般財団法人　日本国際協力センター（JICE）	●			●
インディア・インターナショナルスクール・イン・ジャパン				●
NPO 法人　CMC	●			
NPO 法人　シニアボランティア経験を活かす会	●			
NPO 法人　目黒ユネスコ協会	●			
学校法人清泉女学院				●
独立行政法人　国際協力機構（JICA）	●	●		
独立行政法人　日本学生支援機構（JASSO）	●			
日本台湾教育センター	●			●

※時期や内容によっては実施できない場合があります。

事例紹介

海外の学校等の訪問受入

海外から日本を訪問する学校を受け入れて交流行事を開催することで、児童・生徒は日本にいながら国際交流の機会を得られ、国際理解を深めることができます。また、児童・生徒が海外から来日した学生と直接話すことができ、英語によるコミュニケーション能力を高めることにつながります。

歓迎のセレモニーや校内見学、授業への参加等をはじめ、給食を一緒に食べたり、部活動を体験したりするなど、交流の幅が広いのが特徴です。

東京都教育委員会では、日本型教育の体験や日本文化、東京の暮らし等に触れることができる外国人留学生の受入事業「東京体験スクール」を実施し、海外からの留学生の受入拡大を推進しています。

なお、コンシェルジュを通じて海外の学校等の訪問受入をする場合、コンシェルジュが交流先を探し、当日の流れや準備することのアドバイス、また当日の通訳の手配など全て対応します。

注意事項

交流する時期は希望通りにならない場合があります。また、交流先の校種が同一にならない場合があります。

【参考】コンシェルジュを活用した際の交流の流れ

学校からコンシェルジュ事務局へ申込み → 事務局から希望内容の確認連絡 → 実施日と交流先の決定 交流先との打合せ → 当日、交流を実施！

1 杉並区立杉並和泉学園 中国の小学校からの訪問受入

取組・活動のねらい

オリンピック・パラリンピック教育「世界ともだちプロジェクト」*1 対象国である「中華人民共和国」について、「中国の友だちと交流し、異文化を理解しよう」「他国の友だちと仲良くなろう」と題し、中国の小学生との交流を通して、互いの文化を学ぶとともに豊かな国際感覚を養う。

対象者・参加人数

対象者：小学部１～５年生（667 人）
　　中学部代表参加者（10 人）
参加人数：計 677 人

活動の位置づけ

総合的な学習の時間（国際交流）及び特別活動として実施

スケジュール

2019 年 5 月上旬	JNTO（日本政府観光局）から杉並区教育委員会を通して、学校に訪日旅行訪問受入の相談
6 月上旬	学校が検討し、訪問受入を決定し杉並区教育委員会に連絡
6 月中旬	JNTO から学校に来校予定者の名簿を送付 学校から JNTO に来校予定者のアレルギーについての確認を依頼
6 月下旬	杉並区教育委員会の担当者が学校を訪問し打合せ。学校が準備するものについて確認
7 月上旬	学校がコンシェルジュに通訳の手配を依頼
7 月上旬	学校が中国語版の学園パンフレットを制作、記念品を準備
7 月 12 日	中国からの訪問受入を実施

*1：東京 2020 大会参加予定国・地域を幅広く学び、実際の国際交流に発展させる東京都の取組。学校ごとに調べ学習、大使館との交流、手紙・メールの交換、学校間交流などを通じて当該国・地域についての理解を深める。

交流に至ったきっかけ

杉並区教育委員会事務局からの紹介で、訪問受入を行うに至った。

具体的な準備内容

❶ 交流先の教職員･児童の名前（漢字･かな）を事前に確認し、名札を作成
❷ 交流先児童のアレルギー食の確認
❸ 交流学級への参加人数の調整、各学級の椅子、机の準備
❹ 当日のタイムスケジュール作成（時間制限があったため）
❺ 国旗・横断幕の作成
❻ 中国語版学園パンフレットの作成・印刷、記念品の発注
❼ 会議室及び大アリーナの会場準備

● 経費：
・名札用台紙・フォルダー（125 人分）：10,000 円
・ペットボトルお茶 125 本：10,000 円
・記念のボールペン 125 本：10,000 円
・中国語版学園パンフレット制作：翻訳 2,200 円
・エコバック（６年生児童がデザインしたもの）：500 円× 100 人分＝ 50,000 円
・学園 CD1000 円× 100 枚＝ 100,000 円
　合計：182,200 円

実施内容

中国広東省の小学校から児童・教員合わせて 125 人が来校し、交流を行った。到着後、グループに分かれて１～５年生の各クラスに移動し、一緒に給食を食べて交流した。午後からは学園の大アリーナにて交流会を行った。中学部の生徒による学園代表挨拶の後に和太鼓演奏パフォーマンスを披露した。学園長挨拶、交流先校長挨拶、交流先の児童代表挨拶に続き、交流先からも合唱・竹笛演奏・ピアノ演奏・ダンスなど様々なパフォーマンスが披露された。最後にプレゼント交換と両校の児童と校長のスピーチで終了した。

■ 当日のスケジュール

11:30	学校到着
11:30 ～ 12:10	会議室で両校校長が挨拶
12:10 ～ 13:20	各学級に分かれて挨拶、給食交流
13:20 ～ 15:00	大アリーナにて交流会
15:00	学校出発

効果の見取り

児童に感想をヒアリングし、教員へも聞き取りを実施

効 果

児童が国際感覚を培う機会となった。中国語しかわからない交流先の小学生と隣同士で給食を食べることで、言葉以外の交流を試みようとする児童の様子があった。笑顔が見られると、互いに嬉しくなり、笑い声が聞こえてくる場面もあった。

交流先の児童のパフォーマンスを観ることで、衣装や音楽、ダンスから中国の文化を身近に実感できた。また、児童の和太鼓パフォーマンスも、練習の成果が伝わり大きな拍手が湧き上がった。

課 題

交流先との調整の中で、知りたい情報を入手するのに時間がかかり、準備に余裕がなかった。交流先児童の年齢に合わせて学年のグループ分けを決めておいたが、バスの号車ごとに移動したいとの直前の要望があったことなど、当日の急な変更に対応する必要があった。

交流会での歓迎の様子

事例紹介 ― 海外の学校等の訪問受入

2 豊島区立西池袋中学校
香港教育局からの訪問受入

取組・活動のねらい

国際交流を通じて、生徒の国際理解を深めるため。

対象者・参加人数

対象者：書道部、美術部、吹奏楽部、日本文化部

参加人数：80 人

活動の位置づけ

夏休み期間中であったため、部活動として実施

書道部の見学と筆ペンでの習字体験

スケジュール

2019 年 6 月下旬	JNTO（日本政府観光局）から豊島区教育委員会を通して、学校に香港教育局の訪日旅行訪問受入の相談
7 月中旬	夏休み期間中の訪問受入であったため、学校が受入方法を検討 部活動などで登校している生徒との交流にすることを決定
7 月下旬	学校に新聞社から取材の申込みがあり、調整
7 月 24 日	コンシェルジュが学校を訪問し、事前の打合せ
7 月 29 日	香港からの訪問受入を実施

交流に至ったきっかけ

日本政府観光局（JNTO）より豊島区教育委員会から、香港教育局の訪日旅行受入について依頼があり、実施に至った。

具体的な準備内容

1. 書道部に交流プログラムの相談
2. 教育委員会やコンシェルジュと調整
3. 新聞社から取材申込があったため取材対応の調整

● 経費：0 円

実施内容

香港特別行政区政府教育局コミュニティ青少年クラブの生徒が来校し、交流を行った。夏休み期間中であったため、全校での歓迎式や授業の見学などは行わず、学校施設の見学や部活動の見学を主に行った。書道部・美術部・吹奏楽部・日本文化部など、いくつかのグループに分かれて見学・実技体験をした。書道部では見学だけでなく筆ペンの習字も体験し、「いろは」の一文をそれぞれ短冊に書いた。最後に、香港の青少年クラブによる中国武術、中国駒、ラテンダンスなどが披露された。通訳は交流先が用意していた 2 名が行ったため、学校では用意する必要がなかった。

■ 当日のスケジュール

10:00	学校到着
10:05 ～ 10:20	交流先代表生徒と副校長が挨拶
10:20 ～ 11:00	校内見学（屋上、教室、自習室、図書館等） 吹奏楽部の練習風景の見学
11:00 ～ 11:30	書道部の見学、筆ペンで習字の体験
11:30 ～ 11:55	武道場で交流 交流先がパフォーマンスを披露
11:55 ～ 12:00	交流先から御礼の挨拶、当校生徒へのプレゼントがあり、最後に全員で集合写真撮影

効果の見取り

参加した生徒から感想をヒアリング

効 果

双方がとても交流を楽しんでいた様子であった。芸術や文化、スポーツを通して、互いの感性を英語やジェスチャーを交え表現できる有意義な交流になった。交流先のパフォーマンスの準備の間も、生徒同士が英語で会話するなど盛り上がっていた。

今回は国際交流・国際理解が深まり、生徒のよい刺激になり、視野が広がったようである。

課 題

交流実施日が夏休みであると、できることが限られてしまうのが難点であった。

吹奏楽部の練習見学

3 都立桜修館中等教育学校
インドネシアの中学校からの訪問受入（２日間）

取組・活動のねらい

教育目標である「６年間の一貫した教育活動の中で、世界の中の日本人としてのアイデンティティをもって国際社会を担う人材を育成する」ことを実現させるため、他国の文化と触れ合い、交流することで異文化理解を深め、国際社会へ貢献する意欲を高める。

インドネシアの生徒と触れ合うことで、英語やその他の外国語学習への興味、関心を高め、外国語への理解を深める。進路の目標に海外の大学への進学を視野に入れ、インドネシアの中学生・高校生と交流し、５年次に実施するシンガポール修学旅行に備え、日本と異なる生活や文化に触れながら、広い視野や国際感覚を養う。

活動の位置づけ

総合的な学習の時間の一環として実施。また、国際理解教育の一環として、５年次のシンガポール修学旅行に向け、インドネシアの中学生・高校生と触れ合い、交流することで異文化理解を深め、国際社会へ貢献する意欲を高めることを目的に実施

対象者・参加人数

対象者：中学２年生

参加人数：159 人

スケジュール

2019 年 10 月下旬	コンシェルジュから学校に、訪日旅行訪問受入の相談 学校がスケジュールを調整し２年生が交流可能だったため交流を承諾 コンシェルジュを通じて当日の食事やバスの発着等、スケジュールの確認
11 月上旬	コンシェルジュを通じて、交流先から学校に訪日スケジュールと参加者名簿の送付
11 月中旬	コンシェルジュを通じて、学校と交流先でスケジュール調整 交流先がパフォーマンスで使う楽器の準備 交流先から、交流証明書発行の依頼を受けて学校が作成
12 月 12・13 日	インドネシアからの訪問受入を実施

交流会での吹奏楽演奏と、伝統衣装を着たインドネシアの生徒

交流に至ったきっかけ

2019 年には４学年がニュージーランド、５学年がトルコ、３学年が ASEAN と交流する等、国際交流が盛んな中、２学年も何らかの国際交流を検討していたところに、コンシェルジュから訪問受入の相談があり、スケジュールの調整も可能であったため、交流を実施するに至った。

具体的な準備内容

1. 学年主任を中心に担当教員の指導のもと、生徒が主体的セレモニーや当日の司会準備
2. 「バディ」(交流先生徒との１対１のペア) の募集と決定（交流先から訪問者リストが送付された後、実施日の約２週間前に学年担任と生徒が相談の上決定）
3. セレモニー・パフォーマンスの決定、準備
4. 交流先パフォーマンス用のギター・ピアノ・カホン（楽器）の準備
5. 参加（体験）授業の内容の調整、「絵付け体験」の準備
6. 交流証明書（Certificate）や記念品の準備
7. コンシェルジュを通じて交流先と歓迎セレモニー、文化交流、楽器準備等についてメールで調整

● 経費：諸経費 10,000 円
　　インドネシア国旗 5,000 円

実施内容

インドネシアから生徒（中学生・高校生 14 名）、教員１名、ほかスタッフ２名が来校し、２日間にわたり交流を行った。

１日目は交流先生徒が学校到着後、「バディ」となっている生徒が出迎え、一緒に校内を見学した。バディの生徒は１人１か所、英語で案内を担当し説明した。その後は終日「バディ」のクラスで授業に参加。例えば数学の授業では英文で説明された数学のプリントを使用し、教員も英語で数学の授業をし、生徒も英語で答えていた。昼食も「バディ」の生徒と一緒に教室でとった。授業の後は、交流先教員の強い希望で、掃除も「バディ」と一緒に参加し、１日目を終了した。

２日目も交流先生徒が朝到着すると「バディ」が出迎え、その後日本文化体験として、「絵付け体験」を行った。その後は交流会の準備と練習の時間に当て、交流先の女子生徒はインドネシアの伝統舞踊を披露するための伝統衣装を着用するのに、髪のセットも含め１時間を要するとのことで準備時間を多くとった。交流先の男子生徒もバンド演奏の準備をした。楽器は学校の楽器を使用した。

午後、武道場にて交流会を実施した。交流先生徒はインドネシアの伝統舞踊とバンド演奏のパフォーマンスを披露した。一方、当校の生徒は剣道実演、バイオリン・ギター・ピアノ・ドラム演奏、吹奏楽演奏、ダンス、全員による合唱などを披露した。司会は全て当校の生徒が英語で行った。記念品の交換と両校の御礼のスピーチの後、全員で記念撮影。最後に「バディ」の生徒へプレゼントや親しくなった生徒同士での写真撮影をして別れを惜しみながら退校した。

■ 当日のスケジュール

１日目 8:25	学校到着
8:40 ～ 8:50	歓迎の挨拶、「バディ」の出迎え
8:50 ～ 9:35	「バディ」と校内見学
9:35 ～ 15:30	「バディ」と授業に参加、昼食
15:30 ～ 15:45	校内の掃除に参加
16:00	退校
２日目 8:25	学校到着
8:35 ～ 10:35	「バディ」が出迎え、「絵付け体験」
10:35 ～ 12:25	交流会準備
12:25 ～ 13:10	昼食
13:10 ～ 15:15	武道場にて交流会、記念撮影
15:15 ～ 15:45	「バディ」生徒同士の交流
15:55	学校出発、見送り

効果の見取り

GTEC の伸長等のほか、留学生募集人数、海外大学進学説明会の参加人数、海外大学志望者数の変化等を観察

効 果

生徒が英語やその他の外国語に興味関心を強く持つようになった。異文化に触れ、生徒が広い視野を持ち、国際感覚が養われた。そして、国際社会に貢献する意欲につながった。

課 題

文化理解交流・海外大学進学事業の分掌の役割分担。昼食の手配（特にハラル等への配慮）が不十分で、引率教員の手を煩わせた。今後はコロナ禍による生徒の海外大学進学への不安感の払拭、海外修学旅行（シンガポール）が中止になることによるモチベーションの低下に対して対応していく必要がある。

事例紹介 ― 海外の学校等の訪問受入

4 都立農業高等学校 フランスの職業訓練校からの訪問受入（3日間）

取組・活動のねらい

フランスで専門科目を学ぶ生徒と一緒に実習等に取り組み、異文化理解や技術交流を通じて豊かな国際感覚を醸成する。

対象者・参加人数

対象者：高校2～3年生 食物科生徒（70人）
ホームステイ受入生徒（3人）
参加人数：計73人

活動の位置づけ

特別活動の授業として実施

スケジュール

2019年 3月下旬	コンシェルジュから学校へ、フランスの職業訓練校が訪問・交流を希望している旨を相談
5月中旬	学校が検討し、通訳手配を条件に訪問受入を決定 学校で生徒にホストファミリーを募集するアンケートを実施
5月中旬～ 8月下旬	コンシェルジュを通じて、学校と交流先で交流内容を調整、調理実習のメニューの打合せ
7月中旬	ホストファミリーを決定し、生徒と保護者に事前指導
9月上旬	コンシェルジュを通じて、学校と交流先で交流内容や調理実習メニューを決定 生徒のアレルギーについて確認 学校が調理実習用食材の発注、最終日の昼食（弁当）の発注、記念品の準備 訪問受入に関する掲示物の作成
9月19日～ 21日	交流を実施

調理実習の様子

茶道体験の様子

交流に至ったきっかけ

都教委からの紹介で、訪問受入を行うに至った。

具体的な準備内容

1. フランスの職業訓練校の訪問受入の校内周知、各種提示物の作成・提示
2. 食物科内で実施内容について検討
3. 保護者へのホームステイ先の募集案内、ホームステイ受入家庭の生徒への指導
4. 交流先生徒の食物アレルギーについて調査
5. 実習体験用の食材発注
6. 最終日の昼食の注文
7. 記念品の発注

● 経費：

・国際交流国旗	5,660円
・調理材料費	43,193円
・実習用エプロン等	54,741円
・日本文化体験（茶道）	6,036円
・会食（弁当、飲物等）	38,543円

合計：148,173円

実施内容

フランスの職業訓練校の生徒（17～22歳の生徒13名、教員2名）が来校し、3日間にわたり食物科の生徒と交流を行った。

1日目は歓迎セレモニーの後、2年生13名と総合調理実習として和食メニューの鰺のつみれ汁、豆腐ハンバーグを調理した。午後の授業では同じクラスで「フランス菓子の調理」をテーマにフランスの食文化を学ぶ交流授業を行った。

2日目は校内見学の後、2つのグループに分かれ、3年生と日本料理 調理実習もしくは西洋料理 調理実習を行った。日本料理はスズキの奉書焼、湯葉巻き蒸し、フランス料理はサザエのブルゴーニュ風、舌平目のボンファム風を調理した。

3日目は茶道を体験し、その後実際に和菓子を作る体験をした。弁当（釜飯）の昼食をとった後、午後はその他の学科に分かれて授業に参加した（都市園芸、緑地環境、食品科学、服飾）。最後にお別れのセレモニーが開かれ、両校代表の挨拶、記念撮影などをして、退校した。

効果の見取り

お別れセレモニーで生徒に感想をヒアリングし、教員間でも意見交換を実施

効 果

生徒の調理技術習得に関する成果発表を通して、調理技術の奥深さを再確認することができた。また、フランスの生徒との交流を通して、他国の調理方法を学ぶ体験ができ、調理技術の向上を図ることができた。

生徒のコミュニケーション能力も向上し、特にホームステイ受入家庭の生徒の国際感覚を醸成することができた。生徒だけでなく担当教員の国際感覚も醸成することができた。

フランスの生徒に日本文化（茶道）の体験、日本食の調理体験を提供することで、日本文化についての興味関心を持ってもらうことができた。

課 題

受入を検討する段階で、交流先の情報や希望する交流内容の詳細が分かると良いと感じた。

■ 当日のスケジュール

1日目 8:30	学校到着
9:00～9:50	歓迎セレモニー、自己紹介、記念品贈呈
10:00～12:50	日本料理 実習体験
13:40～15:30	食文化交流授業
16:00	学校出発（ホームステイ又はホテル泊）
2日目 8:30	学校到着
9:00～10:50	校内見学
11:00～15:30	日本料理・フランス料理 調理実習
16:00	学校出発（ホームステイ又はホテル泊）
3日目 8:30	学校到着
9:00～10:50	茶道体験
11:00～12:00	和菓子 調理実習
12:00～13:00	昼食
13:00～16:00	お別れセレモニー
16:00	学校出発

事例紹介 ― 海外の学校等の訪問受入

5 都立大田桜台高等学校
アメリカの高校からの訪問受入

取組・活動のねらい

ビジネスコミュニケーション科であることから、平素より英語教育に力を入れている。英語圏の高校生と交流することで生徒の英語学習に対する動機付けや、異文化理解を深めることを目的とした。

対象者・参加人数

対象者：高校２年生

参加人数：186 人

活動の位置づけ

授業内交流（5・6限）、２学年全クラスを通しての交流（放課後清掃体験）、クラブ交流（放課後）として実施

スケジュール

2019 年 4 月下旬	学校からコンシェルジュに国際交流について相談
5 月中旬	コンシェルジュから学校に、アメリカの学校の訪問受入を依頼 学校内で交流内容を検討し、6 月 24 日の訪問受入を承諾
5 月下旬	コンシェルジュが学校と事前の打合せ
6 月 24 日	アメリカからの訪問受入を実施

英語の授業での交流

交流に至ったきっかけ

ビジネスコミュニケーション科であることから、平素より英語教育に力を入れており、授業内外で英語によるコミュニケーションを行う機会を多く設けている。その一環でコンシェルジュに国際交流を希望する旨を伝えており、今回の交流に至った。

具体的な準備内容

1. 学校の国際交流担当教員がコンシェルジュを介して交流先とのスケジュールや交流希望等を確認した上で、学校内の受入授業、クラブ、学年との調整
2. コンシェルジュが事前に来校し、交流内容の確認

● 経費：0 円
（茶道体験でのお抹茶・お菓子代はコンシェルジュが負担）

実施内容

アメリカ・イリノイ州の高校から生徒（高校１～２年生、10 名）が来校し、交流を行った。歓迎会の後、生徒同士が交流できる昼食会を開いた。生徒が弁当を持ち寄り、交流先の生徒を入れた６名ほどのグループを６組作り、それぞれ英語で会話をしながら食事をした。午後は英語の授業に参加し、交流先の生徒が学校を紹介するプレゼンテーションを行った。また、互いに英語で自己紹介を行い親交を深め、それを他のクラスメイトにも紹介するというアクティビティを行った。放課後は掃除と部活動にも参加した。最後に代表生徒によるお別れの挨拶、記念撮影をした。

■ 当日のスケジュール

12:10	学校到着
12:15 ～ 12:30	歓迎会
12:30 ～ 13:10	昼食会
13:15 ～ 14:05	授業参加（5 限目）
14:15 ～ 15:05	授業参加（6 限目）
15:10 ～ 15:45	掃除に参加
15:45 ～ 16:15	部活動体験
16:15 ～ 16:40	両校代表生徒の挨拶、記念撮影
16:40	学校出発

効果の見取り

授業内での生徒の関心・態度の観察

効 果

英語圏の生徒との交流は、生徒にとって英語によるコミュニケーションを実践する貴重な経験になった。生徒たちは交流終了後も互いの連絡先を交換し、SNS 等で交流を続けていたようである。外国の同世代との交流は、生徒の英語学習の動機付けや、その後の英語学習意欲の高まりにもつながった。

また、部活動を通じた交流では、日本文化の紹介を行い、互いに文化や習慣の違いを再確認するとともに、異文化理解を深めることができた。

課 題

年度当初に交流時期や日時が決定できない。今回は単発での交流であったが、今後は一度限りではなく持続可能な交流を行なっていきたい。

茶道部での茶道体験

事例紹介 ― 海外の学校等の訪問受入

6 都立青山特別支援学校（知的障害）
台湾の特別支援学校（高等学校）の訪問・交流

取組・活動のねらい

海外の生徒に当校の施設や教育内容を知ってもらう。また、生徒たちの直接的な国際交流を図る。

活動の位置づけ

オリンピック・パラリンピック教育の一環として行った。

対象者・参加人数

対象者：中学部２年生　参加人数：７人

具体的な準備内容

❶ 校内の準備・調整
❷ 訪問受け入れ当日の準備（プログラム作成・学校案内・玄関提示・下駄箱表示など）
● 経費：０円

スケジュール

2019 年 5 月上旬	台湾の旅行会社から（公財）東京観光財団（以下、TCVB）を通してコンシェルジュに学校訪問の依頼
5 月 8 日	コンシェルジュから学校に、台湾の特別支援学校の来日、学校訪問交流について依頼
5 月 17 日	学校が了承し、交流の日程を 6 月 17 日午前に決定。授業の予定変更が難しいため、一部の生徒との挨拶・自己紹介程度の短時間の面会で、校内視察をメインにすることで合意
5 月下旬	コンシェルジュが交流先と調整し、TCVB と学校間で連絡をとり、打合せ日程を調整
5 月 27 日	事前に打合せのために TCVB が学校を訪問
6 月 17 日	交流を実施

交流に至ったきっかけ

前年度にコンシェルジュを通してグリーティングカード交換を行っていたため、コンシェルジュから学校訪問受入の打診があった。対応可能だったため国際交流の一環として行うことにした。

実施内容

台湾の特別支援学校の生徒８名（8 名中 1 名が車いす）、教員３名、保護者６名、他スタッフ、合計 21 名が訪問し、校内見学と、中学部２年生と英語で互いの自己紹介をするなどの交流を行った。通常の教室のほか、陶器専用の釜がある美術室や機織り機がある家庭科室などの特徴的な設備を見学した。中でも、廊下に横断歩道の白線がひかれ、道路を渡る練習ができることや、ボッチャをプレイするスペースがあることに、訪れた生徒たちは関心していた。

互いに英語で自己紹介する生徒

効果の見取り

生徒へのヒアリングを行った。

効 果

短い時間ではあったが、穏やかな雰囲気で生徒同士の直接的な交流を進めることができた。

課 題

今回の交流では授業の予定変更が難しい部分があったが、今後も時間が合えば訪問を受け入れていきたい。

■ 当日のスケジュール

10:30	学校到着
10:35 ～ 10:45	会議研究室にて校長挨拶、学校概要説明
10:45 ～ 11:25	校内見学 1 階：玄関・食堂・オリパラコーナー・小学部教室・図書室・図工室・美術室・アートロード 2 階：会議研修室・職員室・小学部教室・体育館・小学部教室・音楽室・視聴覚室 3 階：家庭科室・調理室・中学部教室・実習室
11:25 ～ 11:45	中学部２年生との交流（自己紹介）
11:45 ～ 12:00	会議研究室にて、担当教員が訪問した生徒・教員に対して質疑応答
12:00	学校出発

事例紹介

海外派遣（学校訪問等）

海外派遣（学校訪問等）では、児童・生徒を海外に派遣し、現地の学校や家庭と交流を行うことで、海外の生活に触れ、異なる文化や慣習を直接的に学ぶことができます。英語や現地の言語でのコミュニケーションも必要になり、生きた言語力を養うことにも効果的です。児童･生徒にとっては、かけがえのない貴重な経験になるでしょう。

なお、コンシェルジュを通じての海外派遣（学校訪問等）を実施する場合は、海外を訪問する計画がある学校に、現地での交流校を紹介するところからサポートを受けられます。派遣する国、地域を決める際の注意点や国ごとによる特色は非常に多様ですが、学校ごとの希望に応じて、コンシェルジュが案内します。

注意事項

他の国際交流の事例と比較し、実施までには準備に時間がかかります。十分な検討期間を設け、準備を進めるようにしましょう。

【参考】コンシェルジュを活用した際の交流の流れ

学校からコンシェルジュ事務局へ希望内容を連絡 → 交流先のマッチング → 交流先の決定
交流先との打合せ → 海外派遣（学校訪問等）出発！

1 都立三鷹中等教育学校 台湾での「日台高校生サミット」への派遣

取組・活動のねらい

平成 28（2016）年度の都教委と台湾の台北市教育局・高雄市教育局との教育における覚書に基づく交流として、平成 30（2018）年８月に東京において、三都市からの希望校による「日台高校生サミット」が行われた。これを継承し令和元（2019）年度に同サミットが台北市で開催された。東京からの代表校として、都立三鷹中等教育学校が選出され、修学旅行の一環として参加した。

行政機関同士の連携をもとにし、双方の学校の教員が具体的な交流内容を企画し、SDGs をテーマに事前学習を重ね、当日、両校の生徒が一緒にディスカッションしながら内容をまとめ、発表を行った。

活動の位置づけ

海外修学旅行として実施

対象者・参加人数

対象者：中等教育学校５年生（高校２年生）

参加人数：約 160 人

交流に至ったきっかけ

従来から、台湾への修学旅行を実施しており、都教委からサミット代表校としての選定を受け、交流を実施した。

スケジュール

2018 年 11 月	台湾経済文化代表処から都教委へ、2019 年に台北において「日台高校生サミット」を開催したい旨の提案があり、都教委で三鷹中等教育学校を選定
12 月～	台湾経済文化代表処・都教委・学校との三者で打合せ
2019 年 春～	学校が具体的な企画案を作成し、台湾経済文化代表処・都教委に提案
8 月	台湾経済文化代表処で交流先の学校２校を選定 ディスカッションでのトピックス（分科会）内容を決定し、各学校でグループ作りを始める
9 月上旬	学校が台北を実地踏査として担当教員を派遣し、現地で打合せ 学校の担当教員と交流先の学校の担当教員でサミットの進め方を確認し、事前学習の方法を共有 （各学校で事前学習を始める）
10 月 23 日	「日台高校生サミット」開催

開会式でのソーラン節披露

グループごとの発表の様子

具体的な準備内容

日台高校生サミット実施にあたって

1. 台湾経済文化代表処、都教委、学校とで、会の趣旨や概要について打合せ、調整
2. イベントの全体イメージについて、台湾側が提案
3. 学校が具体的な企画案を作り、メールで相談・調整
4. 台湾経済文化代表処が交流先の学校との間に立ち調整
5. 台湾側が、当日の会場や昼食の手配等を担当

サミットの内容について

1. 日本、台湾とも課題の事案を挙げ、分科会の内容を提案
2. 分科会のグループ作り（グループごとの各校の人数割り当て作成）
3. ランチミーティングのためのアレルギー調査
4. 共同宣言の宣言内容作成（英語、日本語、中国語）

サミット分科会事前学習

1. SDGs について、ファシリテーター資格を持つ教員から講義・講習
2. SDGs の目標やターゲットに即して、課題探究と問題解決に向けた方策を考え、ポスター制作
3. 台湾から日本に留学している大学生らに調査、研究内容発表（日本台湾教育センターを介して留学生を紹介）

- 経費：約 50,000 円（留学生への報償費）
  約 20,000 円（絵葉書、文具等）
  ※日台高校生サミットに要した経費として

効果の見取り

生徒の感想と、交流の振り返りをまとめたポートフォリオから確認

効 果

短い時間での交流だったが、同世代の高校生とディスカッションをすることで、生徒がものの見方や考え方を知る機会となり、様々な考えや価値観があることを知った。また、ディスカッションや交流を行う上での使用言語が英語であったので、自分の考えを簡潔にわかりやすく伝える方法等を工夫した。サミット終了後も、交流を続けた生徒もおり、互いの文化について質問をしてレポートにまとめた。

実施内容

令和元（2019）年度台北で開催された「日台高校生サミット」に東京からの代表校として選出され、修学旅行の一環として参加した。

行政機関同士の連携をもとにしながら SDGs をテーマに事前学習を重ね、当日、交流先とディスカッションしながら内容をまとめ、発表まで行った。

全体トピックは「IoT や AI の活用により、最先端技術を使って新しい未来社会を創造していくことが可能になるだろうか」であった。事前に３校の生徒を混合で 15 名ずつのグループに分け（計 20 グループ）、グループテーマに基づき事前学習及び当日議論・発表を行った。

分野１「食と農業」：グループ１～４
分野２「環境とエネルギー」：グループ５～８
分野３「健康と医療」：グループ９～１２
分野４「高齢者介護」：グループ１３～１６
分野５「交通と移動」：グループ１７～２０

事前学習

- 事前に各生徒のグループを指定
- 双方の各生徒は、SDGs や Society5.0 に関する動画等で基本的事項を学び、グループで課題を設定し、調査分析した内容をポスターにまとめた。

当日

- 事前学習したことをもとに双方で課題を共有し、ディスカッションを実施
- 双方の考えをポスターにまとめ、全体会でプレゼンテーションを実施

■ 当日のスケジュール

9:00	交流先の学校に到着
9:20 ～ 10:00	開会式 台北市教育長挨拶、東京都教育委員会挨拶、開会宣言、三鷹中等学校紹介、生徒によるソーラン節披露
10:00 ～ 10:10	分科会①　アイスブレイク
10:00 ～ 10:40	分科会②　グループ討議
10:00 ～ 11:05	未来への提言発表を準備
11:05 ～ 11:35	全体会 全てのグループが課題のまとめと問題解決に向けた具体的な提案発表
11:35 ～ 12:00	閉会式 共同宣言、生徒のギフト交換、写真撮影
12:00 ～ 13:10	交流先生徒と昼食交流
13:10	交流先の学校を出発

2 都立町田工業高等学校 ベトナムへの海外派遣（スタディツアー）

取組・活動のねらい

JICA（国際協力機構）の支援により ODA や開発途上国への技術支援の現場を見学することで、国際理解・国際協力についての理解を深める。

学校で学んでいる専門的な知識や技術が社会とどうつながっているかグローバルな視点で見ることで、学習への興味・関心を引き出し、学習意欲の向上を図る。

企業活動や経済活動を理解し、日本企業が世界でどのように活躍しているのかを知ることで、職業意識の向上を図る。

活動の位置づけ

独自の教育プログラム「町工グローバル IT エンジニア育成プログラム」の一環として実施

対象者・参加人数

対象者：高校２年生

参加人数：15 人

※スタディツアーに参加する生徒は、２年生の選択科目（２単位）も合わせて履修し、ベトナムスタディツアーの事前・事後の指導や、IT に関する専門的な学習を積極的に行うことで、年間を通してこれからの IT 人材に必要なスキルを身につけている。

※定員に余裕がある場合は選択科目を受講せずにベトナムスタディツアーへ参加することも可能としている。

スケジュール

2019 年 1 月上旬	学校が旅行業者に依頼し、宿泊先、移動手段、現地ガイドの手配を開始
2 月中旬	参加生徒を募集。参加希望生徒への説明と保護者への説明会を実施
4 月上旬	スタディツアーに向けた事前学習の開始
4 月中旬	学校から JICA 東京へ JICA ベトナム訪問の申込み。学校から在ベトナム大使館へ表敬訪問の依頼
5 月中旬	学校から日系企業に訪問を依頼し、日程と内容を決定
6 月上旬	参加生徒の事前学習として「JICA 地球のひろば」見学、企業見学
6 月中旬	現地の学校交流のための事前準備（生徒による学校紹介のプレゼンの練習、お土産の準備等）
7 月上旬	参加生徒と保護者への渡航に対する注意事項や必要な準備などの説明会を実施

具体的な準備内容

1. 旅行業者に依頼し宿泊先、移動手段、現地ガイドの手配
2. 訪問先企業に受入依頼、内容の確認、日程調整の連絡（学校の国際交流担当者が各企業の担当者に個別にメールでやりとり）
3. 交流先担当の教員に訪問の依頼、内容の確認、日程調整
4. JICA 東京を窓口に、ベトナム訪問の申込み、在ベトナム日本大使館へ表敬訪問の依頼
5. NTT データベトナムとのフィールドワーク先の調整、生徒のグループ分けの実施
6. スタディツアーのチラシの作成、参加生徒の募集、保護者会での説明。参加希望生徒に対しての説明及び参加生徒の保護者への説明会の実施
7. 事前指導として「JICA 地球ひろば」の見学、国内 IT 企業の訪問
8. ベトナム文化と日本文化の比較を通して、ベトナム文化の理解を深める指導
9. 交流の準備（学校紹介プレゼン指導、おみやげの準備等）
10. 教員の引率マニュアル、生徒用ワークシートの作成

- 経費：一人当たり約 130,000 円
  （渡航費、宿泊費、移動費、食費、海外旅行保険など）
  その他、パスポート取得費用や雑費

交流に至ったきっかけ

社会が「Society5.0」に変革していく中、これからの IT 技術者として必要な視点を幅広く身につけさせるために、海外へのスタディツアーを企画するに至った。日本の技術者が世界で活躍する姿を実際に見ることで、職業観や自己有用感の向上につなげたいと考えた。

渡航先は、JICA の支援実績があり、オフショア開発など日系企業が多く進出しており、学校近隣のものづくり企業も拠点を置いているため生徒たちにとってもつながりを意識できると考え、ベトナムを選んだ。

交流先高校訪問

■ スタディツアーのスケジュール

7 月 28 日	羽田空港出発、午後ハノイ、ノイバイ国際空港到着
7 月 29 日	午前：交流先高校に到着、学校交流 午後：JICA を訪問・見学、その後病院を訪問し青年海外協力隊員による講話
7 月 30 日	午前：在ベトナム日本大使館を表敬訪問 午後:NTT データベトナムを訪問し見学、フィールドワーク「ベトナム社会が抱える課題の調査と問題解決のための提案」
7 月 31 日	午前：NTT データベトナムで昨日のフィールドワークの課題を英語を使ってプレゼンテーションを実施 午後：日系企業２社の施設見学
8 月 1 日	午前：NEC データを訪問し日系企業のオフショア開発の概要説明、現地社員へのインタビュー 午後：ハノイ市内見学、ノイバイ国際空港出発
8 月 2 日	羽田空港到着

実施内容

生徒 15 名が、ベトナムの高校、JICA、病院、在ベトナム日本大使館、日系企業などを訪問した。フィールドワーク、英語によるプレゼンテーション、工場見学、現地社員へのインタビューなどの活動の実施。他に、ハノイ市内の文化見学なども行った。

ハノイ市内見学

スタディツアー中の行動

- 毎朝出発前に、ホテルロビーにてミーティングを行い、当日のスケジュールと注意事項の確認
- 現地ガイドと当日のスケジュールを確認。その日の行程終了時に翌日の出発時間の確認
- 現地では旅行会社の添乗員はつかず、教員と現地ガイドで行程を調整
- 帰着後は、ホテルの会議室にて、その日に学習したことを生徒がワークシートにまとめ、振返りを行う。翌日の出発時間と持ち物の確認もその際に実施
- 引率教員による打合せを実施し、当日の振返りや生徒の健康状態を共有し、翌日のスケジュールと注意事項を確認

事例紹介 ― 海外派遣（学校訪問等）

効果の見取り

- スタディツアー中のワークシートと感想文から確認
- 帰国後に１年生への成果発表を実施
- 卒業時の進路状況

効 果

海外で働く日本人やベトナム人と接することで、新たな価値観や職業観などを身につけたことが感じ取れ、グローバル感覚の醸成にもつながった。

ベトナムの高校生との交流を通して、現地の高校生の積極性や学習に対する意欲に刺激を受け、学習意欲の向上につながったようである。特に英語など語学に対する関心が高まっていた。

進路に対しても前向きになり、ベトナムスタディツアーに参加したことを生かして、就職や進学など進路実現に大きく役立った（大手 IT 企業への就職や AO 入試による進学）。

課 題

ベトナムの交流先学校との連絡が途切れがちになってしまうため、交流先との安定した連絡体制の構築が必要

工夫をして参加費用を抑えているが、生徒のために更なる負担軽減が必要

オンラインの活用や日本に滞在するベトナム人との交流など、日本国内にいても海外を感じられるイベントを増やし、スタディツアーに参加できない生徒も同じような経験ができる仕組みが必要

フィールドワーク後のプレゼンテーション

日系企業訪問・見学

事例紹介

姉妹校提携

姉妹校提携・交流開始に至るまでの流れ（例）

1 提携意思を明確にする

どのような交流を望むのかを明確化

- 交流の形式、内容、相手先国のイメージ
  学校の特徴や地域の特徴を生かせないかを検討
  具体例：短期語学研修・文化交流・スポーツ交流・科学・ものづくり　など
- 学校に関する情報提供の準備
- 国際交流委員会などの設置
- 関係者との情報共有

2 提携先の選定

❶コーディネーターに相談

- 東京都国際交流コンシェルジュ
- 各国大使館　政府観光局
- 各国の大使館が主催する「留学フェア」へ参加
- 国際交流推進団体
- 留学・旅行会社

❷関係者で推進

- 教員・保護者・PTA等の個人的つながりを利用

3 調整・準備

- 相手校との窓口担当者を決定
- 担当者共有の電子メールを作成
- 締結文書の案文を作成し、相手校と内容の調整を行う
- 調印の方法について担当者と調整
- 地域、保護者へ周知し、協力を要請
- TV会議等ができるようなIT機器を準備

4 相互理解・調印

担当者による視察訪問を行い、提携締結文書の最終確認を実施

- 相手校を訪問し、現地で調印
- 相手校を訪問して仮調印し、日本で正式調印
- 相手校が来日し、日本で調印

5 交流開始

- 相手先との事前準備・調整（メール・オンラインテレビ電話等での打合せ）
- 生徒の相手校訪問
- 相手校生徒の受入れ（ホームステイ先の手配）

※実施しやすい内容から始めると互いの負担が軽減される

6 関係維持発展

パートナーシップの維持

- 早めの計画立案
- 定期的なコミュニケーション（年に1度は交流を実施）
- 校長や担当者変更の際の引継ぎ

1 都立大泉高等学校附属中学校 ニュージーランドの中学校との姉妹校締結

1 提携意思を明確にする

■ **2019 年 4 月**
オーストラリアでの海外語学研修を学校の取組として実施。今後の交流を見据え、姉妹校締結を学内にて検討する。

2 提携先の選定

■ **2019 年 5 月**
コンシェルジュにオーストラリアでの姉妹校締結を見据えた交流先の紹介を依頼する。

■ **2019 年 6・7 月**
コンシェルジュがオーストラリアで複数の学校に打診したところ、調整がつかない状況が続く。

■ **2019 年 8 月上旬**
コンシェルジュより、ニュージーランドのBlockhouse Bay Intermediate Schoolが交流を希望しているとの連絡を受ける。学内で検討し、姉妹校締結を見据えた交流の受入を申し出る。

3 調整・準備

■ **2019 年 8 月中旬**
学校の交流窓口を副校長とし、ニュージーランド交流先担当教員とメール交換を開始。交流内容（学校訪問、授業等への参加）、時期、受入人数を打合せ。姉妹校締結に向けた相互視察の準備を進める。

4 相互理解・調印

■ **2019 年 8 月下旬**
ニュージーランド交流校担当教員が学校を視察訪問。学校紹介、施設案内、交流開始に向けた打合せなどを行う。コンシェルジュを通じて通訳を準備する。

■ **2019 年 10 月**
副校長がニュージーランド交流先を視察訪問。学校紹介、施設案内を行う。
→ このとき、姉妹校締結文書に調印

5 交流開始

■ **2020 年 9 月**
ニュージーランド交流先より20名程度の来日受入を予定していたが、コロナ禍のため中止。手紙交換による交流を学校間で協議し、実施する。（詳細次ページ参照）

6 関係維持発展

オンラインでの交流も視野に入れながら、次年度以降ホームステイによる相互学校訪問、ホームステイ受け入れを検討する。

2 都立大泉高等学校附属中学校 ニュージーランドの中学校との手紙交換

取組・活動のねらい

国際社会に貢献するリーダーの育成を目指し、生徒の世界で通用する実践的な英語等の語学力を育成するとともに、異文化理解と多様性を尊重する豊かな国際感覚を醸成していかねばならない。そのための取組として海外の学校との姉妹校締結を行い、交流を深めていく。

交流に至ったきっかけ

2019 年 10 月にニュージーランドの中学校と姉妹校締結をし、2020 年 9 月に交流先の生徒 20 名ほどが来日して交流する予定だったが、コロナ禍のため中止。そのため、まずは手紙交換を行うことに至った。

具体的な準備内容

1. 交流先の担当教員に依頼し、120 人の生徒同士で手紙の交換を行うことをメールで確認
2. 交流先のクラス人数に合うように、生徒をグループ分け
3. 手紙の用紙、手紙の書き方例を事前に用意
4. 下書きを生徒が書く。
5. JET*1 と英語科の教員が生徒の書いた英語のチェック
6. 生徒が清書を書き、それを教員がスキャンし PDF 化してメール添付で交流先の担当教員に直接送付

実施内容

ニュージーランドの姉妹校と、手紙の交換を行った。

まず、９月第１週に１回目の手紙を書き、PDF 化してメールで交流先に送付した。９月第４週に交流先から返信が届き、それに対する手紙（2 回目）を書き、同様にメールで 10 月に送付した。

2019 年 8 月下旬
交流先担当教員の学校訪問、打合せ

対象者・参加人数

対象者：中学 2 年生
参加人数：120 人

活動の位置づけ

総合的な学習の時間の一環として実施。他国の生徒と交流することで、視野を広げ、多様性を尊重し、社会における種々の課題に向き合い、解決していく環境を生徒に与えていく。

効果の見取り

生徒の取組の様子の観察と、手紙の内容から確認

効 果

生徒が交流先の生徒からの手紙を読むとき、とても楽しそうだった。その返信も一生懸命に書いていたことから、もっと英語を理解し、書けるようになりたいという動機につながってきていることや、外国の生徒でも、自分と同じ趣味や生活もあることを理解しつつある。

課 題

交流先の生徒は、全員学校の E-mail アドレスを持っていて、学校で使用できる環境である。当校においてもそのような環境が整うと、より活発に交流活動に取り組めることが増えると考える。そのためには、学校の E-mail アドレスが生徒１人１人にあることが望ましい。

*1：JET プログラム (The Japan Exchange and Teaching Programme) は主に海外の青年を招致し、自治体や全国の小・中・高校での国際交流の業務と外国語教育を推進することを目的とした事業。本プログラム参加者を JET と呼ぶ。

3 都立飛鳥高等学校 姉妹校交流（パートナーシップ協定締結及びその後の交流）

取組・活動のねらい

2019 年 5 月の東京都教育委員会とフランスのアカデミー・ド・パリ（パリ大学区）との教育における覚書に基づく交流。オリンピック・パラリンピック教育の「世界ともだちプロジェクト」[*1] の一環。① 2019 年 9 月にパートナーシップ協定を締結し、その後、②ビデオレターの送付、多数の生徒同士の手紙の交換を行い、③フランスへの派遣研修を行った。

派遣研修においては、アカデミー・ド・パリのサポートのもと、高校同士の交流の他、ソルボンヌ大学や国立スポーツ研究所の訪問など、充実した研修を実施した。

活動の位置づけ

海外学校間交流推進校として、また、オリンピック・パラリンピック教育の一環として実施

対象者・参加人数

②手紙・ビデオレター交換

対象者：高校 1 ～ 3 年生　参加人数：50 名

③フランス派遣研修

対象者：高校 1・2 年生　参加人数：5 名

交流に至ったきっかけ

交流機会を拡充しようとしていた際、都教委から当該高校を紹介され、パートナーシップ協定の締結に至った。

①パートナーシップ協定締結式

スケジュール

2019 年 9 月 24 日	東京都教育委員会とアカデミー・ド・パリとの意見交換会 ①パートナーシップ協定締結式　その後、校内見学・授業見学 ②交流先から生徒の手紙を受け取る。
10 月～ 11 月	③学校と交流先で日程及び行程の調整、航空券の手配
11 月	②手紙とビデオレターを作成、コンシェルジュを通じて交流先に送付 ③ 1・2 学年の全生徒への参加者募集と参加者の決定
2020 年 1 月	③交流先による現地ホームステイ先の手配、決定
1 月～ 2 月	③参加生徒の事前学習と国際会議における発表内容の準備、DVD の用意
2 月 6 日～10 日	③フランス派遣研修を実施

※③フランス派遣研修には外国籍の生徒も参加したため、2019 年 12 月～ 2020 年 2 月にビザ発行の手続きを行った。

*1：東京 2020 大会参加予定国・地域を幅広く学び、実際の国際交流に発展させる東京都の取組。学校ごとに調べ学習、大使館との交流、手紙・メールの交換、学校間交流などを通じて当該国・地域についての理解を深める。

具体的な準備内容

①パートナーシップ協定締結

1. 締結式の日時の調整等は都教委とアカデミー・ド・パリが実施
2. 学校は締結式及び校内視察の行程、会場設営等を実施
3. フランス語講座選択の生徒による歓迎挨拶の準備
4. 校内見学及び授業見学の準備、調整

②手紙・ビデオレター交換

1. ESS 部員（20 名）が中心となり、学校紹介ビデオを作成
2. フランス語選択生徒による手紙の作成

③フランス派遣研修

1. 交流先とメールで日程、宿泊先、行程等の調整
2. 都教委による事前学習会を実施
3. 参加生徒によるオリンピックミュージアムの見学・研修

● 経費：①約 30,000 円（記念品等）
②約 5,000 円（手紙や筆記用具に係る費用）
③ 166,500 円（コーディネート料、記念品等）

実施内容

①パートナーシップ協定締結

締結式当日はフランスから、フランス政府スポーツ大臣、パリ大学区区長、パリ大学区部長、交流先校長、パリ大学区文化活動担当、小学校スポーツ教育代表、ヨーロッパ国際関係・協力委員会プロジェクトマネージャー、駐日フランス大使、フランス大使館一等書記官、大使館文化参事官が来校し、東京都からも東京都教育長、教育庁指導部部長、課長が列席し、調印式を実施した。

②手紙・ビデオレター交換

交流先の生徒から手書きの絵はがきや便箋が送付され、ロビーに展示した。

③フランス短期研修

ソルボンヌ大学におけるオリンピック・パラリンピックの高校生国際会議に参加し、東京都の取組を発表。国立スポーツ研究所を見学。交流先学校を訪問し、生徒とともにパリ中心街での謎解きゲームと観光を行った。

効果の見取り

③参加生徒のレポート、感想から確認

2 学年全体に対する「国際理解に関するアンケート」、第二外国語選択希望者数推移から確認

効 果

③フランス派遣研修に参加した生徒は他国の高校生との交流ではすぐにうち解けて、「同じ高校生」という意識を持つことができた。中には、交流先生徒と個人的に SNS で情報交換を行うほど交流が進んだ。

今回の交流全体をを通して、学校全体の英語やフランス語等の外国語への学習意欲や地理・歴史・美術等への興味関心が高まり、多数の生徒が第二外国語選択を希望している。

③フランス短期研修　ソルボンヌ大学での高校生国際会議

■ ③フランス短期研修のスケジュール

2 月 6 日	夜、羽田空港出発
2 月 7 日	午前：パリ、ソルボンヌ大学にて高校生国際会議に参加 午後：INSPE（フランス国立スポーツ研究所）施設見学　国際会議参加生徒との交流
2 月 8 日	交流先生徒との交流 （パリ中心街で謎解きゲーム）
2 月 9 日	交流先生徒の案内でパリ市内観光 夜、パリ発
2 月 10 日	羽田空港到着

参考　姉妹校提携締結の際の協定書例【英語】

AFFILIATION CHARTER

This affiliation charter has been prepared to mark the Association between XXXXX, Australia, and XXXXX, Japan.
姉妹校名　国名　自校名

姉妹校提携の目的と詳細

- ∞ *We will undertake and respond to the educational, cultural, and social needs of the staff and students of both institutions in a spirit of cooperation, friendship and enterprise by using the affiliation to foster peace and tolerance between the students and staff of both institutions and nations.*

- ∞ *All students will be assured of a framework of care, support, counseling, and teaching at the highest professional levels.*

- ∞ *Exchanges of students within the affiliation can be short term or longer.*

- ∞ *In the case of the short term exchanges, they will be collaboratively developed and will be approved solely by the administrations of both institutions. Students applying for longer term exchanges must meet the entry requirements for international students established by the host institution.*

- ∞ *Both institutions agree to develop a continuing communication program involving staff and students through correspondence and visits for the mutual benefit of the two institutions in order to promote a greater understanding of the cultures, social customs and societies of both countries.*

提携に関する附則

In addition, both institutions understand that:

1. *Any associated financial agreements will be negotiated separately and will depend on the availability of funds at each institution. Moreover, nothing in this agreement shall be construed as creating any legal or financial obligations between the parties.*

2. *Any aspect of this agreement may be amended or revised after further consultation and mutual agreement.*

3. *This Affiliation Agreement is to be established on the day of signing this document and to be effective for three years. Unless both schools refer to the cancellation of the affiliation, the contract is to be extended each year during the following three years. If either one of the schools proposes a termination of the agreement by 90 days prior to the last day of either school's school year, the affiliation is to be discontinued on the last day of either school's school year.*

∞ *This Affiliation Agreement is written in English and in Japanese. Both versions have equal validity.*
∞ *We, the undersigned, affix our names in good faith in a spirit of peace, fellowship and goodwill.*

Dated on this day March 1, 2021
姉妹校提携締結日

Signed _____
姉妹校代表者署名

Signed _____
自校代表者署名

姉妹校名

自校名

参考　姉妹校提携締結の際の協定書例【日本語】

姉妹校提携書

この提携書は、日本の●●●●と、オーストラリアの●●●●との姉妹校提携に当たり作成されたものである。
自校名　国名　姉妹校名

姉妹校提携の目的と詳細

この提携書を交わした両校は、それぞれの生徒や教職員間、そして両国間の平和や寛容性を育むために提携を活用することにより、協調、友好、覇気の精神に則り、両校の教職員や生徒の教育的、文化的、社会的な必要性に応えるべく努力していくこととする。

全生徒は最高の専門的水準での保護、支援、相談、教育の原則を保障されるものとする。

この提携による生徒の交流は短期間の場合もより長期の場合もある。

短期間の交流については両校の協力で企画し、各々の管理職の了解を得るものとする。長期間の交流を申込む生徒は、受入れ校における留学生の入学条件に適合していなければならない。

両校は両国の文化、社会的習慣、社会のより良い理解を促すため、双方にとって利益となる継続的なコミュニケーションプログラムを企画することに同意する。このプログラムは両校の生徒と教職員が関与し、文通や訪問によって実施されるものとする。

提携に関する附則

附則

1　本提携に付随する費用に関わる契約を別途交渉によって締結するものとし、両校の資金状況によってその内容が決定される。また、本合意書は、双方にいかなる法的義務も金銭的義務も生じさせない。

2　本提携書のいかなる点も、更なる協議や相互の合意があれば、修正又は訂正できるものとする。

3　本提携書は署名の日をもって成立し、3年間効力を持つものとする。その後の3年間は、双方より提携の終了の申出がなければ、本提携書は1年ずつ延長されるものとする、いずれかの学校から提携の終了の申出が、いずれかの学校の年度最終日の90日前までにあれば、その年度の最終日をもって提携を打ち切るものとする。

この提携書は英語と日本語の両言語で作成する。いずれの言語で作成されたものも同じ効力を持つ。ここに両校は平和、友好、親善の精神に則り、合意の印として署名する。

2021年3月1日
姉妹校提携締結日

署名 _____
姉妹校代表者署名

署名 _____
自校代表者署名

姉妹校名

自校名

参考

姉妹校提携締結の際の協定書例【中国語】

中华人民共和国●●●●（姉妹校名）
日本国●●●●（自校名）
关于建立友好学校关系的协定书

中华人民共和国●●●●（姉妹校名）与日本●●●●（自校名），本着《●●省与●●県关于友好协定的协定书》的精神，为两省、县的发展和教育的振兴，经双方商定，同意建立友好关系学校。

姉妹校提携の目的と詳細

为进一步推进交流合作，双方同意开展以下交流活动：

1　双方开展人员互访、考察活动，以增进双方了解，加深友谊，促进合作。

2　双方举办书法、美术、摄影作品联展，开展音乐、体育交流活动，共同促进双方艺术、体育教学水平的提高。

3　建立双方定期通报办学情况机制，及时交流办学经验，以利互补，共同发展。

在此基础上，根据需要两校可对交流内容，合作事项进行协商，适时调整、适当增补。此协定书从两校的代表者在中文和日文上签字之日起生效。

中华人民共和国
●●●●（姉妹校名）
校长
（姉妹校代表者署名）

日本国
●●●●（自校名）
校长
（自校代表者署名）

2021年3月1日
（姉妹校提携締結日）

日本語

日本国●●●●と中華人民共和国●●●●との友好校提携に関する協定書

日本国●●●●（自校名）と中華人民共和国●●●●（姉妹校名）は●●県と●●省との友好協定に関する協定書の精神に基づき、両県省の友情を増進し、両県省の発展と教育の振興のために、双方の協議を通じ、友好校関係を樹立することに同意した。

姉妹校提携の目的と詳細

双方は友好交流を深めるために、以下の交流活動を展開する。

1　双方は相互に訪問や考察活動を行い、双方の理解と友情を深め、協力を促進する。

2　双方は相互に書道・美術・撮影等の作品連合展示会を開催し、音楽・体育交流活動を展開し、双方の芸術・体育教育のレベルの向上を促進する。

3　双方は定期的な学校運営活動の情報交換の体制を構築し、適時に学校運営の経験を交流し、教育の相互補完と共同発展に寄与する。

なお、必要に応じて双方は交流内容や協力事項についてを協議すること、また適時、適切に調整や補足することができる。

この協定書は両校の代表者が日本語版と中国語版に調印した日から効力を生ずる。

中華人民共和国
●●●●（姉妹校名）
学長
（姉妹校代表者署名）

日本国
●●●●（自校名）
学長
（自校代表者署名）

2021年3月1日
（姉妹校提携締結日）

参考

姉妹校提携締結の際の協定書例【韓国語】

자매결연 제휴 협정서

●●●●（姉妹校名）와 ●●●●（自校名）의 학생과 교사 전원은 지금까지 지속적으로 추진해 온 양국의 우호 관계를 바탕으로 양교의 발전을 바라며 교류활동에 의해 더욱 깊은 우호 관계를 위하여 다음 사항에 협의하고 자매결연 제휴 협정을 체결합니다.

姉妹校提携の目的と詳細

1　양교의 학생과 교직원은 양국 문화와 역사의 상호이해가 깊어지도록 노력합니다.

2　학생들이 장래의 좋은 동반자로 성장 할 수 있도록 학생의 교류활동을 추진합니다.

3　학생과 교직원의 교류활동을 통해서 양교의 교육적 효과를 높이도록 노력합니다.

4　본 협정서는 한국어와 일본어로 2 부씩 작성하며 모든 정문으로서 인정합니다.

5　본 협정서의 유효기간은 5 년으로 합니다. 단 양교의 협의에 의해 기간을 연장할 수 있습니다.

6　본 협정에 관련된 교류 활동에 필요한 비용에 대해서는 참가자 각자가 부담 하는 것으로 합니다.

2021 년 3 월 1 일
（姉妹校提携締結日）

●●●●
（姉妹校名）
（姉妹校代表者署名）

●●●●
（自校名）
（自校代表者署名）

日本語

姉妹校提携協定

●●●●（自校名）と●●●●（姉妹校名）の両校の生徒及び教職員一同は、これまで持続的に推進してきた両国の友好関係を基に、両校の発展を願い、また、交流活動により友情が更に深まることを願って、次の事項について合意し、姉妹校提携の協定を締結します。

姉妹校提携の目的と詳細

1　両校の生徒及び教職員は，両国の文化と歴史の相互理解を深めるよう努力します。

2　生徒達が将来の良きパートナーとして成長することができるように、生徒の交流活動を推進します。

3　生徒及び教職員の交流活動を通じ、両校の教育力を高めるよう努力します。

4　本協定書は日本語と韓国語で二部作成し、双方とも同等の正文として認めることとします。

5　本協定書の有効期間は５年とします。ただし､両校の協議により期間を延長することができます。

6　本協定に係る交流活動に要する費用については、参加者各自が負担することとします。

2021年3月1日
（姉妹校提携締結日）

●●●●
（姉妹校名）
（姉妹校代表者署名）

●●●●
（自校名）
（自校代表者署名）

参考

姉妹校提携締結の際の協定書例【フランス語】

Charte de jumelage

La présente Charte de jumelage a été élaborée pour marquer le partenariat entre XXXXX (France) et XXXXX (Japon).
姉妹校名　自校名

姉妹校提携の目的と詳細

- ∞ *Nous répondrons aux besoins éducatifs, culturels et sociaux du personnel et des élèves des deux établissements dans un esprit de coopération, d'amitié et d'entreprise en utilisant ce jumelage pour cultiver la paix et la tolérance entre les élèves et le personnel des deux établissements et de nos deux nations.*
- ∞ *Tous les élèves bénéficieront d'un cadre de soins, de soutien, de conseils et d'enseignement du meilleur niveau professionnel.*
- ∞ *Les échanges entre élèves réalisés dans le cadre du jumelage peuvent être de courte ou de longue durée.*
- ∞ *Les échanges de courte durée seront aménagés collaborativement et seront seulement approuvés par les administrations des deux établissements. Les élèves se portant candidats pour des échanges de longue durée devront satisfaire aux critères d'admission pour les élèves internationaux établis par l'établissement d'accueil.*
- ∞ *Chacun des établissements accepte de développer un programme de communication continue impliquant leurs personnel et élèves à travers la correspondance et des visites pour le bénéfice mutuel des deux établissements afin de promouvoir une meilleure compréhension de la culture et de la société de chaque pays.*

提携に関する附則

En outre, les deux établissements conviennent que :

1. *Tout accord financier lié au jumelage sera négocié séparément et dépendra de la disponibilité des fonds de chaque établissement. De plus, rien dans cet accord ne pourra être interprété comme créant des obligations juridiques ou financières.*
2. *Tout aspect de la présente convention pourra être modifié ou révisé après une nouvelle consultation et par consentement mutuel.*
3. *La présente Convention de jumelage prendra effet le jour de la signature du présent document et sera valide pendant trois ans. Le contrat sera reconduit chaque année pour une durée de trois ans, sauf au cas où les deux établissements demandent l'annulation du jumelage. Si l'un des établissements propose de résilier la convention 90 jours avant le dernier jour de l'année scolaire de l'un des deux établissements, le jumelage prendra fin le dernier jour de l'année scolaire de l'un des deux établissements.*

∞ *La présente Convention de jumelage est rédigée en français et en japonais, chaque version étant de validité égale.*
∞ *Nous, les signataires, apposons nos noms de bonne foi et dans un esprit de paix, de camaraderie et de bienveillance.*

Date : 1er mars 2021
姉妹校提携締結日

Signature _____
姉妹校代表者署名

Signature _____
自校代表者署名

姉妹校名

自校名

※日本語は p.73 を参照

国際交流の一般的なルール

国際交流をする際には、歴史、風俗、宗教、文化の違いを知り、互いの習慣やしきたりの違いを尊重し合うことが大切です。そのため、交流先が変われば、その対応方法も異なります。

海外の学校や機関などとの交流においては、文化の違いから不測の事態が起こることもあるため、円滑な交流の遂行には事前の準備と関係者との事前調整を行う必要があります。ここでは、国際交流を進めるにあたっての一般的なルールを御紹介します。

客札・相互主義

おもてなしをされたら、同等程度の返礼をしましょう。また、国際交流は必ず相互、対等の立場で行うことを意識しましょう。

異文化尊重

交流先に敬意を払い、相手の習慣や文化を尊重するとともに、自国の伝統や文化を尊重も尊重する姿勢を意識しましょう。

序列の重要性

式典やパーティでは、入場、席次などに序列が生じます。その基準は厳格ですが、一方で状況に応じて柔軟に対応することも必要です。

右上位

都旗の掲揚や席次等に用いられる原則で、主催者（受入側）を基準として右側が左側よりも上位になります。

レディ・ファースト

欧米諸国では日常習慣となっています。女性に対する配慮として実践されますが、公的な序列に影響するものではありません。

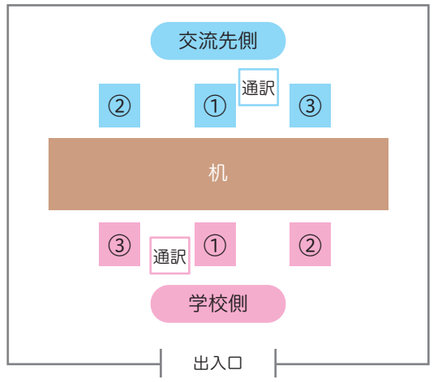
スケジュール調整

国の文化等の違いによってスケジュール通りに遂行できないこともあるため、十分に余裕を持ったスケジュール調整を行うことが大切です。

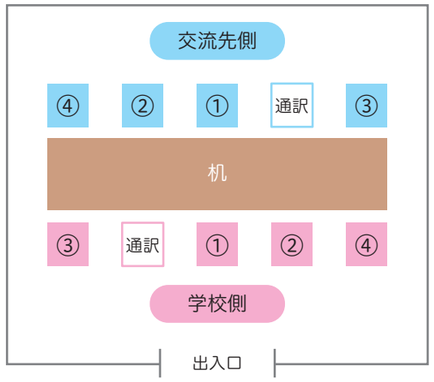
配　席

原則的に席の中心や出入口の遠い席が上席で、洋室の場合は右側が左側より上席になります（和室の場合は反対）。ただし、上位者の意向や窓からの眺望、和室の場合は床の間の位置などによって、席順は変わります。

通訳が席に入らない場合



通訳が席に入る場合

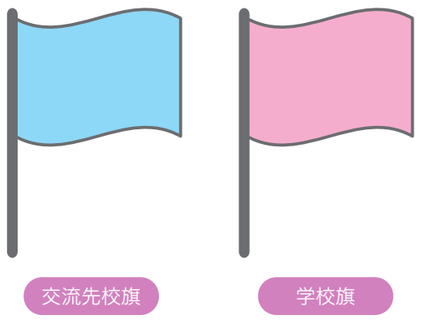


※最上位者を中心として、中心に近い方から「右→左」の順で配席をしていきます。
※通訳が席に入る場合でも、席次には含めません。通訳の席は対面（学校の通訳が [学校②]、又は訪問校・大使館側の通訳が [訪問校②]）や後席にする場合もあります。
※訪問校側に合わせ、[訪問校②] の前に [学校②]、訪問校③の前に [学校③] という配席を行うこともあります。

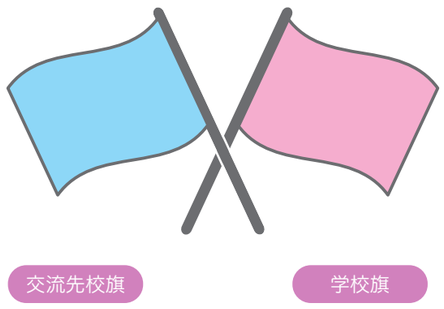
旗

国際交流実施時には自校・相手校の学校旗を掲げます。右上位の考え方により、訪問校の学校旗を自校の学校旗に向かって左側に掲揚します。
※交流先によって掲揚する旗の種類等も異なります。

【例：学校間交流の時の旗の掲揚】



【例：卓上旗（自校にお迎えする時）】



通　訳

1. 通訳とは

通訳とは異なる言語を話す人たちの間に入り、双方の言語を相手方の言語へと変換し伝えることです。意思疎通を図るうえで重要な役割を果たします。

2. 通訳方式による主な分類

● 逐次通訳（consecutive interpreting）

スピーカーの話を区切って、一区切りごとに順次通訳する方式です。時間はかかりますが、より正確な通訳が可能となるため、交渉や会談、視察などの場面で利用されます。

● 同時通訳（simultaneous interpreting）

話者の話の進行と並行して、ほとんど同時に通訳する方式です。通訳者は通常、「ブース」と呼ばれる仕切られた小部屋に入り、ヘッドフォンをかけてスピーカーの話を聞き、無線あるいは有線の送信装置を通して通訳を聞く人に伝えます。同時という厳しい作業上の制約のために通訳者は普通 15 ～ 20 分ごとに交代します。大規模な国際会議や、長時間にわたる会議などの場面で利用されます。

● ウイスパー通訳（whispered interpreting）

通訳を必要とする参加者の近くに位置し、聞き手の耳にささやくように通訳する方式です。同時通訳の一形態ですが、ヘッドフォンなどによって外部からの音を遮断することがないため、自分の声やその他の雑音に煩わされるなど通訳条件としては悪く、正確な通訳は困難である場合が多いです。通訳者にとって負担が大きく、通訳の質の低下が避けられないため、1 時間以内の短い会議以外では使用されるべきでないとされます。少人数の会談や、日本語で行われる会議に外国人 1、2 名が参加する場合などで利用されます。

3. 留意点

● 事前準備

円滑に通訳が行えるよう、発言要旨や参考資料などを事前に通訳者に提供します。

● 当日準備

通常、メモを取りながら通訳を行うため、通訳用の机を用意するとともに、マイクを使用する場合はハンドマイクではなく、スタンドマイクを用意します。

ポイント

通訳の方をお願いするシーンは、相手との打合せやセレモニー、児童・生徒の交流中など様々なシーンが考えられます。実際に通訳を始める前に通訳の方と打合せをされることをお勧めします。当日の趣旨や目的、相手との関係性、相手に伝えたいこと、周辺情報等、事前に幅広く説明しておくことで、よりスムーズで相手に真意が伝わりやすい通訳が可能になります。

服　装

近年、世界的に服装が簡略化される傾向が進んでおり、行事出席者の服装について明確な基準を述べるのは難しくなってきていますが、TPO（Time、Place、Occasion）に合わせ、その場にふさわしい清潔感のある身だしなみを心がけましょう。

行事の規模や来賓者、時間帯、場所等に左右されますが、教員は、交流先を受け入れる際や大使が来訪する際、また大使館へ訪問する際には平服を着用します。生徒は、制服がある場合は制服を着用します。平服着用時の留意点は以下のとおりです。

- 男女共にスーツ又はジャケット等の上着を着用します。
- ズボンやスカートは、丈が長すぎるものや短すぎるものは控えます。
- 靴はビジネスシューズ、パンプス等、服装に適した靴を着用します。
- 各種バッジは上着の左胸部に留めます。
- 過度な露出、匂いの強い香水や整髪料、華美なアクセサリーは避けます。

【クールビズ期間中】

平服を基本としますが、相手方の同意が得られる場合には、ノーネクタイ、ジャケット着用の軽装とします。なお、クールビズ期間外においても気温・室温に応じた服装とします。

【ふさわしくない服装の例】

半袖･半ズボン、サンダル、ジャージなどの軽装は避けましょう。

敬称・呼称

国際交流上、本人が希望する呼び方や記載を用いることが大切であり、これを間違えて使うことは相手に対して大変な失礼にあたります。このため、敬称・呼称の使用は正確でなければなりませんが、敬称・呼称の使用法は複雑であり、決まった型にはめて判断することは困難なため、関係者に事前に照会し、確認を得た上で使用することが適切です。

1. 姓名の確認

関係者から送付される履歴書「CV（Curriculum Vitae の略）」や名簿等の記載から姓と名を判別することが多いです。国により姓と名の並びや規則が異なるケースや、フルネームが省略されることもあるため、事前に関係者に確認しましょう。

特段の事情がない限り、日本人の姓名のローマ字表記については「姓－名」の順で表記します。

【記載例】	Yamada Taro（姓、名の順） Taro Yamada（名、姓の順） T. Yamada（名の省略） YAMADA Taro（大文字が姓） Yamada Taro（アンダーラインが姓） Yamada, Taro（カンマの前が姓）

2. 敬称（宛名の書き方）

一般的な敬称は下記のとおりですが、国や人により異なるため、必ず関係者に確認をしましょう。

学位や職業上のタイトルがない人（学校長を含む）	Mr. (Ms. Mrs. Miss)　＋　フルネーム
大使閣下	【米国】 His(Her) Excellency　＋　フルネーム , Ambassador of 国名 【英国】 His(Her) Excellency　＋　Mr. Ms. Mrs. Miss　＋　フルネーム , Ambassador of 国名

※英国は敬称をつけ、米国はフルネームのみ

※ Ambassador の正式名称は「Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary（特命全権大使）」

【宛名の記載例】大使に対する敬称（男性の例）

宛先	手紙の起句
His Excellency Mr. フルネーム , Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary of 国名	His Excellency, 又は Dear Mr. Ambassador,

3. 呼称

一般的な呼称は下記のとおりですが、国や人により異なるため、必ず関係者に確認をしましょう。

学位や職業上のタイトルがない人（学校長を含む）	Mr. (Ms. Mrs. Miss)　＋　姓
大使閣下	Your Excellency, 又は、Mr.(Madame) Ambassador
校長	President, 又は、Director

4. その他

- 一般的には「His(Her) Excellency」は省略されて、「H.E.」と記載されることも多いです。
- 敬称に米国ではピリオドを書きますが、英国ではピリオドを書かずに、「Mr」、「Ms」、「Mrs」、「Miss」等とすることが多いです。
- 「Dr.」等特別な肩書がある場合は、「Mr.」等の代わりにこれら特別な肩書を使用します。
- 近年、「Mrs.（既婚）」や「Miss（未婚）」のような区別は必要ないという考えから「Ms.」が使われることが多くなっています。
- 英国では、爵位によって「Mr」の代わりに「Sir」、「Ms（Mrs）」の代わりに「Dame」を用いることもあります。

贈り物・記念品

国際交流では、大使館や交流先との記念品交換を行うことが多くあります。

1. 記念品の準備

記念品は、交流先の肩書等を考慮して用意します。交流先への記念品は高価なものでなくて構いません。それよりも「軽くてかさばらない物を数多く」と考えましょう。基本的には伝統的なもの、実用的で日本的なものがよいでしょう。また、記念品は、相手の文化的背景を考慮して用意しましょう。

例：中国の方には時計を贈らない（縁起が悪いとされる）、ムスリムの方には人形等を贈らない（イスラム教では偶像崇拝を禁止）等

【記念品の例】

- 万華鏡、紙風船、折り紙等の玩具（実際に遊んで見せると喜ばれ、話題になります。）
- 風鈴、浮世絵などの飾り物
- 風呂敷、扇子、箸と箸置き等実用としても飾りとしても使用できるもの
- 法被、日本的な絵柄の入ったＴシャツなど実際に着られるもの
- 着物や日本の風景カレンダー、写真集、日本料理の本（英語で記載されていればなおよいです。）
- 文房具類（付箋紙、テープのり、消せるペン等）

受入校側が交流先に贈った記念品は下記のような例もあります。

- 校長先生が書いた習字
- 生徒が作成した暖簾

【記念品で避けたほうがよい物品の例】

- 食器類、木製品、動物製品（どの国にも必ず税関にて申告が必要となります。場合により没収されたり、留め置いて検査されたりする場合があります。）
- 火薬類他危険物（どの国にも持ち込めません。）
- 時計（中国）
- 人形等（イスラム圏の国）

2. 記念品の交換の手順

一般的に記念品の交換は国際交流の最後に行います。国際交流中の記念品交換を好まず、担当者間での交換を希望するケースもあるので（特に英国）、事前に交流先の意向を確認しましょう。

給食・会食

国際交流上、交流先と給食を共にしたり、大使館に訪問し大使等と食事をする機会もあります。

1. 給食・会食をする際の留意点

● 席札

席上には役職や名前を書いた席札を置きます。日本人のものは日本語で、外国人のものは英語、又は適当な外国語で書くのが望ましいです。

● メニュー

宗教上、健康上の理由等で、食事の禁忌･制限（ベジタリアン等特定の食べ物を食べることができない、アレルギー等）がある方がいることもあるので、事前に食事の禁忌等は確認しておく必要があります。

また、大使館に訪問した際に食事や軽食が出される場合も、児童・生徒のアレルギー等に注意して頂きましょう。

2. 多様な食文化

● ハラル（ハラール）とは

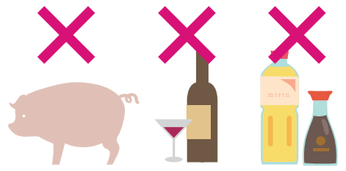
イスラム教徒（ムスリム）には、食に関して厳格なルールがあり、宗教上食べてはならない食材が存在します。「イスラムの教義に則って食べることが許可されたもの」を「ハラール・フード」と呼び、野菜や果物、大半の魚介類はハラールです。一方、食べることが禁止されたものは「ハラーム」とされ、地域や宗派によって定義は若干異なりますが、代表的なものは以下のとおりです。

・豚肉（ハム、ソーセージ、ベーコン等の加工品や、ラードやブイヨン、ゼラチン等の豚由来成分も禁止されています。）

・アルコール（多くの日本料理に使われるみりんや、防腐剤としてアルコールを添加した味噌・醤油、アルコールから製造された酢も忌避されます。アルコール入りウェットティッシュも使用しません。）

・その他

血液は不浄で、害になるものとして避けられ、肉・魚の焼き具合には注意が必要です。また、厳格なムスリムの中には豚肉を料理した調理器具が使われることを忌避する人、豚肉以外の食肉でも、ハラール処理されていないものは口にしない人もいます。

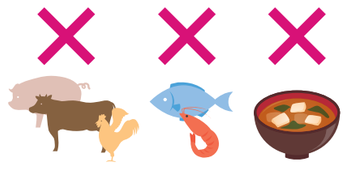


豚肉（豚肉由来成分も）　アルコール　アルコール入り調味料

● ベジタリアンとは

ベジタリアンとは菜食主義者のことで、卵、乳製品、はちみつを除き、全ての動物性食材（肉・魚・甲殻類・貝）が含まれていない料理を食べる人を指し、動物由来のだしや調味料も避けます。

ベジタリアンにも多くの種類があり、仏教の影響で、動物性食材を摂らないだけでなく、ネギ・ニラ・ニンニク・タマネギ・ラッキョウといった五葷（ごくん）も避ける人等もいます。



動物性食材（肉・魚・甲殻類・貝）　動物由来のだし・調味料

● ヴィーガンとは

ヴィーガンとは完全菜食主義者のことで、食事が植物性食材のみに基づく人を指します。肉・魚・甲殻類・貝・卵・乳製品・はちみつの含まれていない料理を食べます。

動物性食材（肉・魚・甲殻類・貝・卵・乳製品・はちみつ）
動物由来のだし・調味料

英文レターの作成

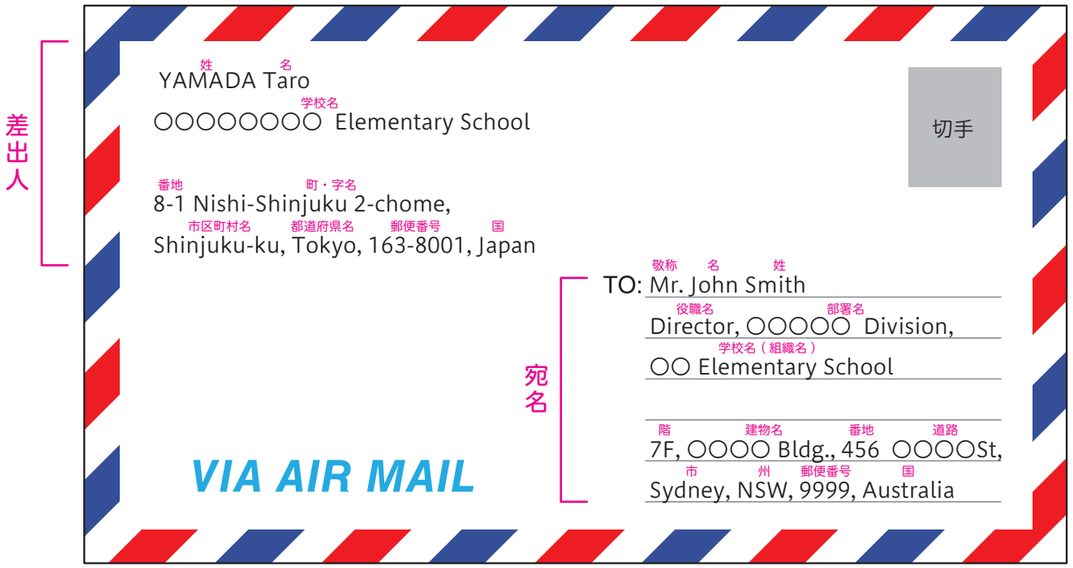
1. 国際交流上のレター作成

国際交流上、招待状や、贈り物を贈る際の送付状等を発出することがあります。レターの場合は、日本語で作成し、参考の英訳（courtesy translation）を付すのが一般的です。なるべく簡素に、A4 で 1 枚程度におさめることが望ましいです。

2. 宛名の書き方

海外に発送するため英語で宛名を書く場合には日本語の表記と反対に、①氏名、②部屋番号、③階、④建物名、⑤番地、⑥道路名、⑦市区町村名、⑧州（県）名、⑨郵便番号、⑩国名の順に記入します。なお、敬称は「敬称・呼称」の項を参照の上、必要に応じて「H.E.」、「Mr.」等を用います。

【宛名・差出人の書き方（例）】



【カードを贈る際の送付状（例）】

Month/date/2021

Dear Partner,
（交流先の人が分かっている場合はその名前）

Season's Greetings from all at ○○○○ Elementary School in Japan!
学校名
Thank you for joining this project.

Please show these greeting cards to your students from our students.
The grade is 4th and the number of students are ○○.
学年（1 は st、2 は nd、3 は rd）　人数

It would be great if you and your students can enjoy this project.
Please send your feedback or photos to:

Email: ○○○@○○○○.jp

Any of your comments or feedback would be helpful to make this exchange project even better together.

We hope all students of your school will enjoy having the cards from Japan!
We hope our partnership with schools all over the world can be developed more and more in future.

Sincerely,

YAMADA Taro (Mr.)
姓 名
○○○○ Elementary School
学校名
Email: ○○○@○○○○.jp
メールアドレス

【日本語概要】

御担当者さま

東京都の○○○○小学校から季節の御挨拶をお送りします。今回は交流事業に御参加くださりありがとうございます。
本校の児童からのグリーティングカードを御覧ください。4 年生○○人の作品です。
貴校の児童（生徒）のみなさんに喜んでいただければ幸いです。感想や写真は下記にお送りください。

Email: ○○○ @ ○○○○ .jp

どのような御意見やフィードバックもこの交流事業をより良くするために活用させていただきます。
貴校の児童（生徒）のみなさんが日本からのカードを楽しんでくださることを願っています。
今後も学校同士の協力関係が世界中に発展していくことを期待しています。

国際交流の一般的なルール

英文メールでの連絡調整

在京大使館等の関係者の学校への招待や、学校から大使館等への訪問、又は海外の学校等の訪問の受け入れをする場合、事前に必要な情報を入手し、連絡事項を伝えた上で、当日は円滑に国際交流が行えるように準備をしましょう。

【事前に確認することの例（在京大使館等の関係者を学校へお招きする場合）】

①集合時間と場所の案内、当日の緊急連絡先の確認

②訪問手続き関係

- 来校者リスト（役職と氏名）の入手
- 来校手段の確認（タクシー以外の車両で来校する場合は、車両情報の入手）
- 持込データの確認

③当日の使用言語の確認（必要に応じて訪問者側に通訳の同行を依頼しましょう）

※服装についてもクールビズ対応期間中であれば、学校側の対応者の服装や建物内の温度設定を踏まえた案内を行うと親切です。

【日本語概要】

件名：〇〇〇〇小学校からの招待状

御担当者さま

東京都の〇〇〇〇小学校からの御連絡です。お元気でお過ごしでしょうか。
大使の当校訪問にあたり、以下の点に御注意ください。

＜交流当日＞
日時：8 月 30 日木曜日　午後〇時から〇時まで
場所：東京都〇〇〇〇小学校　会議室
　　東京都新宿区西新宿 2 丁目 8-1
言語：日本語（必要に応じて、通訳を手配してください）
服装：ビジネスカジュアル（ジャケット着用、ネクタイなし）

1. 交流当日の時間と場所
午後〇時までに、〇〇〇〇小学校 1 階正面玄関にお越しください。
詳しくは添付の地図を御覧ください。御到着時に、会議室まで御案内いたします。

2. 交流当日の参加者リスト
セキュリティ上の理由により、事前登録が必要です。 8 月〇日までに交流に御参加いただく方のリストを御提供ください。

3. 紹介する情報
貴国の紹介など児童・生徒へのプレゼンを予定している場合は、事前に内容をお知らせください。

4. 交通アクセスの詳細
大使（参加者）がどのように来校されるかお知らせください。
車の場合は、車種、色、番号などの詳細を 8 月〇日までにお知らせください。

5. 当日の連絡先
当日、早急な対応が必要な場合は当校までお問合せください：+81-3- 〇〇〇〇 - 〇〇〇〇
また、当日大使に同行される方の連絡先を教えてください。

上記の詳細を御確認くださり誠にありがとうございます。御連絡をお待ちしております。

【交流前の挨拶メール（在京大使館等の関係者を学校へ招く場合）　例】

件名：Invitation from 〇〇〇〇 Elementary School
（学校名）

Dear Partner,
（交流先の人が分かっている場合はその名前）

Greetings from all of us at 〇〇〇〇 Elementary School in Tokyo. We hope this email finds you well.
（学校名）
With regards to Ambassador 〇〇's highly anticipated visit to our school, please take note of the items below.
（ゲスト名（大使の場合））

<Meeting>
Date and time: From 〇:〇p.m. to 〇:〇 p.m.（時間、午前の場合は a.m.）on Thursday（曜日）, August（月）30（日）
Place: A meeting room in 〇〇〇〇 Elementary School in Tokyo
　　8-1 Nishi-Shinjuku 2-chome, Shinjuku-ku, Tokyo（住所）
Language: Japanese (Please make arrangements for your own interpreter if needed)
Dress code: Business casual (jacket but no necktie)（ドレスコードについては、クールビズの期間中のみ記載）

1. Meeting time and place
Please come to the main entrance on the 1st floor of 〇〇〇〇 Elementary School by 〇:〇p.m.（時間、午前の場合は a.m.）
For details, please see the attached map.
Upon your arrival, we will escort you to the meeting room.

2. Member list for the meeting
Due to security reasons, pre-registration is required. Please kindly provide us with a list of those attending this meeting by August（月）〇〇（日）.

3. Information to be presented
If you plan to present information, please inform us of the subject matter, such as “An Introduction to Your Country”.

4. Transportation details
Kindly inform us of how Ambassador 〇〇（ゲスト名）will come to our school. If arriving by car, please inform us of the car details including model, color, and license plate number by August（月）〇〇（日）.

5. Contact information on the day
If a situation requiring our immediate attention occurs on the day of the meeting, please contact our school at: +81 3-〇〇〇〇-〇〇〇〇（電話番号）.
We would also like to have the contact information of the person(s) who will be accompanying the ambassador on that day.

Thank you very much for taking the time to let us know the details above. I look forward to hearing from you.

Best regards,
YAMADA Taro (Mr.)（差出人の姓名）
〇〇〇〇 Elementary School（学校名）

【交流後の御礼メール（在京大使館等の関係者を学校へ招く場合）　例】

件名：Thank you for coming to our ○○○○ Elementary School

Dear ○○,
（交流先の担当者名）

We'd like to express our gratitude for visiting our ○○○○ Elementary School today.
学校名

It was a great pleasure to see you and your ambassador. The time spent with you was a fascinating, precious opportunity for our students. We appreciate your kindness.

If you have any comments regarding this project, could you please email us at ○○○@○○○○.jp.

Best regards,
YAMADA Taro (Mr.) （差出人の姓名）
○○○○ Elementary School （学校名）

【日本語概要】
件名：○○○○小学校来訪のお礼

○○さま

本日は○○○○小学校にお越しくださり誠にありがとうございました。

大使とあなた方にお会いできて大変嬉しかったです。本校の児童（生徒）にとって、あなた方と過ごした時間は大変魅力的で貴重な機会でした。 あなた方の御厚意に感謝申し上げます。

今回の交流事業について御意見がございましたら ○○○ @ ○○○○ .jp までメールにて御連絡ください。

季節の挨拶

12 月に Seasonal Greeting、又は 1 月に Happy New Year として、メールや封書で季節の挨拶を送りましょう。封書で贈る場合は、カードに校長が直筆でサインするのが一般的です。

なお、12 月の Seasonal Greeting では、宗教上の配慮により「Merry Christmas」のような表現は避け、「Happy Holiday（又は Happy Holidays）」等のフレーズを使うことが多いです。

イスラム圏の方々への対応

世界には約 16 億人（世界人口の約 1/4）ものイスラム教徒（= ムスリム）がおり、そのうち 10 億人近くがアジアで暮らしています。

1. 習慣・マナーについて

● **服装**

男女ともに素肌を見せることは好ましくないとされているため、接遇の際には、肌の露出が少ない服装にします。また十字架や数珠等、宗教を想起させるモチーフは目立たないよう配慮し、華美なメイク・服装は避けましょう。

● **右手が優先**

イスラム教では、左手は「不浄の手」と考えられているため、握手や食事をする際は、必ず右手を使うようにしましょう。

● **女性への接遇**

ムスリムの女性の中には、男性による接遇を嫌がる方もいるので、女性の接遇には女性による対応が望ましいです。また、異性の場合、原則として握手はしません。相手から手を差し出された場合のみ握手しますが、長い時間手に触れないように気を付けましょう。

2. ムスリムの食事について

p.83「給食・会食」を参考にしてください。

豚肉（豚肉由来成分も）　アルコール　アルコール入り調味料

3. ラマダン（断食月）について

ムスリムには、年に 1 回、およそ 1 か月にわたる断食月（ラマダン）があります。イスラム暦の第 9 月に相当する月の新月からラマダンが始まり、ラマダン中は、夜明けから日没まで、一切の飲食が禁じられ、水も飲めません。断食は日没とともに終わり、そのあと人々は「イフタール」（断食月中の日没後の食事）の前にお祈りをささげ、家族や親戚、同僚や友人等とともに食事をします。

ラマダンは、ムスリムにとって神聖な時期であるとともに、肉体的にも精神的にも大変厳しい時期であることを十分理解し、配慮することが大切です。

断食月中にムスリムの方と関わる際の、注意点は以下のとおりです。

- 大使館は開館時間等が通常より短縮される場合があります。
- 断食月中は、ムスリムを一般的な食事に招待することは控えます。
- ムスリムの前で飲食をする際は、「水を飲んでもいいでしょうか？」等、一言断るようにします。
- 日没前後は仕事の依頼等はしないようにします。

4. 礼拝について

ムスリムでは１日に５回、太陽の動きに従った時刻にメッカの方角に礼拝を行います。旅行や出張中もムスリムは礼拝を行うので、できる限り時間や場所の確保に協力するのが望ましいです。ムスリムにとって礼拝とは、神によって決められた大切な行動であり、毎日行う最も基本的な義務の一つです。ただし、旅行中は回数を減らしたり、省略したりすることもできるとされています。

礼拝の回数と名称

1 夜明け前	Fajr（ファジュル）
2 昼	Dhuhr（ドホル）
3 午後	Asr（アスル）
4 日の入り	Magrib（マグリブ）
5 夜	Isha（イーシャ）

礼拝の概要や注意点は以下のとおりです。

● **時間**

・礼拝の時間は、旅行・出張先での日の出と日の入りの時間によって変わります。

・一回の礼拝に要する時間は個人によって様々ですが、短くても５～10 分はかかります。

● **メッカの方角（キブラ）**

・どこに行ってもキブラがわかるコンパス等のグッズを使用します。

・最近ではスマートフォンアプリで確認する人が多いです。

● **マット**

・礼拝の中に地面に額をつける作法があるため、礼拝用マットを使用します。

・マットはキブラの方角に向けて敷き、その上で礼拝を行います。

● **お清め（ウドゥ）**

・礼拝の前には、手・口・鼻・額・腕・髪・足を流水で清めるため、水場が必要になります。

● **男女別々であること**

・礼拝は仕切りを設ける、時間を分ける等して、男女別々の空間で行います。

大使とは

日本に駐在する各国の大使は自国を代表して日本政府と交渉し、自国民の保護等を行っています。各国大使館に派遣されている外交官は自国を代表し外交任務を行う資格を持つ職員であり、自国政府に日本の政治、経済情勢等の情報を収集・報告し、自国と日本の経済・文化等の関係を発展させ、友好関係を促進するよう努めています。

1. 大使館と総領事館

大使館は基本的に各国の首都に置かれ、国を代表して駐在国の政府との交渉や連絡、政治・経済その他の情報の収集・分析、広報文化活動及び在留する自国民の生命・財産の保護等を行っています。

総領事館は世界の主要な都市に置かれ、在留する自国民の保護、通商問題の処理、政治・経済その他の情報の収集、広報文化活動等の仕事を行っています。特権・免除は「領事関係に関するウィーン条約」によりその範囲は領事業務に必要な範囲に限られており、大使をはじめとする外交官における特権・免除が定められている「外国関係に関するウィーン条約」による外交特権よりも狭いです。

2. 大使

大使は大使館の長として使節団の中で最高の席次を有します。外交関係に関するウィーン条約では、使節団の長は「その資格において行動する任務を派遣国により課せられた者」と定義しています。なお、大使と呼ばれる役職は３つありますが、代表的なもののみ紹介します。

● **特命全権大使** (Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary)

信任状捧呈式後正式に大使と認められます。派遣国は派遣する者について、外交使節を受け入れる側の国から合意を得なければならず、日本に赴任してくる各国の大使は、天皇陛下に前任者の解任状を自身の信任状を捧呈することで特命全権大使として認められます。

交流先を自校にお迎えする時のモデル例

事前に交流先とメール等で打合せをする

- **来校の日時、目的、相手の希望等を相互で確認しましょう**
- **来校者名簿を事前に確認しましょう**
- **当日の時程及び主な対応者名簿を相手に提示しましょう**

前日まで

- **相手の緊急連絡先を確認する**

できるだけ双方が言語にストレスなくやり取りできる担当者の携帯電話番号等を確認しておきます。相手が通訳を帯同して来校するのであれば、通訳の連絡先も事前に確認する方安心です。可能であれば、宿泊先も確認できれば安心です。

- **会場設営**

座席、ネームプレート、プロジェクター、旗等、必要に応じセッティングしておきます。

当日

- **出迎える**

相手が来校する時間が近づいたら、校舎の玄関前に出て迎えましょう。相手が、校長や上位の教育行政関係者等を筆頭に来校する場合は、自校側も、校長が校長室等で待つのではなく、玄関まで迎えに出るほうが好印象です。

相手が到着したら、挨拶をし、外で長く留まらずに、校長（又は出迎えの担当者）は相手の筆頭者を誘導して校舎の中へ案内します。

- **部屋へ案内する**

校長室や会議室に入ったら、席に通しましょう。名刺交換をする場合は、このタイミングで行うとスムーズです。自校側で通訳がいる場合には、校長に付き添ってもらうようにしましょう。

- **セレモニー等を開始する**

相手の来校目的に従い、姉妹校提携の場合はセレモニー、学校視察の場合は学校紹介をして校内視察、今後の交流に向けた打合せ、実際の交流活動等を行います。

＜セレモニーの次第例＞

①司会者による開会の合図　②出席者の紹介

③自校の校長のウェルカムスピーチ

④先方のスピーチ

⑤協定の調印等　⑥記念品交換

⑦閉会

⑤や⑥の際に写真撮影をすることが多いです。セレモニーではなく、相手が表敬訪問や学校視察に来校した場合は、⑤の部分で学校紹介や校内視察を行います。

- **見送る**

終了後は、出迎え時と同様にして見送ります。

交流先とオンラインミーティング等をする場合の留意点

- オンラインで交流先と自校の生徒が交流する場合は、相手と事前にオンラインの接続テストをしておきます。
- ミーティング時や交流時は、できるだけ全員の顔が見えるようにカメラや座席を工夫します。
- ミーティング等で各人が別の端末から参加する場合は特に、誰が参加しているのかを互いが分かるようにし、安心して話せる環境を作ります。そのためにも、できるだけ各人がカメラをオンにするほか、ミーティングの最初に、メインスピーカーが自校側から誰が参加しているかを紹介し、紹介された人は簡単に挨拶や自己紹介をしましょう。
- 資料がある場合は、画面共有機能を使って、参加者が同じものを閲覧できるようにします。できるだけ資料の文字は大きくすると共に、適宜拡大して表示させるなど工夫します。
- スピーカー以外はマイクはオフにしておきます。
- 話すときはできるだけカメラのほうに向かって話すようにします。画面とカメラの位置が離れている場合、画面に向かって話すと相手と視線が合わず、雰囲気が伝わりづらくなります。
- 終了後は、御礼を言って各自退出します。ホストが最後に退出します。

国際交流コンシェルジュについて

東京都国際交流コンシェルジュ

Tokyo International Exchange Concierge

東京都国際交流コンシェルジュ（以下、「コンシェルジュ」という。）は、都内の公立学校が、幅広く、自校に合った国際交流を実施できるよう、交流先となりうる海外の学校の情報提供を行い、交流相手先とのマッチング支援を行うとともに、相談の受付、交流先との外国語等による交渉、ホストファミリーの紹介など国際交流に関連する業務をワンストップで行う窓口です。都内公立学校は、コンシェルジュのサービスを無料で利用することができます。

国際交流コンシェルジュの役割

（1）専用ウェブサイトの運用

交流可能先の学校情報等を搭載した「東京都国際交流支援システム」を含む専用ウェブサイトの運用管理を行います。交流可能先の学校情報は、順次登録数が増加するとともに、随時更新を行います。

専用ウェブサイトの利用方法について詳しくは p.97 を御覧ください。

（2）国際交流に関する相談対応

国際交流に関する相談に対するカウンセリングや、問合せ校に最適な交流内容、交流先の提案等を行います。また、交流実施に当たっての必要な手続についての助言も行います。原則として、電話・ファックス、E メールで相談を受け付けます。

（3）交流相手先とのマッチング支援

「東京都国際交流支援システム」に登録された学校の交流希望条件を基に、システム上で自動マッチングを行い、交流可能先の情報を学校に提供したり、交流実現に向けた都内公立学校と海外の学校との交渉・調整を、英語やその他の外国語で、学校に代行してコンシェルジュが行ったりすることが可能です。

また、交流先の開拓を目的とした、学校間のマッチングイベント等、交流イベントの実施や、学校における交流活動の実施支援※も行います。

※コンシェルジュで対応できない業務（例）

以下に該当する業務については、学校で別途対応いただくことになります。以下の項目にない業務についても、内容等によっては学校で対応いただく場合があります。対応可能かどうか不明の場合は、コンシェルジュにお尋ねください。

項目	具体例
追加的な金銭的負担を伴う業務	・海外渡航時の同行 ・オンライン交流にあたってのハード面の整備 ・ホストファミリーへの金銭的支援
金銭の授受を伴う業務	・参加者から参加費を集めて行うイベントの実施 ・お土産の代理購入
旅行会社が取り扱う業務	・海外修学旅行全体の企画 ・渡航時の航空券の手配 ・ビザの取得代行
過大な翻訳業務の依頼	・学校案内冊子全部 ・クラス全員分の手紙の翻訳
業務時間外の支援依頼	・土、日、祝日、夜間の支援

（4）ホストファミリーの開拓・斡旋

幅広い対象からホストファミリーを募り、学校の御要望に応じ紹介します。ホストファミリーの登録は「東京都国際交流支援システム」を通じて行います。

なお、コンシェルジュでは、ホストファミリーの方への謝礼等は負担しませんので、留学生受入れの主催者にて対応をお願いいたします。

（5）新規交流先の開拓

都教育委員会が教育に関する覚書を締結している国や地域からの情報提供に加え、都内公立学校の交流先となり得る対象を幅広く開拓します。

（6）オリンピック・パラリンピック教育推進支援事業（コーディネート事業）のうち国際交流に係る教育プログラムの運用

「世界ともだちプロジェクト」の推進に当たり、オリンピック・パラリンピック教育コーディネート事業について、国際交流に係る教育プログラムの申込・調整に対応します。

自校の学校情報等の登録

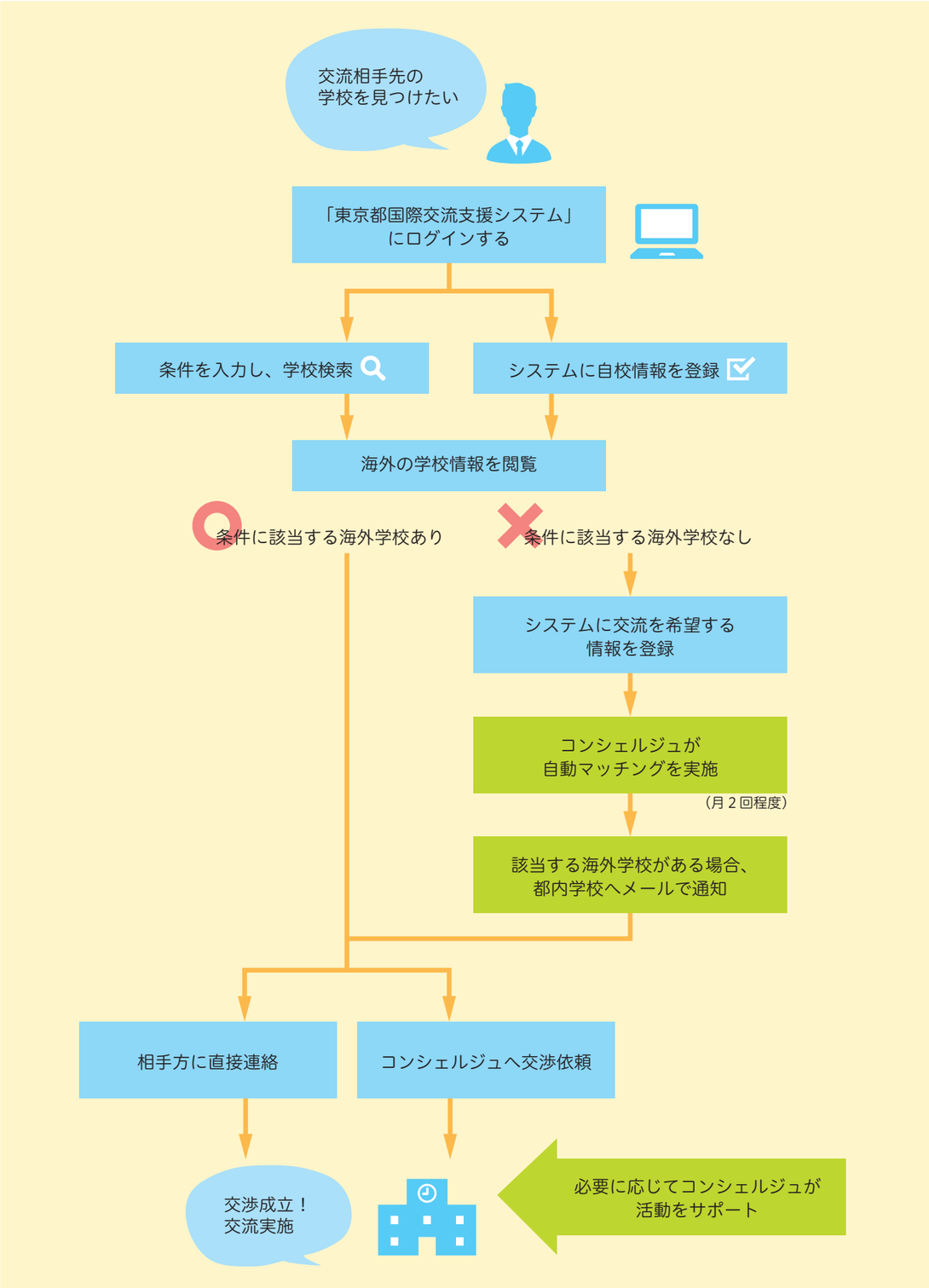
「東京都国際交流支援システム」に、学校情報や希望する交流内容を登録していただくと、コンシェルジュがより適切にマッチング支援や相談対応を行えますので、ぜひ自校の情報を登録してください。なお、自校が登録した内容は他校には公開されません。

▲登録画面のイメージ

国際交流コンシェルジュ

利用フロー例

学校が国際交流を進めるに当たってのお悩みを、コンシェルジュがワンストップで解決します。
サービス利用の代表的な流れは以下のとおりです。



覚書（MOU）締結先一覧

都教委と連携して児童・生徒たちの国際交流を推進しています。※ 2021 年２月現在のMOU締結先

ブリティッシュ・コロンビア州教育省
並びに高等教育省

ニュー・サウス・ウェールズ州政府教育省

クイーンズランド州政府教育省

台北市政府教育局

高雄市政府教育局

エデュケーション・ニュージーランド

タイ教育省 基礎教育委員会

北京市教育委員会

パリ大学区

国際交流コンシェルジュでは、上記の国・地域等の学校を交流先として御紹介することが可能です。
是非お問い合わせください。

国際交流コンシェルジュ

東京都国際交流支援システム

海外の学校情報の閲覧（ニーズ検索リスト）

海外の学校情報を検索して、閲覧することができます。登録件数は随時更新されます。

自校の学校情報の登録（自校ニーズリスト）

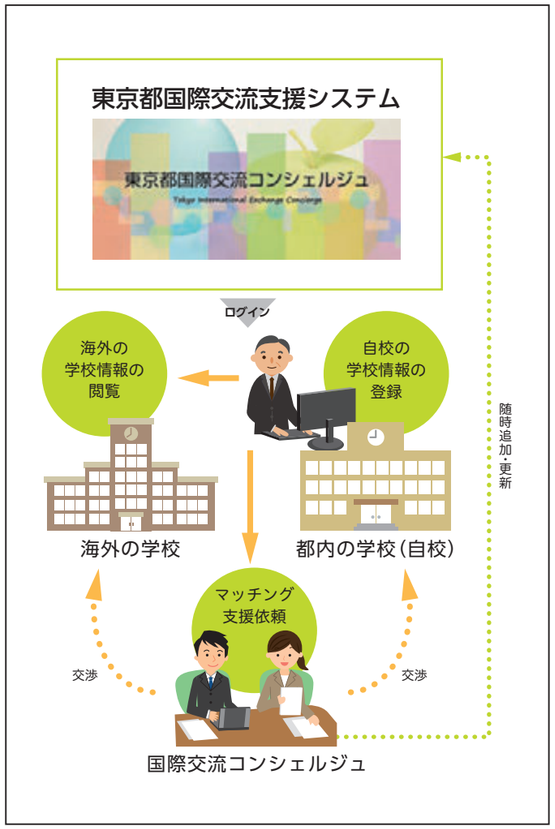
学校の国際交流に係る希望条件やニーズを予め登録しておくことで、条件に見合う海外の学校があった際、コンシェルジュが自動マッチングを行い、案内します。

コンシェルジュへのマッチング・交渉依頼（マッチングリスト他）

システムで海外の学校情報を閲覧した際、具体的にマッチングを希望する学校を見つけた際は、リストに登録することで、コンシェルジュがその調整を行います。

お気に入り登録（お気に入りリスト）

システムで海外の学校情報を閲覧した際、関心がある学校をお気に入りリストに登録することができます。



ログイン方法

1 以下の東京都国際交流コンシェルジュ専用ウェブサイトにアクセスしてください。

www.tiec-edu.metro.tokyo.jp

国際交流コンシェルジュ

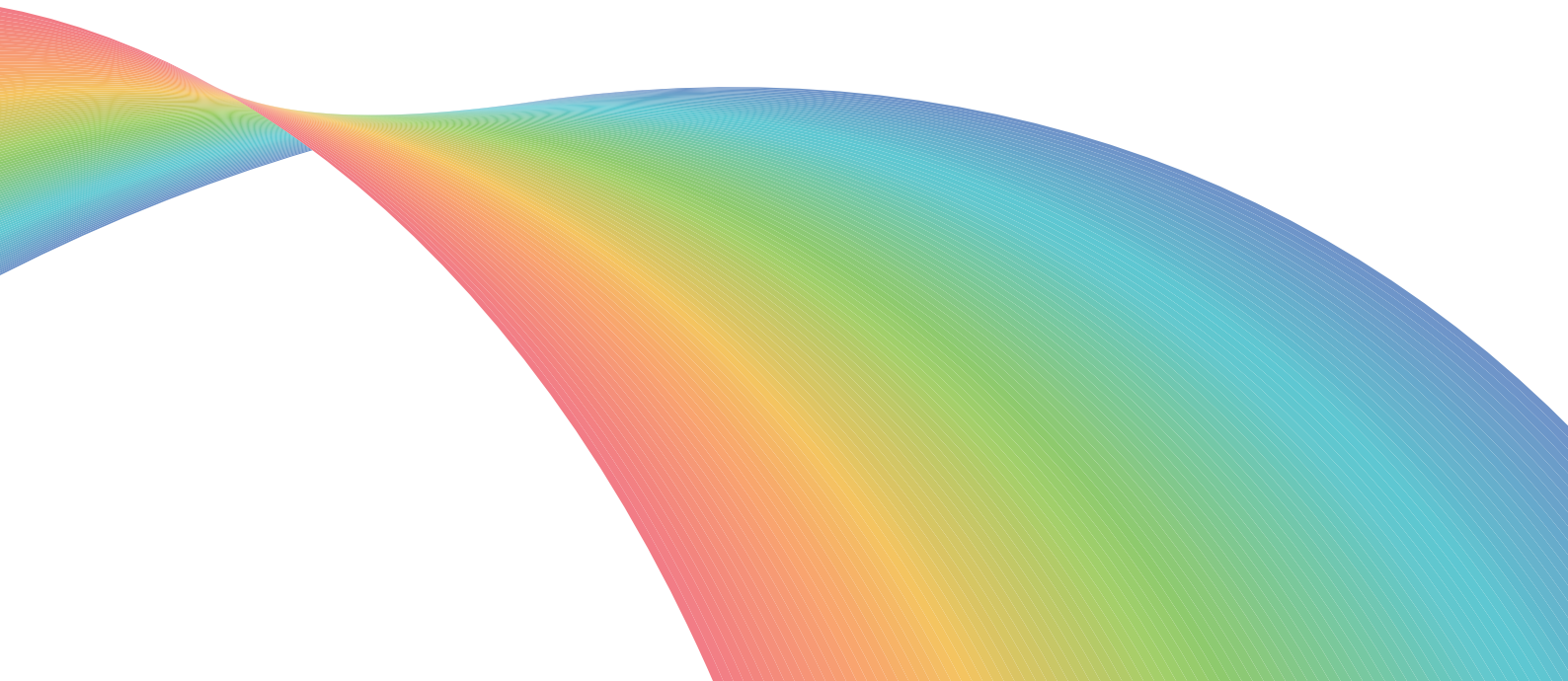
2 「東京都国際交流支援システム」をクリックし、学校専用 ID 及びパスワードを入力の上、ログインしてください。

※学校専用の ID 及びパスワードは事前に通知されています。不明な方はコンシェルジュ事務局にお尋ねください。

3 ログイン成功後、学校トップページに遷移します。

※以下条件の場合は、ログイン時にパスワードの再設定が促されます。
・初回に通知を受けたログイン ID・パスワードで、最初にログインする時。
・パスワードの有効期限（6 ヶ月間）が切れたのち、最初にログインする時。
・パスワード忘れなどで、コンシェルジュから、パスワードの通知を受けたのち、最初にログインする時。

システムの詳細なマニュアルについてはコンシェルジュ事務局にお気軽にお尋ねください。

令和 3（2021）年 3 月
国際交流事例集
東京都教育委員会 印刷物登録
令和 2 年度　第 161 号

編集・発行　東京都教育庁指導部指導企画課
〒 163-8001
東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話 03-5320-7772
印　刷　図書印刷株式会社
〒 114-0001
東京都北区東十条 3-10-36